

1

トラブル解決編

この章では、GP3000 シリーズをご使用いただく際に、困ったことが起こったときの解決策をご紹介します。お困りの内容にそった説明ページへ読み進んでください。

1.1	どんな内容でお困りですか？	1-2
1.2	パソコン操作で困った！	1-3
1.3	表示器本体で困った！	1-43
1.4	接続機器の通信で困った！	1-54
1.5	ユニットとの通信で困った！	1-67
1.6	エラーが表示されたら... (エラーコード一覧).....	1-71
1.7	それでも解決しない場合は... ..	1-139

1.1 どんな内容でお困りですか？

どんな内容でお困りですか？該当するトラブルの内容を以下の表から見つけて各解決手順を参照してください。エラーが表示されており、エラーの内容から対処方法を確認される場合は下記を参照してください。

☞「1.6 エラーが表示されたら... (エラーコード一覧)」(1-71 ページ)

いつ？	困ったこと	トラブルを解決するにはこちらへ
パソコンでソフト (GP-Pro EX) を操作中に	ソフト (GP-Pro EX) がインストールできない	☞「1.2.1 GP-Pro EX がインストールできない」(1-3 ページ)
	ソフト (GP-Pro EX) が起動しない (強制終了する)	☞「1.2.2 GP-Pro EX が起動しない (強制終了する)」(1-9 ページ)
	USB、イーサネットケーブル、CF カード、モデムを使ってプロジェクトファイルが転送できない	☞「1.2.3 プロジェクトファイルを転送できない」(1-12 ページ)
	オンラインアップデートできない	☞「1.2.4 オンラインアップデートできない」(1-31 ページ)
表示器で操作中に	表示器のタッチ (スイッチ) が反応しない	☞「1.3.1 タッチ (スイッチ) が反応しない」(1-43 ページ)
	表示器のタッチ (スイッチ) が押した所と違う所が反応したり、勝手に反応したりする	☞「1.3.2 タッチ (スイッチ) が押した所と違う所が反応する (勝手に反応する)」(1-45 ページ)
	表示器の電源が入らない、または初期画面が表示されない、画面が真っ暗になる	☞「1.3.3 電源が入らない (初期画面が表示されない、画面が真っ暗)」(1-47 ページ)
	ブザー音がずっと鳴っている	☞「1.3.4 ブザー音が鳴り続ける」(1-50 ページ)
	表示器の画面に線、または筋が入る。画面が真っ白になっている。	☞「1.3.5 画面に線 (筋) が入る、画面が真っ白になる」(1-52 ページ)
接続機器と通信中に	すべての画面で通信ができない	☞「1.4.1 すべての画面で通信しない」(1-54 ページ)
	ある特定の画面でのみ通信ができない	☞「1.4.2 ある特定の画面でのみ通信しない」(1-59 ページ)
	通信が遅い	☞「1.4.3 通信が遅い」(1-61 ページ)
	通信が時々とまる	☞「1.4.4 通信が時々止まる」(1-64 ページ)
拡張オプションを使用時に	DIO インターフェイスに接続している機器が ON, OFF しない	☞「1.5.1 DIO インターフェイスに接続している機器が ON、OFF しない」(1-67 ページ)
	FLEX NETWORK ユニット、PROFIBUS (Slave) ユニット、VM ユニットが正常に動作しない場合はまず各ユニットのマニュアルをご覧ください。本章では参照頂くマニュアル名をご案内します。	☞「1.5.2 FLEX NETWORK ユニットまたは PROFIBUS(Slave) ユニットが通信しない、VM ユニットが動作しない」(1-70 ページ)

1.2 パソコン操作で困った！

1.2.1 GP-Pro EX がインストールできない

お使いのパソコンは、GP-Pro EX 動作環境に該当していますか？

GP-Pro EX は以下の動作環境に該当するパソコンにインストールしてください。

パソコン	Windows [®] が正常に動作する PC/AT 互換機
対応 OS	Windows [®] 2000 (Service Pack 3 以上) Windows [®] XP Home Edition および Professional
CPU	Pentium [®] 800MHz 以上 (Pentium [®] 4 1.3GHz 以上推奨)
メモリ	512M バイト以上 (1G バイト以上推奨)
ハードディスクスペース	420M バイト以上 (インストールするために 必要なスペース)

GP-Pro EX は .NET Framework を使用して動作するため、上記 OS のみが対応 OS となります。

Windows[®] に Administrator 権限の持つアカウントでログオンし、インストールしましたか？

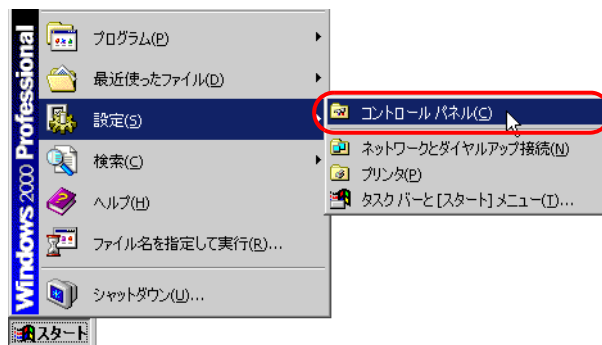
原因

Administrator 権限でログインしていないために、インストールする際に必要なフォルダ等アクセスできない可能性があります。

対処方法

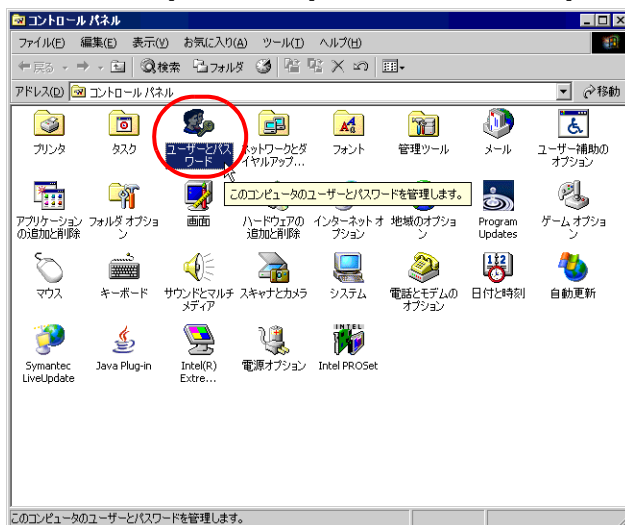
Administrator 権限を持つアカウントでログインし、インストールしてください。

- ・ アカウントの確認方法 (Windows[®] 2000 をご利用の場合)
 - (1) [スタート] ボタンから [設定 (S)] を選択し、[コントロールパネル (C)] をクリックします。

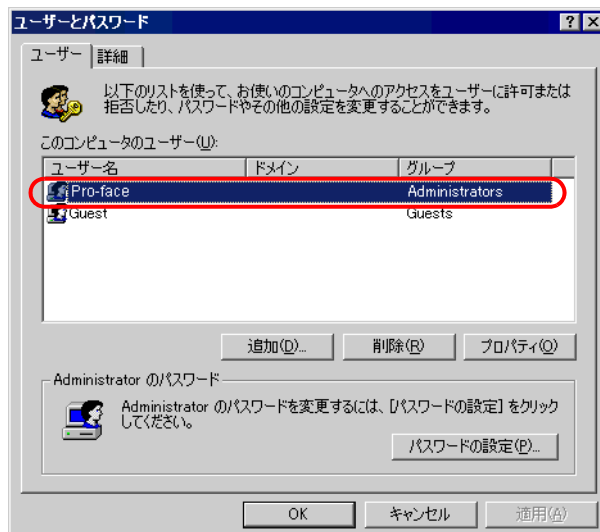


次のページに続きます。

- (2) [コントロールパネル]が開くので[ユーザーとパスワード]を選択します。

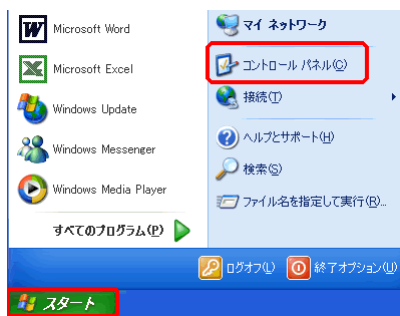


- (3) 次のようなダイアログボックスが表示されます。現在ログオンしているアカウントに Administrator 権限がある場合は、[ユーザー名]の[グループ]に [Administrator] と表示されます。[Guests] が表示されている場合は、他のアカウントでログオンしなしてください。

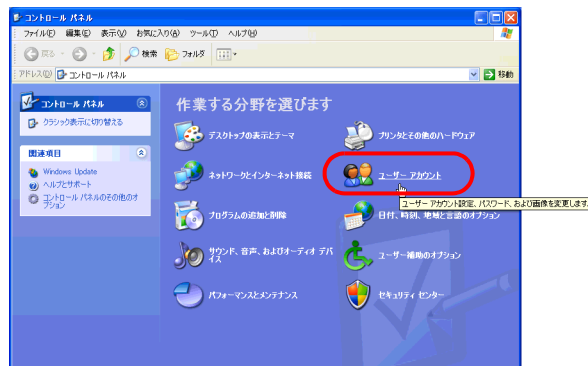


- ・ アカウントの確認方法（Windows® XP をご利用の場合）

(1) [スタート] ボタンから [コントロールパネル (C)] をクリックします。

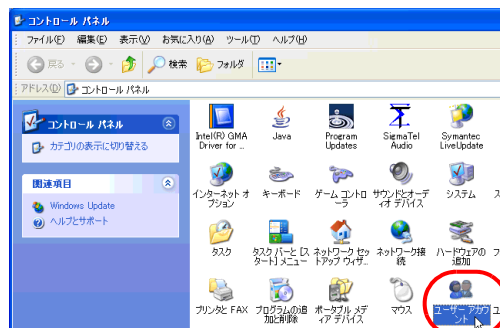


(2) [コントロールパネル] が開くので [ユーザアカウント] を選択します。



MEMO

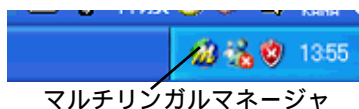
- ・ [コントロールパネル] の表示が [クラシック表示] の場合は下記のような表示になります。



(3) 現在ログオンしているアカウントに Administrator 権限がある場合、アカウント名の下に [コンピュータの管理者] と表示されます。[制限付きアカウント] のアカウントのみ表示される場合は、他のアカウントでログオンしなおしてください。



パソコンに楽々中国語（V2、V2 + 翻訳、V3）、楽々韓国語（V1.5、V2）をインストールされている場合、「マルチリンガルマネージャ」が起動していませんか？



原因

マルチリンガル・マネージャは、オムロンソフトウェア株式会社 から発売されている翻訳ソフト「楽々中国語」、「楽々韓国語」の付属アプリケーションです。「楽々中国語」、「楽々韓国語」をインストールすると、同時にインストールされ、初期設定ではスタートアップに登録されます。タスクトレイに上図のアイコンが表示されていればマルチリンガル・マネージャは起動しています。このマルチリンガルマネージャが起動していると、GP-Pro EX のインストーラが応答待ちとなり、インストール処理が続行されず、止まったように見えます。

対処方法

オムロンソフトウェア株式会社のホームページ（下記 URL）から「マルチリンガル・マネージャ」の改修モジュールをダウンロードし、実行してください。その後 GP-Pro EX のインストールを再度行ってください。

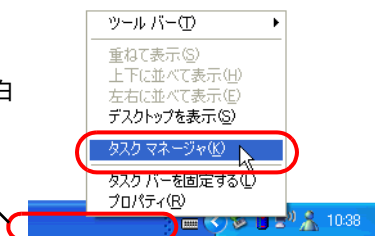
<http://www.omronsoft.co.jp/SP/support/win/raku2ck/cyuui.html>

マルチリンガル・マネージャを起動したままで、GP-Pro EX のインストールを行った場合には次の手順で対処を行った後、上記の改修モジュールをダウンロードしてください。

- ・ 継続ダイアログ、または完了ダイアログでインストーラが止まった場合

- (1) タスクバーの下記の余白を右クリックするとメニューが表示されるので [タスクマネージャ] をクリックします。

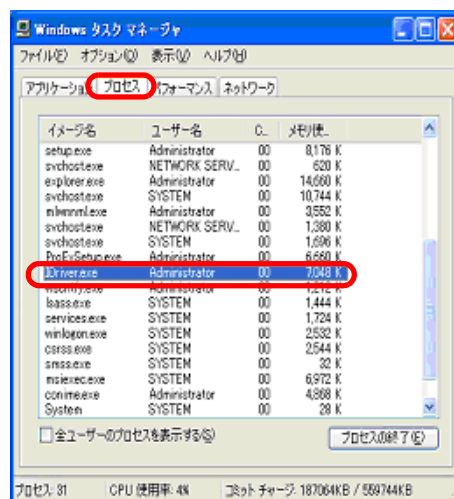
このあたりの余白
を右クリック



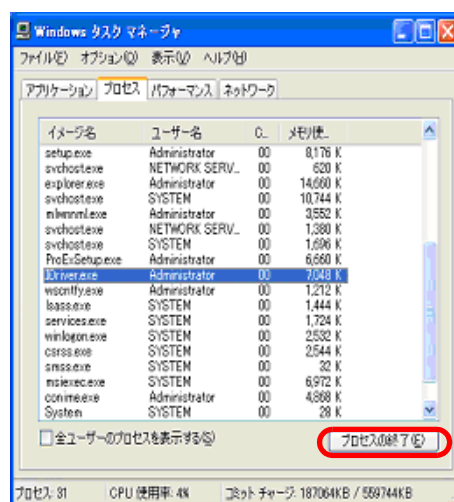
MEMO

- ・ 上記の絵は Windows® XP をご利用の場合の表示ですが、操作は Windows® 2000 も共通です。

- (2) [タスクマネージャ]が開くので、プロセスタブを開き、IDriver.exe を選択します。



- (3) 「プロセスの終了」ボタンをクリックし、IDriver.exe を強制終了してください。



- (4) IDriver.exe を終了すると、残りのインストール処理が行われ、正常に終了します。

次のページに続きます。

- ・ インストーラを起動してもすぐに完了ダイアログが表示される場合

インストール時に強制的にインストーラを終了させると、IDriver.exe、または Windows® Installer が起動したままになり、次にインストーラを起動しようとすると、内部でエラーとなり下記ダイアログが表示され完了してしまいます。



- (1) インストーラを終了させ、パソコンの再起動を行った後、再度インストールを実行してください。

MEMO

- ・ [マルチリンガル・マネージャ]に関わらず、インストール作業（インストール、修復インストール、アンインストール）を行う際は、すべてのアプリケーションを終了して行うようにしてください。
-

1.2.2 GP-Pro EX が起動しない（強制終了する）

エラーメッセージは表示されていませんか？

原因

以下のようなエラーが表示されたら、エディタの複数起動や、バージョンの異なるエディタを複数起動することはできません。



対処方法

同時に起動できるエディタは2つまでです。またバージョンの異なるエディタを複数起動はできないので稼働中のエディタと同じバージョンのものを起動してください。

MEMO

- ・ エラー表示の詳細については下記を参照してください。

☞ 「1.6.1 ソフト (GP-Pro EX) で表示されるエラー 起動」(1-76 ページ)

特定のプロジェクトファイルのみ起動できませんか？

原因

他のプロジェクトファイルは起動し、ある特定のプロジェクトファイルが起動できない場合はそのプロジェクトファイルが壊れている可能性があります。

対処方法

プロジェクトファイルのデータに異常があった可能性があるため、そのデータをコピーして再度転送してください。コピー方法は下記の手順を参照してください。

- ☞ GP-Pro EX リファレンスマニュアル「5.8 他のプロジェクトから画面をコピーしたい」(5-42 ページ)

MEMO

- ・ 「他プロジェクトからのコピー」でコピーできる内容はベース画面の内容とウィンドウ画面の内容のみです。それ以外の内容についてはコピーされないため再度設定する必要があります。

特定の画面を開けると GP-Pro EX が強制終了しますか？

原因

他の画面では問題なく作業が行え、ある特定の画面を開くと GP-Pro EX が強制終了する場合はその特定画面のデータが壊れている可能性があります。

対処方法

画面のデータに異常があった可能性があるため、そのデータを作成しなおしてください。

GP-Pro EX の推奨動作環境になっていますか？

原因

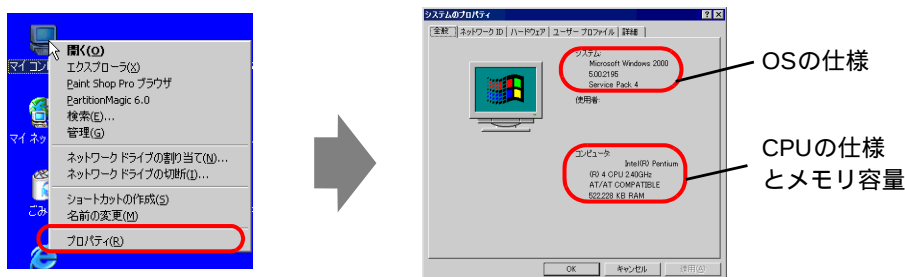
GP-Pro EX の推奨動作環境になっていないと、GP-Pro EX が起動できない場合があります。

対処方法

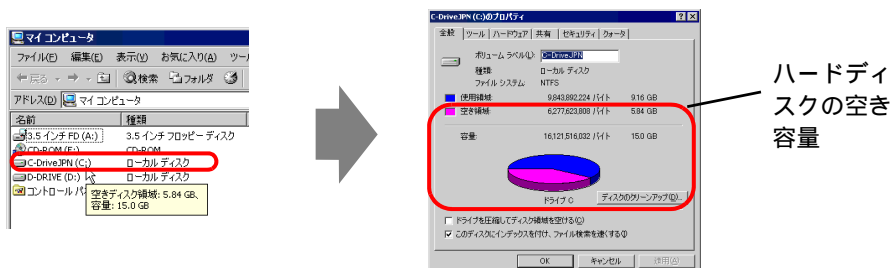
ご使用のパソコンの OS、CPU スペック、メモリ容量、ハードディスク容量などをご確認ください。

MEMO

- デスクトップ上の [マイコンピュータ] を右クリックするとメニューが表示されるので
[プロパティ (R)] を選択します。[システムのプロパティ] が表示されるのでパソコンの情報が動作推奨環境になっているか確認してください。ハードディスクの空き容量は、GP-Pro EX をインストールしているドライブを右クリックし、メニューが表示されたら
[プロパティ (R)] を選択して確認できます。



(例)GP-Pro EXをCドライブにインストールしている場合



- GP-Pro EX 推奨動作環境は以下のとおりです。

パソコン	Windows [®] が正常に動作する PC/AT 互換機
対応 OS	Windows [®] 2000 (Service Pack 3 以上) Windows [®] XP Home Edition および Professional
CPU	Pentium [®] 800MHz 以上 (Pentium [®] 4 1.3GHz 以上推奨)
メモリ	512M バイト以上 (1G バイト以上推奨)
ハードディスクスペース	420M バイト以上 (インストールするために 必要なスペース)

常駐ソフトがインストールされていませんか？

原因

常駐ソフトがインストールされていると GP-Pro EX が起動できない場合があります。

MEMO

- ・「常駐ソフト」とは下記のようにタスクバーに表示され、常に起動している様に設定されているアプリケーションのことです。



対処方法

以下の手順で GP-Pro EX が正常に起動するか確認してください。

- (1) 常駐ソフトがあれば各アイコンを右クリックしてメニューが表示されたらアプリケーションを終了し、GP-Pro EX を再起動してください。
- (2) (1) で改善しない場合は、起動中のアプリケーションをすべて終了して、GP-Pro EX を再起動してください。
- (3) (1) と (2) の手順を行っても GP-Pro EX が起動しない（強制終了する）場合は GP-Pro EX をアンインストールして、再インストールしてください。

MEMO

- ・インストール作業（インストール / 修復インストール / アンインストール）を行う際は、すべてのアプリケーションを終了してから行ってください。

1.2.3 プロジェクトファイルを転送できない

■ USB 転送ケーブルで転送できない

USB ケーブルは弊社オプション品の転送ケーブル（型式：CA3-USBCB-01）ですか？

原因

プロジェクトファイルを転送時の USB ケーブルの型式が違う可能性があります。

対処方法

プロジェクトファイルを USB ケーブルで転送する場合は弊社オプション品の USB 転送ケーブル（CA3-USBCB-01）をご使用ください。

USB ケーブルのドライバはインストールされていますか？

原因

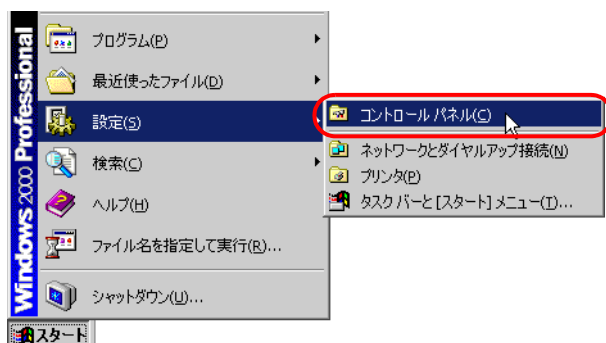
USB ケーブルのドライバが正しくインストールされていない可能性があります。

対処方法

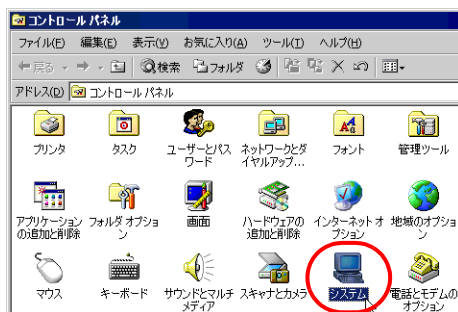
ドライバがインストールされているか、以下の手順でご確認ください。

- ・ドライバのインストール状況確認方法

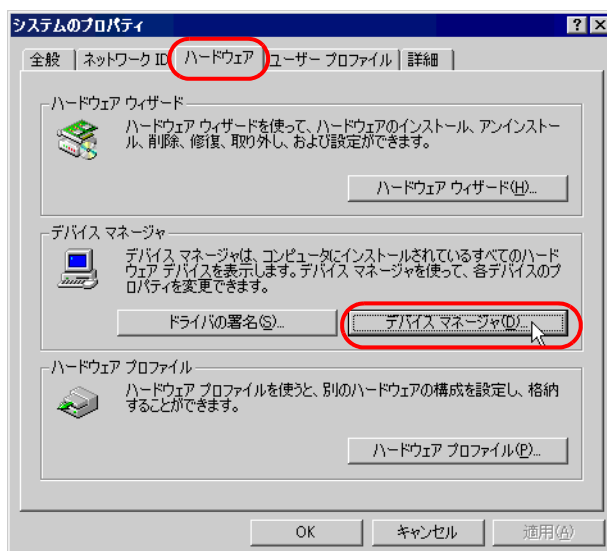
(1) [スタート] ボタンから [コントロールパネル (C)] をクリックします。



(2) [コントロールパネル] が開くので [システム] をダブルクリックします。



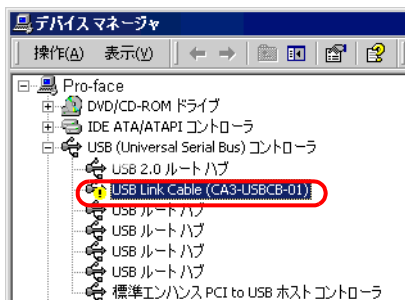
- (3) [システムのプロパティ] が開くので [ハードウェア] タブをクリックし、[デバイスマネージャ (D)] を選択します。



- (4) [デバイスマネージャ] が開くので [USB(Universal Serial Bus) コントローラ] の左横にある [+] マークをクリックします。表示されるリストの中に [USB Link Cable(CA3-USBCB-01)] の項目が表示されていれば、ドライバは正常にインストールされています。

MEMO

- 下記のように [USB Link Cable(CA3-USBCB-01)] の左横に  マークが表示されている場合は、USB ケーブルをパソコンから抜き、再度差し直し、インストールを行ってください。インストール手順については次のページを参照してください。



次のページに続きます。

- ・ドライバのインストール方法

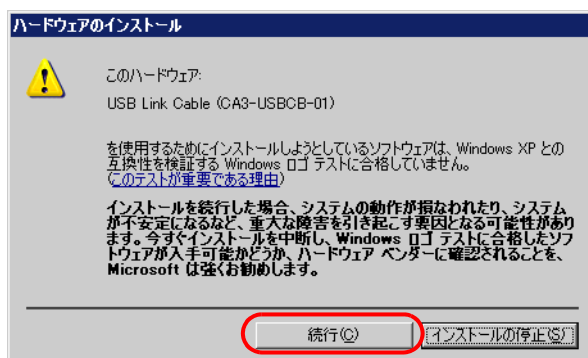
ドライバがインストールされていない場合は、以下の手順で再度インストールしてください。

弊社オプション品の USB 転送ケーブルでパソコンと表示器を接続します。

USB ケーブルのドライバがインストールされていない場合は、ダイアログボックスが表示されますので指示にしたがってインストールしてください。

MEMO

- ・ Windows[®] XP のセキュリティレベルによっては USB ドライバインストール中に下記のような「ハードウェアのインストール」ダイアログボックスが表示されます。
[続行 (C)] をクリックすると CA3-USBCB-01 のドライバのインストールが開始します。インストールが終了したら [完了] をクリックします。



転送中にパスワードをきいてきます。(パスワードを設定されていませんか？)

原因

転送時のパスワードが設定されています。

対処方法

- ・ 送信時のパスワードを忘れた場合

転送時のパスワードを忘れると、解除することはできません。パスワード情報を削除する必要があります。

表示器本体のオフラインにてメモリを初期化してください。

☞ 「2.14.1 表示器共通 ユーザメモリの初期化」(2-96 ページ)

重 要

- ・ 受信時のパスワードを忘れた場合

受信時のパスワードを忘れると受信することができません。表示器以外の場所に保存されているバックアップファイルが残っているかご確認ください。

新規プロジェクトファイルは送信できますか？

原因

新規プロジェクトファイルが表示器に送信できる場合は最初に転送しようとしたプロジェクトファイルのデータに異常があった可能性があります。

対処方法

新規プロジェクトファイルが転送できるか以下を参照し、確認してください。

- (1) 新規プロジェクトファイルを作成します。

☞ GP-Pro EX リファレンスマニュアル 「5.2.2 設定手順 ■ 作成・保存する」(5-12 ページ)

- (2) 新規プロジェクトファイルが転送できる場合は、最初に転送しようとしたプロジェクトファイルのデータに異常があった可能性があるため、そのデータをコピーして再度転送してください。コピー方法は下記の手順を参照してください。

☞ GP-Pro EX リファレンスマニュアル 「5.8 他のプロジェクトから画面をコピーしたい」(5-42 ページ)

MEMO

- ・ 「[他プロジェクトからのコピー]」でコピーできる内容はベース画面の内容とウィンドウ画面の内容のみです。それ以外の内容についてはコピーされないため再度設定する必要があります。

プロジェクトファイルを強制転送できますか？

原因

表示器のシステムに異常が発生し、表示器がフリーズ状態になっていた可能性があります。再送できるので表示器に異常はありません。

強制転送方法

プロジェクトファイルを強制転送する方法は2つあります。プロジェクトファイルを強制転送する手順は以下を参照してください。

☞「2.12.3 プロジェクトファイルを強制転送したい」(2-72 ページ)

パソコンを替えて転送できますか？

原因

パソコンを替えて転送できる場合はパソコン側に原因があると考えられます。

対処方法

・パソコンを替えて転送できる場合

- (1) 最初に転送しようとしていたパソコン側に問題がある可能性があります。USB ケーブルのドライバをアンインストールしてから再インストールしてください。また GP-Pro EX もアンインストールし、再インストールを行ってください。

・パソコンを替えても転送できない場合

- (1) USB ケーブルに問題がある可能性があります。LAN や CF カードなど他の転送方法でプロジェクトファイルを転送してください。

☞ GP-Pro EX リファレンスマニュアル「33.3 イーサネット (LAN) で転送したい」(33-12 ページ)

☞ GP-Pro EX リファレンスマニュアル「33.7 CF カードや USB ストレージを使って転送したい」(33-36 ページ)

■ イーサネットケーブルで転送できない

表示器本体のオフライン画面にて表示器の IP アドレスは設定されていますか？

原因

イーサネットケーブルで転送する場合は表示器に IP アドレスを設定する必要があります。

対処方法

表示器に IP アドレスを設定してください。

☞ 「2.5.1 表示器に IP アドレスを設定したい」(2-38 ページ)

パソコンの IP アドレスは設定されていますか？

原因

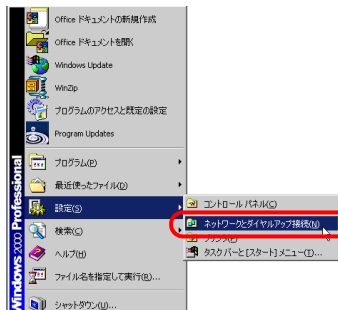
イーサネットケーブルで転送する場合はパソコンに IP アドレスを設定する必要があります。

対処方法

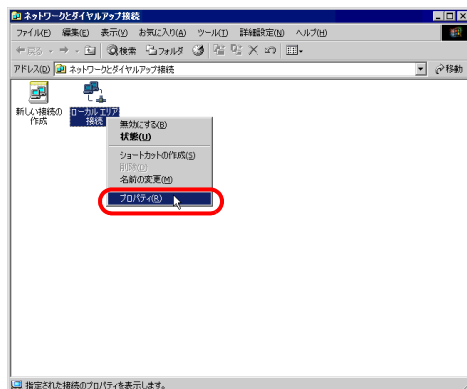
パソコンに IP アドレスを設定してください。

- ・ パソコンに IP アドレスを設定する

- (1) [スタート]メニューより[設定(S)]を開き[ネットワークとダイヤルアップ接続(N)]を選択します。

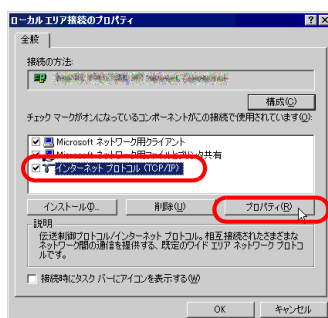


- (2) [ネットワークとダイヤルアップ接続]が表示されます。[ローカルエリア接続]のアイコンを右クリックし、メニューが表示されたら[プロパティ(R)]を選択します。



次のページに続きます。

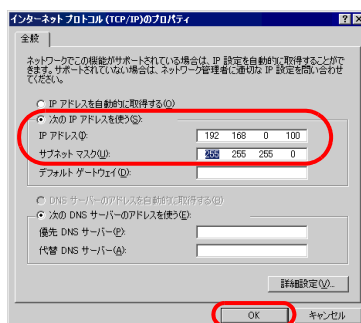
- (3) [ローカルエリア接続のプロパティ] が表示されるので [インターネットプロトコル (TCP/IP)] を選択し、[プロパティ (R)] ボタンをクリックします。



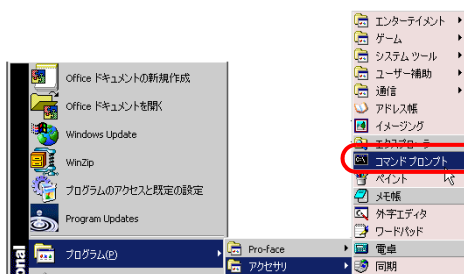
- (4) [次の IP アドレスを使う (S)] を選択し、IP アドレス、サブネットマスクを設定します。
(例：192.168.0.100、255.255.255.0) [OK] ボタンをクリックし、設定完了です。

MEMO

- ・ IP アドレスの設定等についてはネットワーク管理者の方にご連絡ください。

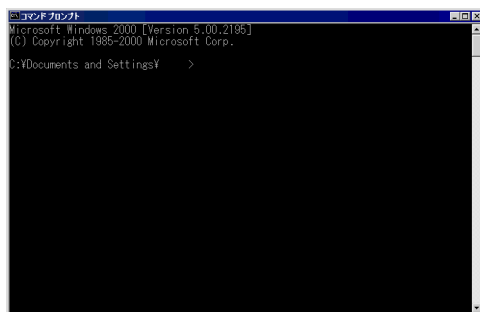


- ・ パソコンに IP アドレスが正確に設定されているか確認する
コマンドプロンプトにて IPCONFIG コマンドを実行する
- (1) [スタート] メニューより [プログラム (P)] を開き [アクセサリ] を選択します。

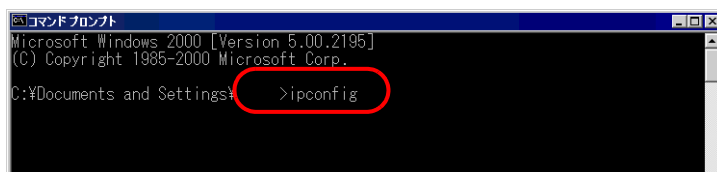


次のページに続きます。

- (2) [アクセサリ] から、[コマンドプロンプト] を選択すると次のような画面が表示されます。



- (3) 画面に表示された、C:\Documents and Settings\¥(コンピュータ名) の後に「ipconfig」と入力し Enter キーを押します。



- (4) コマンドの実行の結果が表示されるので設定した IP アドレスと一致しているかどうか確認します。一致しない場合はコンピュータを再起動してください。



イーサネットケーブルはストレートケーブルですか？クロスケーブルですか？

原因

ストレートケーブルをご利用の場合は HUB を介さずに表示器とパソコンが接続されている可能性があります。クロスケーブルによる、1:1 接続ではパソコンやネットワークカードによって使用できない場合があります。

対処方法

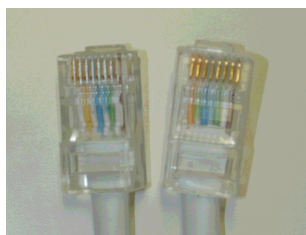
ストレートケーブルをご利用の場合は HUB を介して接続してください。

クロスケーブルによる、1:1 接続ではパソコンやネットワークカードによって使用できない場合があるため必ずストレートケーブルと HUB を使用して接続してください。

・ストレートケーブルとクロスケーブルの見分け方

ケーブルの両端先端を並べたときに、ストレートケーブルはどちらのコネクタも左側から同じ色の信号線が結線されています。クロスケーブルは、信号線の色並びが左右のコネクタで異なります。また信号線の色はご使用のケーブルにより異なるため下記は一例です。

ストレートケーブル



左から「白黄白青白緑白」「白黄白青白緑白」と同じ並びになっています。

クロスケーブル



左から「黒オレンジ青白緑黒」「黒緑白青オレンジ黒」と同じ並びではありません。

コマンドプロンプトで PING コマンドを実行すると表示器の IP アドレスは見つかりますか？

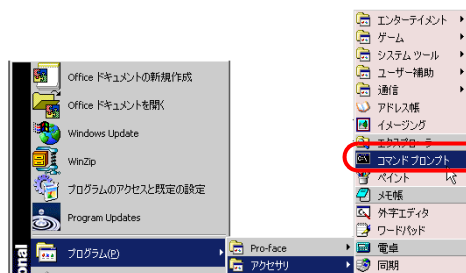
原因

イーサネットケーブルがささっていない、表示器側でイーサネットケーブル差し込み口を認識していないなどの原因で表示器がネットワークに参加していない可能性があります。

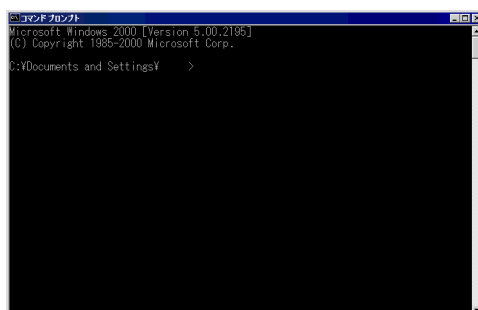
対処方法

- ・ コマンドプロンプトで PING コマンドを実行する

(1) [スタート]メニューより[プログラム(P)]を開き[アクセサリ]を選択します。



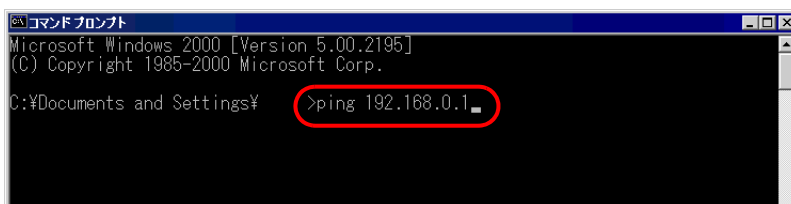
(2) [アクセサリ]から、[コマンドプロンプト]を選択すると次のような画面が表示されます。



(3) 画面に表示された、C:\Documents and Settings¥(コンピュータ名) の後に「ping 192.168.0.1(表示器の IP アドレス)」と入力し Enter キーを押します。

MEMO

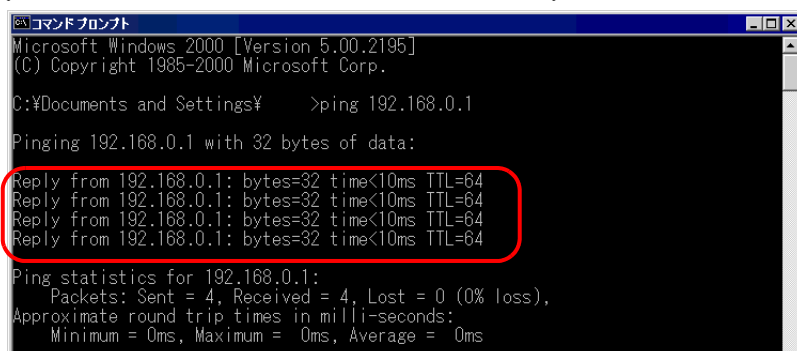
- ・ IP アドレスの設定等についてはネットワーク管理者の方にご連絡ください。



(4) コマンドの実行の結果が表示されるので設定した表示器の IP アドレスから返答があった場合はポート番号を表示器のポート番号が 8000 に設定されているか確認してください。IP アドレスが見つからない場合はケーブルや HUB を交換してください。

次のページに続きます。

(表示器のIPアドレスから返答があった場合の表示)



```
コマンドプロンプト
Microsoft Windows [Version 5.00.2195]
(C) Copyright 1985-2000 Microsoft Corp.

C:\Documents and Settings\¥>ping 192.168.0.1

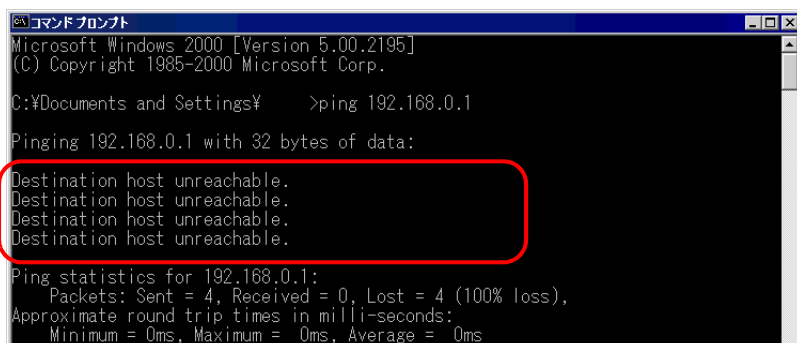
Pinging 192.168.0.1 with 32 bytes of data:

Reply from 192.168.0.1: bytes=32 time<10ms TTL=64
Reply from 192.168.0.1: bytes=32 time<10ms TTL=64
Reply from 192.168.0.1: bytes=32 time<10ms TTL=64
Reply from 192.168.0.1: bytes=32 time<10ms TTL=64

Ping statistics for 192.168.0.1:
    Packets: Sent = 4, Received = 4, Lost = 0 (0% loss),
    Approximate round trip times in milli-seconds:
        Minimum = 0ms, Maximum = 0ms, Average = 0ms
```

(表示器のIPアドレスから返答がなかった場合の表示)

上記以外の以下のようなメッセージが表示されます。(メッセージは接続状況により表示されるメッセージは異なります。) ネットワーク管理者に設定を確認してください。



```
コマンドプロンプト
Microsoft Windows [Version 5.00.2195]
(C) Copyright 1985-2000 Microsoft Corp.

C:\Documents and Settings\¥>ping 192.168.0.1

Pinging 192.168.0.1 with 32 bytes of data:

Destination host unreachable.
Destination host unreachable.
Destination host unreachable.
Destination host unreachable.

Ping statistics for 192.168.0.1:
    Packets: Sent = 4, Received = 0, Lost = 4 (100% loss),
    Approximate round trip times in milli-seconds:
        Minimum = 0ms, Maximum = 0ms, Average = 0ms
```

ファイアウォールが設定されていませんか？

原因

Microsoft Windows XP Service Pack 2 を使用されている場合は、転送ツールを起動すると Windows ファイアウォールでブロックされているというメッセージが表示されます。

対処方法

ブロックを解除すればそのまま転送の作業ができます。ただし、複数台の GP に転送を行う場合は、[転送設定] ダイアログボックスの [通信ポートの設定] で [PASV] を設定するか、ファイアウォールを無効にしてください。

LAN カードを 2 枚以上使用されていませんか？

原因

LAN カードを 2 枚以上使用しているパソコンでは、IP アドレスの自動検索をしても目的の GP を検出できない場合があります。これは OS が先に見つけた LAN カードに接続されている GP を検索するためです。

対処方法

プロジェクト送信をクリックした後、表示される [本体の選択] ダイアログボックスで [追加] をクリックし、転送したい GP の IP アドレスを手動で設定してください。

常駐ソフトがインストールされていませんか？

原因

常駐ソフトがインストールされていると転送できない場合があります。

MEMO

- ・「常駐ソフト」とは下記のようにタスクバーに表示され、常に起動している様に設定されているアプリケーションのことです。



対処方法

常駐ソフトがあれば各アイコンを右クリックしてメニューが表示されたらアプリケーションを終了して再度転送してください。

次のページに続きます。

表示器の自己診断においてイーサネットインターフェイスの診断結果は OK ですか？

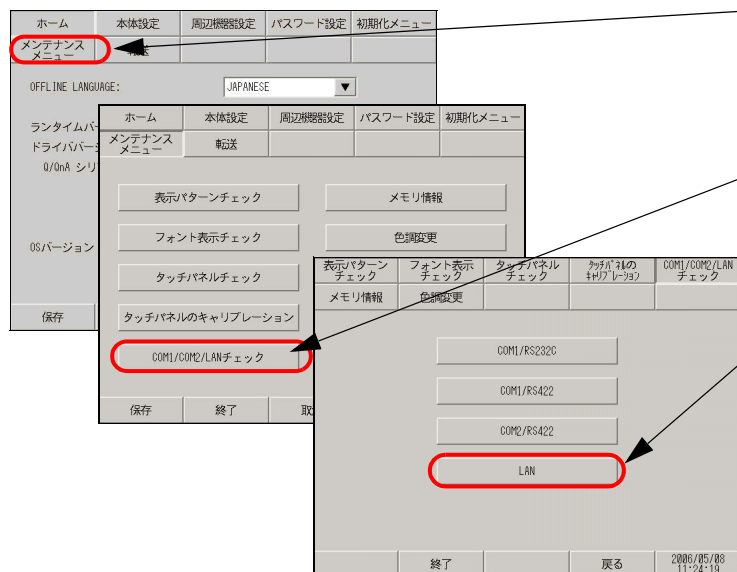
原因

イーサネットの接続口に異常がある場合接続できません。

対処方法

- ・ 表示器の自己診断においてイーサネットインターフェイスをチェックします。オフラインモードへの入り方は下記を参照してください。

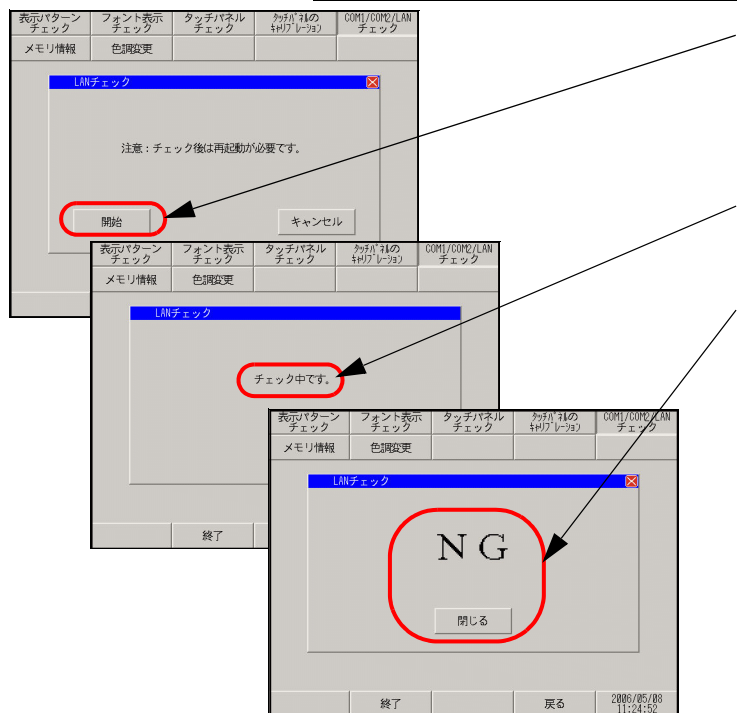
☞ 「2.2.1 オフラインモードへの入り方」(2-14 ページ)



オフラインモードに入り、項目切り替えスイッチから[メンテナンスメニュー]をタッチします。

[メンテナンスメニュー]が開くので[COM1/COM2/LANチェック]をタッチします。

[COM1/COM2/LANチェック]が開くので[LAN]をタッチします。



次のような確認メッセージが表示されるので[開始]をタッチします。

チェック中は次のようなメッセージが表示されます。

チェックの結果、[OK]と表示された場合は、パソコン側のセキュリティソフトや常駐ソフトをすべて終了し、再度プロジェクトファイルを転送してください。[NG]と表示された場合は本体故障が考えられます。修理センターに配送してください。

☞ 「1.7.3 修理しよう！」
(1-140 ページ)

転送中にパスワードをきいてきます。(パスワードが設定されていませんか？)

原因

転送時のパスワードが設定されています。

対処方法

- ・ 送信時のパスワードを忘れた場合

転送時のパスワードを忘れると、解除することはできません。パスワード情報を削除する必要があります。

表示器本体のオフラインにてメモリを初期化してください。

☞「2.14.1 表示器共通 ユーザメモリの初期化」(2-96 ページ)

重 要

- ・ 受信時のパスワードを忘れた場合

受信時のパスワードを忘れると受信することができません。表示器以外の場所に保存されているバックアップファイルが残っているかご確認ください。

■ CF カードで転送できない (CF メモリローダツールを使用する)

エラーコードは表示されていますか？

原因

CF カードが GP に挿入されていない場合や、CF カードのカバーが開いている場合はエラーメッセージ「RAAA010 CF カードが挿入されていません。または CF カードのハッチが開いていません」が表示され、プロジェクトファイルをダウンロードできません。

対処方法

CF カードが正しく挿入されているかまたは CF カードのカバーが閉じているか確認してください。

- ・ 上記の内容を確認してもダウンロードできない場合
(株) デジタル製 CF カード (別売品) を使用されているかご確認ください。

CF カードが NTFS 形式でフォーマットされていませんか？

原因

パソコンで CF カードが NTFS 形式でフォーマットされている場合、表示器では認識されません。

対処方法

パソコンにて FAT32 または FAT 形式にて再度フォーマットしてください。

CF カードの中のデータと一緒にメモリローダツールも作成されていますか？

原因

GP からパソコンにプロジェクトファイルがアップロードできない場合、CF カードの中に正しくメモリローダツールが作成されていない可能性があります。

対処方法

転送ツールの [メモリローダ] で [起動 CF カードの作成] を行い、CF カードにメモリローダツールが保存されているか確認してください。

- 🔗 GP-Pro EX リファレンスマニュアル「33.7.2 転送手順 ■ GP からパソコン (または他の GP) にプロジェクトファイルを転送する」(33-43 ページ)

バックアップデータは作成されていますか？

原因

パソコンから GP にプロジェクトファイルがダウンロードできない場合、CF カードの中に正しくバックアップデータが作成されていない可能性があります。

対処方法

転送ツールの [メモリローダ] で [バックアップデータの作成] を行い、CF カードに作成されたバックアップデータのすべてのファイルやフォルダが CF カードに保存されているか確認してください。バックアップデータの作成方法は下記を参照してください。

- 🔗 GP-Pro EX リファレンスマニュアル「33.7.2 転送手順 ■ パソコンから GP にプロジェクトファイルを転送する」(33-37 ページ)

転送中にパスワードをきいてきます。(パスワードが設定されていませんか？)

原因

ダウンロード時のパスワードが設定されています。

対処方法

- ・ ダウンロード時のパスワードを忘れた場合
ダウンロード時のパスワードを忘れると、解除することはできません。パスワード情報を削除する必要があります。

表示器本体のオフラインにてメモリを初期化してください。

☞「2.14.1 表示器共通 ユーザメモリの初期化」(2-96 ページ)

重 要

- ・ アップロード時のパスワードを忘れた場合
アップロード時のパスワードを忘れると受信することができません。表示器以外の場所に保存されているバックアップファイルが残っているかご確認ください。
-

■ モデムで転送できない

エラーメッセージは表示されていませんか？

原因

モデム転送では画面のみ転送できます。システムの転送はできません。
また以下の内容でプロジェクトファイルが更新された場合も転送できません。

- ・システム設定が変更された場合
- ・プロトコルの構成、設定が変更された場合
- ・転送元と、転送先のランタイムシステム、プロトコルバージョンが一致しない場合
- ・プロジェクトまたは編集エディタのバージョンが異なる場合
- ・転送元と、転送先のフォントの種類が一致しない場合
- ・転送元と、転送先の I/O ドライバの種類またはバージョンが一致しない場合

対処方法

表示されたエラーメッセージダイアログボックスを閉じて、変更した設定内容を変更前に戻して再度プロジェクトファイルを転送するか、USB 転送ケーブル、LAN ケーブルなどを使用して直接データを転送してください。

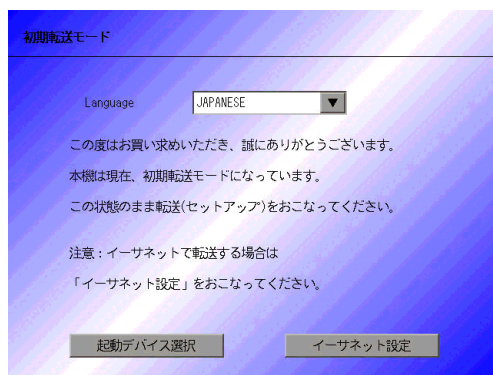
MEMO

- ・エラー表示の詳細については下記を参照してください。

☞「1.6.1 ソフト (GP-Pro EX) で表示されるエラー モデム転送時のエラー」(1-109 ページ)

表示器が以下の状態になっていませんか？

■ 表示器がお買い上げの画面になっている場合



原因

ランタイムプログラムが入っていないのでモデムを認識することができません。

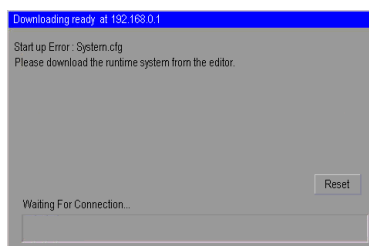
対処方法

USB、LAN などで先にプロジェクトファイルを転送してください。

- ☞ GP-Pro EX リファレンスマニュアル「33.2 USB 転送ケーブルで転送したい」(33-5 ページ)
- ☞ GP-Pro EX リファレンスマニュアル「33.3 イーサネット (LAN) で転送したい」(33-12 ページ)

次のページに続きます。

■ 起動したらいきなり強制転送画面になっている場合



原因

ランタイムプログラムが動作するために必要なデータが失われている可能性があります。

対処方法

USB、LAN などでは先にプロジェクトファイルを転送してください。

- ☞ GP-Pro EX リファレンスマニュアル「33.2 USB 転送ケーブルで転送したい」(33-5 ページ)
- ☞ GP-Pro EX リファレンスマニュアル「33.3 イーサネット (LAN) で転送したい」(33-12 ページ)

以下のようなモデムを使用されていませんか？

使用不可モデム

以下のようなモデムは使用できません。

- ・ 表示器の受け側がアナログモデムとなるため、パソコン側で ISDN 回線用のターミナルアダプタなどは使用できません。
- ・ 株式会社ウィルコム (旧 DDI ポケット株式会社) の Air'H などセンターに接続してから使用できるモデムは使用できません。

使用可能なモデム

使用できるのは以下のようなモデムです。

- ・ GP 側に接続できるモデムは RS-232C のモデムのみです。
- ・ Windows[®] 対応モデムで、モデムとモデムの間を電話回線で接続できる
- ・ AT コマンドがサポートされている
- ・ GP 側で自動着信ができる
- ・ ハードウェアフロー制御ができる
- ・ コマンドからの応答 [リザルト] で文字列を返すことができる

モデムと表示器は正しく接続されていますか？

原因

USB - シリアル変換ケーブルが必要です。ケーブルがモデム側、表示器側から抜けている可能性があります。またモデムの電源が入っていない可能性があります。

対処方法

モデムが正しく接続されているか確認してください。(表示器 → シリアル変換ケーブル → モデム) またモデムに電源が入っているか確認してください。GP とモデムとの接続には、(株) デジタル製 USB- シリアル (232C) 変換ケーブル「CA6-USB232-01」(別売品) または以下の変換ケーブルをご使用ください。

メーカー：株式会社アイ・オー・データ機器 型式：USB-RSAQ3

パソコンで正しくモデムは設定されていますか？

GP-Pro EX 側

「転送設定」ダイアログボックスで正しくモデムが設定されているか、設定電話番号は間違っていないか確認してください。

Windows® 側

「コントロールパネル」の「電話とモデムのオプション」で使用モデムに合わせた設定になっているか確認してください。詳細はモデムのマニュアルを参照してください。

1.2.4 オンラインアップデートできない

アップデート項目選択後、インストール、ダウンロードが選択できますか？またはスクリプトエラーが表示されていますか？

オンラインアップデートとは

GP-Pro EX がインターネットに自動的に接続し、GP-Pro EX の最新バージョンへ更新する機能です。オンラインアップデートの手順は下記を参照してください。

☞ GP-Pro EX リファレンスマニュアル「2.2.1 オンラインアップデート操作手順」(2-19 ページ)

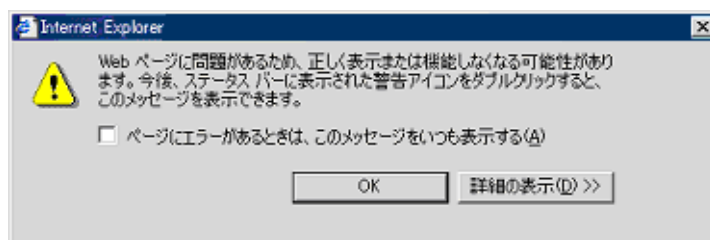
原因

Internet Explorer のセキュリティ設定で、アップデートサービスのサーバーへのアクセスがブロックされています。アップデートサービスの画面が表示された後、次のような現象が発生し、アップデートが行えない場合があります。

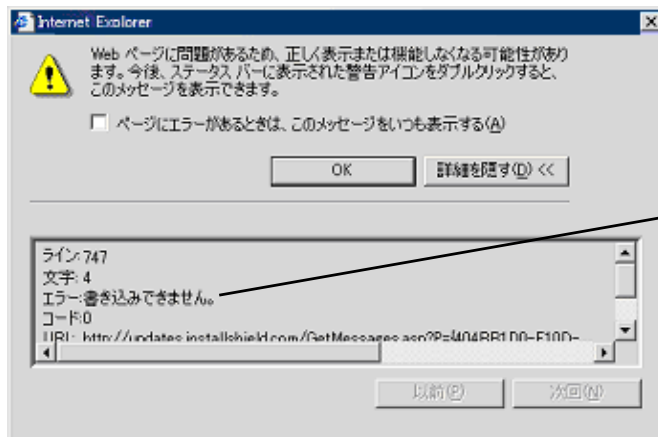
- ・ アップデート項目は表示されるが、項目を選択しても「インストール」または「ダウンロード」ボタンが選択できない。
- ・ アップデート項目を表示中に、スクリプトエラーが表示される。(下図の例 1 ~ 例 3 を参照)
- ・ アップデート項目選択時に、スクリプトエラーが表示される。(下図の例 1 ~ 例 3 を参照)

下図例 1 ~ 例 3 のエラーは一例です。Internet Explorer の設定や接続されているネットワークの環境により異なるエラーが表示されます。

例 1)



例 2)



ラインNoやエラー内容は環境により異なります。

次のページに続きます。

例 3)

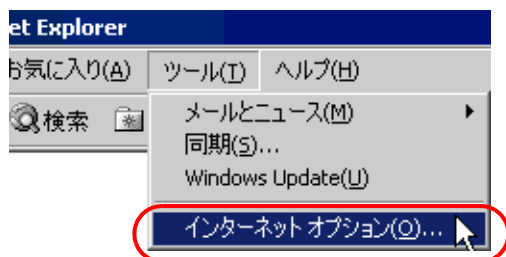


ラインNoやエラー
内容は環境により異
なります。

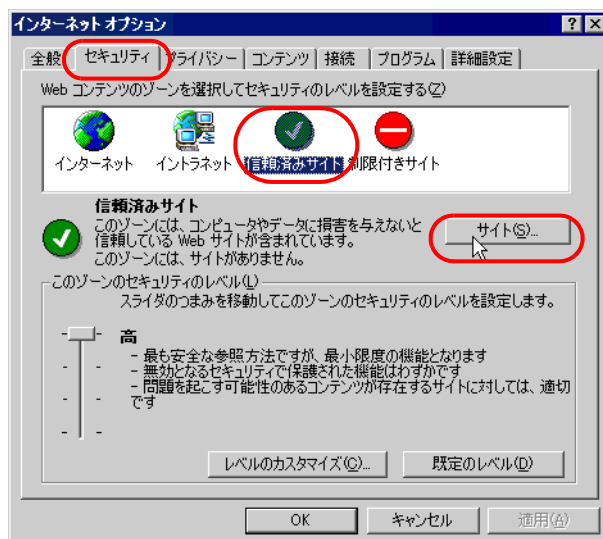
対処方法

Internet Explorer のセキュリティ設定で、[信頼サイト] にアップデートサーバーの URL を設定し、アップデートサーバーとの通信を有効にした後、GP-Pro EX の更新を行ってください。

(1) Internet Explorer の [ツール (T)] から [インターネットオプション (O)] を選択します。

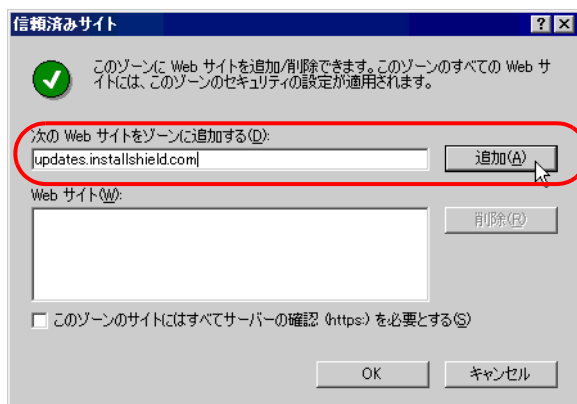


(2) [インターネットオプション] ダイアログボックスが開くので [セキュリティ] タブを開き [信頼済みサイト] を選択します。[サイト (S)] ボタンをクリックします。



次のページに続きます。

- (3) [信頼済みサイト] ダイアログボックスで [次の Web サイトをゾーンに追加する (D)] にアップデートサービスの URL(updates.installshield.com) を入力し、[追加 (A)] ボタンをクリックします。



MEMO

- ・ [このゾーンのサイトにはすべてサーバーの確認 (https:) を必要とする (S)] のチェックボックスは OFF にしてください。

- (4) [OK] ボタンをクリックし、[信頼済みサイト] ダイアログボックスと [インターネットオプション] ダイアログボックスを閉じます。再度オンラインアップデートを行ってください。

1.2.5 パススルー機能設定ツールが起動しない

パススルー機能設定ツール動作環境に該当していますか？

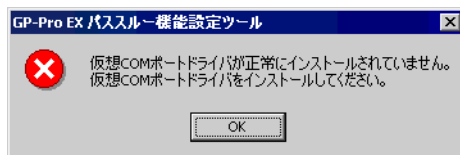
以下の表でパススルー機能設定ツール動作環境に該当しているか確認してください。

	必要な仕様	備考
表示器機種	GP3000 シリーズ全機種	
OS	- Windows®2000(Service Pack4 以上) - Windows®XP	
作画ソフト	GP-Pro EX Ver.1.10 以上 ランタイムバージョン Ver.1.10.00 以上	
接続機器ドライバ	三菱電機（株）製 QnA シリーズ CPU 直結 （プロトコルバージョン：Ver.1.10.02 以上） Q シリーズ CPU 直結 （プロトコルバージョン：Ver.1.10.02 以上） QUTE シリーズ CPU 直結 （プロトコルバージョン：Ver.1.10.02 以上）	各シリーズの対応 CPU 型式は機器接続マニュアルを参照してください。  機器接続マニュアル
三菱電機（株）製 MELSEC シーケンサブプログラミングソフトウェア「GX Developer」	使用するパソコンの OS が、 (Windows®2000 の場合) SW7D5C-GPPW 形 GPP 機能ソフトウェア パッケージ以上 (Windows®XP の場合) SW8D5C-GPPW 形 GPP 機能ソフトウェア パッケージ以上	
ケーブル	USB 転送ケーブル （株）デジタル製 AGP-USBCB-01(別売品) 市販の LAN ケーブル （イーサネットケーブル）	

[パススルー機能設定ツール]をダブルクリックすると、メッセージが表示されますか？

原因

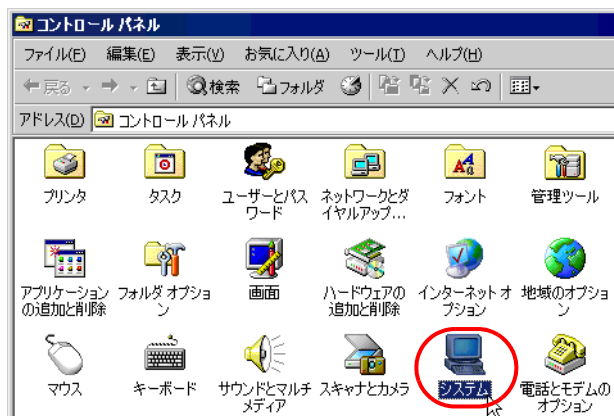
[パススルー機能設定ツール]を起動しようとすると、以下のようなエラーメッセージが表示される場合は、仮想 COM ドライバがインストールできていない可能性があります。



対処方法

8 つの COM が登録されているか確認してください。

- (1) [スタート] から [設定 (S)] - [コントロールパネル (C)] - [システム] をダブルクリックします。

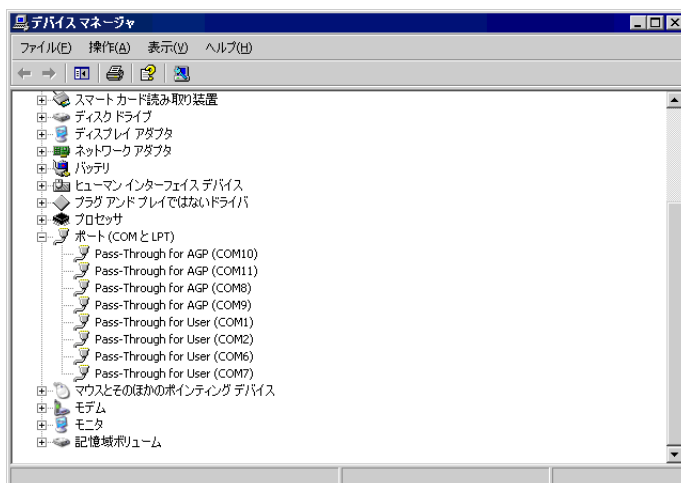


- (2) [システムのプロパティ] が開くので [ハードウェア] タブをクリックし、[デバイスマネージャ (D)] を起動します。



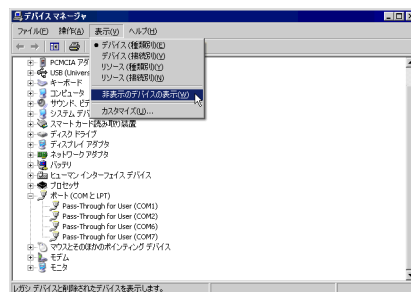
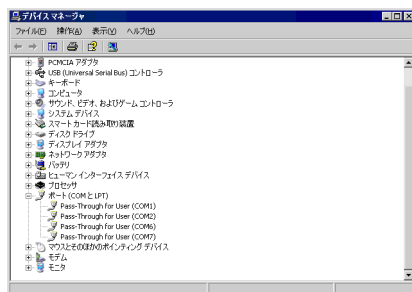
次のページに続きます。

(3) [ポート (COM と LPT)] で、8 つの COM が登録されているか確認してください。



MEMO

- ・ [デバイスマネージャ] の [Pass-Through for User] で 4 つの COM のみ表示されている場合
[表示 (V)] から [非表示のデバイスの表示 (W)] を選択し 8 つすべての COM を表示してください。



- ・ [デバイスマネージャ] で、[Pass-Through for AGP] が 4 つと [Pass-Through for User] が 4 つで表示されていない場合 (5 つと 3 つなど)
[パススルー機能設定ツール] と、仮想 COM ドライバをアンインストールしてください。

仮想 COM ドライバをアンインストールする場合は、必ず下記の [パススルー機能設定ツール] ガイドを参照し、手順をよくご確認いただきながらアンインストールを行ってください。

- ・ [パススルー機能設定ツール] のインストール作業
☞ 機器接続マニュアル「パススルー機能ガイド」2 インストール
- ・ [パススルー機能設定ツール] のアンインストール作業
☞ 機器接続マニュアル「パススルー機能ガイド」5 付録 5.1 仮想 COM パスドライバ / 仮想 COM ポートドライバのアンインストール

1.2.6 パススルー機能でパソコンと交信できません

以下の表でパススルー機能設定ツール動作環境に該当しているか確認してください。

	必要な仕様	備考
表示器機種	GP3000 シリーズ全機種	
OS	- Windows®2000(Service Pack4 以上) - Windows®XP	
作画ソフト	GP-Pro EX Ver.1.10 以上 ランタイムバージョン Ver.1.10.00 以上	
接続機器ドライバ	三菱電機（株）製 QnA シリーズ CPU 直結 （プロトコルバージョン：Ver.1.10.02 以上） Q シリーズ CPU 直結 （プロトコルバージョン：Ver.1.10.02 以上） QUTE シリーズ CPU 直結 （プロトコルバージョン：Ver.1.10.02 以上）	各シリーズの対応 CPU 型式は機器接続マニュアルを参照してください。  機器接続マニュアル
三菱電機（株）製 MELSEC シーケンサプログラミングソフトウェア「GX Developer」	使用するパソコンの OS が、 (Windows®2000 の場合) SW7D5C-GPPW 形 GPP 機能ソフトウェア パッケージ以上 (Windows®XP の場合) SW8D5C-GPPW 形 GPP 機能ソフトウェア パッケージ以上	
ケーブル	USB 転送ケーブル (株) デジタル製 AGP-USBCB-01(別売品) 市販の LAN ケーブル (イーサネットケーブル)	

GP と接続機器は通信していますか？

原因

GP と接続機器が通信していない可能性があります。

対処方法

通信エラーが GP に表示されている場合は、通信エラーを確認してください。

エラー表示の詳細、対処方法については下記を参照してください。

☞「1.6.2 表示器で表示されるエラー 接続がうまくいかないときに出るエラー」(1-113 ページ)

パソコンと表示器は USB 転送ケーブルでつながっていますか？

原因

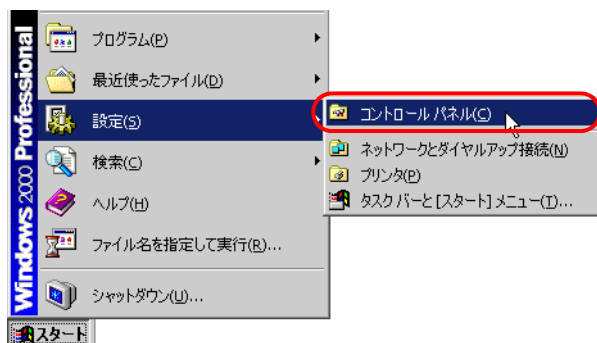
プロジェクトファイルを転送時の USB ケーブルの型式が違う、または USB ケーブルのドライバが正しくインストールされていない可能性があります。

対処方法

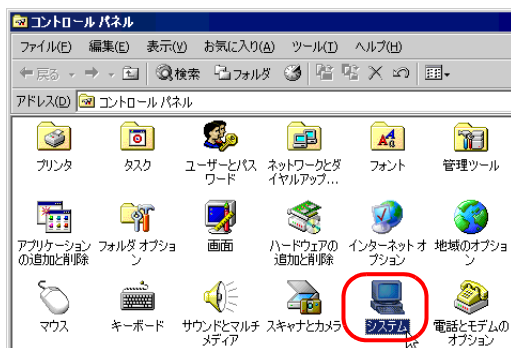
プロジェクトファイルを USB ケーブルで転送する場合は弊社オプション品の USB 転送ケーブル (CA3-USBCB-01) をご使用ください。また USB ケーブルのドライバが正しくインストールされていない可能性がありますので、以下の手順でご確認ください。

・ドライバのインストール状況確認方法

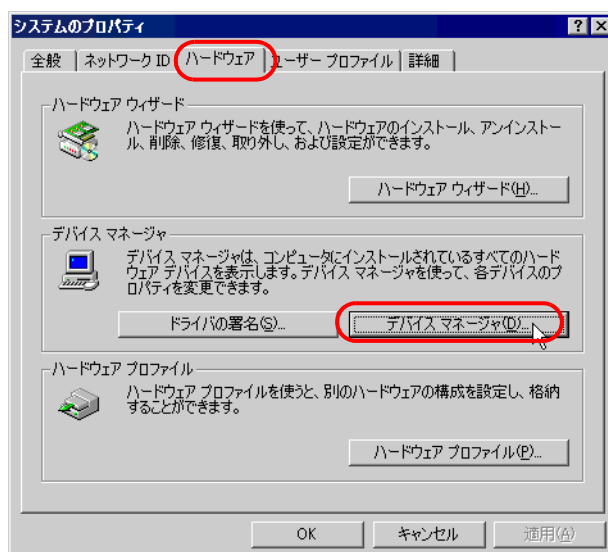
(1) [スタート] ボタンから [コントロールパネル (C)] をクリックします。



- (2) [コントロールパネル]が開くので[システム]をダブルクリックします。



- (3) [システムのプロパティ]が開くので[ハードウェア]タブをクリックし、[デバイスマネージャ (D)]を選択します。



- (4) [デバイスマネージャ]が開くので[USB(Universal Serial Bus) コントローラ]の左横にある[+]マークをクリックします。表示されるリストの中に[USB Link Cable(CA3-USBCB-01)]の項目が表示されていれば、ドライバは正常にインストールされています。

MEMO

- 下記のように [USB Link Cable(CA3-USBCB-01)] の左横に  マークが表示されている場合は、USB ケーブルをパソコンから抜き、再度差し直し、インストールを行ってください。インストール手順については次のページを参照してください。



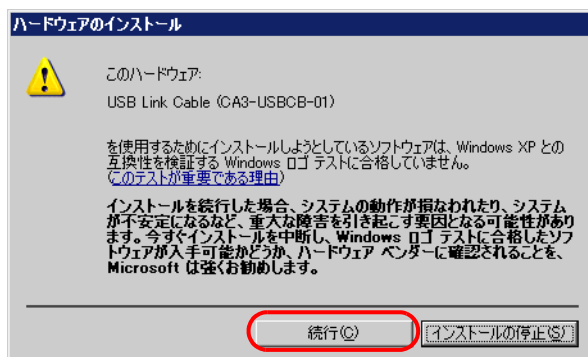
- ・ドライバのインストール方法

ドライバがインストールされていない場合は、以下の手順で再度インストールしてください。
弊社オプション品の USB 転送ケーブルでパソコンと表示器を接続します。

USB ケーブルのドライバがインストールされていない場合は、ダイアログボックスが表示されますので指示にしたがってインストールしてください。

MEMO

- ・ Windows® XP のセキュリティレベルによっては USB ドライバインストール中に下記のような [ハードウェアのインストール] ダイアログボックスが表示されます。
[続行 (C)] をクリックすると CA3-USBCB-01 のドライバのインストールが開始します。インストールが終了したら [完了] をクリックします。



イーサネットケーブルはストレートケーブルですか？クロスケーブルですか？

原因

ストレートケーブルをご利用の場合は HUB を介さずに表示器とパソコンが接続されている可能性があります。クロスケーブルによる、1：1 接続ではパソコンやネットワークカードによって使用できない場合があります。

対処方法

ストレートケーブルをご利用の場合は HUB を介して接続してください。

クロスケーブルによる、1：1 接続ではパソコンやネットワークカードによって使用できない場合があるため必ずストレートケーブルと HUB を使用して接続してください。

- ・ ストレートケーブルとクロスケーブルの見分け方

ケーブルの両端先端を並べたときに、ストレートケーブルはどちらのコネクタも左側から同じ色の信号線が結線されています。クロスケーブルは、信号線の色並びが左右のコネクタで異なります。また信号線の色はご使用のケーブルにより異なるため下記は一例です。

ストレートケーブル



左から「白黄白青白緑白」「白黄白青白緑白」と同じ並びになっています。

クロスケーブル



左から「黒オレンジ青白緑黒」「黒緑白青オレンジ黒」と同じ並びではありません。

GP がオフラインモードになっていませんか？

原因

パススルー機能設定ツールは GP がオンライン中のみ使用できます。

対処方法

GP がオフラインモードになっている場合は、オフラインモードを終了して、運転画面を表示してください。

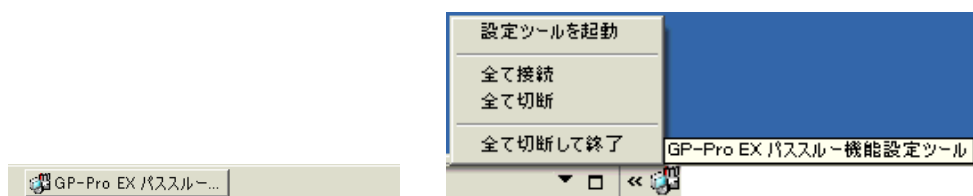
GX Developer 以外にパススルー機能設定ツールを起動していますか？

原因

GX Developer 以外に、パススルー機能設定ツールが起動されていない可能性があります。

対処方法

パススルー機能設定ツールが起動しているか、以下のようにタスクバーに最小化表示されているか確認してください。またはタスクバーの右端にパススルー機能設定ツールのアイコンが表示されているかどうか確認してください。



パススルー機能設定ツールにて、対象の COM 番号にチェックは入っていますか？

原因

対象の COM 番号にチェックが入っていない可能性があります。

対処方法

パススルー機能設定を起動し、以下のダイアログボックスで使用する COM ポートにチェックをいれて再度 GX Developer よりモニタを開始してください。



GX-Developer に同じ COM 番号が設定されていますか？

原因

GX Developer 側の COM 番号の設定がパススルー機能設定ツールに表示されている COM 番号と合っていない可能性があります

対処方法

GX Developer 側の COM 番号の設定がパススルー機能設定ツールに表示されている COM 番号と合っているか確認してください。

- (1) [オンライン (L)] から [接続先指定 (C)] を選択すると [接続先指定] ダイアログボックスが表示されます。
- (2) [パソコン側 I/F] の [シリアル /USB] をダブルクリックするとダイアログボックスが表示されるので [COM ポート] で、パススルー機能設定ツールで設定した同じ COM 番号を選択します。

MEMO

- ・ [ボーレート] は GP と接続機器の [通信速度] で設定されている通信速度と合わせて設定してください。
-

1.3 表示器本体で困った！

1.3.1 タッチ（スイッチ）が反応しない

ステータス LED の点灯がオレンジになっていませんか？

原因

バックライトが切れかけて、バックライト切れ検出機能が働いているか表示器への電源電圧供給が低下しています。

対処方法

- ・ バックライト切れの場合

バックライトを交換してください。交換しても改善しない場合は、修理センターに配送してください。また、ご購入まもなく、ステータス LED がオレンジに点灯した場合は、修理センターに配送してください。

重 要

- ・ バックライト切れ検出は消費する電流を監視して行っています。バックライトの故障状態によっては検出できない場合や、完全にバックライトが切れる前に検出される場合があります。購入直後等であれば、本体故障の可能性もあります。リペアセンターへ配送してください。

- ・ 電源電圧供給が低下している場合

各表示器の電源電圧を測定し、マニュアルで記載されている [電源電圧許容範囲] の数値以内に設定してください。範囲内に電源電圧を設定しても、改善しない場合は修理センターに配送してください。

☞ 「1.7.3 修理しよう！」(1-140 ページ)

すべてのスイッチでこのような現象になりますか？

原因

スイッチの設定に問題がある考えられます。

対処方法

- ・ すべてのスイッチが反応しない場合

すべてのスイッチで同じ現象になる場合は、下記の [オフラインモードに入れますか？] 項目の 対処方法を行ってください。

- ・ 特定のスイッチのみ反応しない場合

- (1) スwitchに、インターロック機能が設定されている可能性があります。設定を確認してください。

☞ GP-Pro EX リファレンスマニュアル「11.7 誤動作を防止したい（インターロック）」
(11-19 ページ)

- (2) タッチ音が鳴る場合はスイッチ機能が働いているので設定されているアドレスを確認してください。また、そのアドレスが接続機器側で ON、OFF されていないか確認してください。

オフラインモードに入れますか？

原因

オフラインモードの自己診断の結果、スイッチが反応しない場合は本体の故障が考えられます。

対処方法

・オフラインモードに入れる場合

本体の故障かどうか切り分けるために、オフラインモードで表示器本体の自己診断を行います。

- (1) アナログタッチパネルの補正（キャリブレーションの設定）を行います。設定方法は下記を参照してください。

☞「2.8.1 表示器本体が正常に動作しているかチェックしたい ■キャリブレーション」
(2-48 ページ)

- (2) 次に [タッチパネルチェック] で正しいところが反転するかを確認します。確認方法は下記を参照してください。

☞「2.8.1 表示器本体が正常に動作しているかチェックしたい ■タッチパネルチェック」
(2-47 ページ)

- (3) (1) と (2) の手順を行っても現象が改善されない場合は本体の故障が考えられます。修理センターに配送してください。

☞「1.7.3 修理しよう！」(1-140 ページ)

・オフラインモードに入れない場合

オフラインモードに入れない場合は以下の対処方法を行ってください。

- (1) オフラインモードに入るための [システムメニュー] が非表示に設定されている可能性があります。システムメニューが表示されない場合は GP-Pro EX で [本体設定] の [メニューとエラー設定] で [システムメニューの表示] を表示する設定に変更して再度プロジェクトファイルを転送してください。

☞ GP-Pro EX リファレンスマニュアル「5.14.6 [システム設定ウィンドウ] の設定ガイド
・メニューとエラー設定」(5-110 ページ)

転送後オフラインモードに入れた場合は上記の [・オフラインモードに入れる場合] の対処手順を行ってください。

- (2) 表示器のユーザメモリ（FEPROM）の初期化を行ってプロジェクトファイルを再度転送してください。初期化の方法は下記を参照してください。

☞「2.7.1 ユーザメモリ (FEPROM) の初期化をしたい」(2-43 ページ)

重 要

- ・OS、ランタイム、ドライバなどのシステムや、時刻の設定データ以外のデータはすべて消去されますので、必ずデータのバックアップを行ってから初期化を実行してください。

- (3) (1) と (2) の手順を行ってもオフラインモードに入れない場合は本体の故障が考えられます。修理センターに配送してください。

☞「1.7.3 修理しよう！」(1-140 ページ)

接続機器との通信は正常に行われていますか？

原因

接続機器との通信が正常に行われていない可能性があります。

対処方法

エラーコードが表示器に表示されている場合は下記を参照して内容と対処方法を確認してください。また通信ケーブルに断線がないかどうか確認してください。

☞「1.6.2 表示器で表示されるエラー」(1-113 ページ)

1.3.2 タッチ（スイッチ）が押した所と違う所が反応する（勝手に反応する）

すべてのスイッチでこのような現象になりますか？

原因

オフラインモードの自己診断の結果、正しいところが反応しない場合本体の故障が考えられます。

対処方法

- すべてのスイッチで押した所と違う所が反応する場合
すべてのスイッチで同じ現象になる場合は、下記の「オフラインモードに入れますか？」項目の 対処方法を行ってください。
- 特定のスイッチのみ押した所と違う所が反応する場合
 - (1) 「タッチパネルチェック」で正しいところが反転するかを確認します。確認方法は下記を参照してください。
☞「2.8.1 表示器本体が正常に動作しているかチェックしたい ■ タッチパネルチェック」
(2-47 ページ)
 - (2) 現象が起こっているスイッチの設定、アドレス等を確認してください。設定の確認を行っても現象が改善されない場合は本体の故障が考えられます。修理センターに配送してください。
☞「1.7.3 修理しよう！」(1-140 ページ)

オフラインモードに入れますか？

原因

オフラインモードの自己診断の結果、正しいところが反応しない場合本体の故障が考えられます。

対処方法

- オフラインモードに入れる場合
本体の故障かどうか切り分けるために、オフラインモードで表示器本体の自己診断を行います。
 - (1) アナログタッチパネルの補正（キャリブレーションの設定）を行います。設定方法は下記を参照してください。
☞「2.8.1 表示器本体が正常に動作しているかチェックしたい ■ キャリブレーション」
(2-48 ページ)
 - (2) 次に「タッチパネルチェック」で正しいところが反転するかを確認します。確認方法は下記を参照してください。
☞「2.8.1 表示器本体が正常に動作しているかチェックしたい ■ タッチパネルチェック」
(2-47 ページ)
 - (3) (1) と (2) の手順を行っても現象が改善されない場合は本体の故障が考えられます。修理センターに配送してください。
☞「1.7.3 修理しよう！」(1-140 ページ)

次のページに続きます。

- ・ オフラインモードに入れない場合

オフラインモードに入れない場合は以下の対処方法を行ってください。

- (1) オフラインモードに入るための [システムメニュー] が非表示に設定されている可能性があります。システムメニューが表示されない場合は GP-Pro EX で [本体設定] の [メニューとエラー設定] で [システムメニューの表示] を表示する設定に変更して再度プロジェクトファイルを転送してください。

☞ GP-Pro EX リファレンスマニュアル「5.14.6 [システム設定ウィンドウ] の設定ガイド
・メニューとエラー設定」(5-110 ページ)

転送後オフラインモードに入れた場合は前ページの [・オフラインモードに入れる場合] の対処手順を行ってください。

- (2) 表示器のユーザメモリ (FEPR0M) の初期化を行ってプロジェクトファイルを再度転送してください。初期化の方法は下記を参照してください。

☞ 「2.7.1 ユーザメモリ (FEPR0M) の初期化をしたい」(2-43 ページ)

重 要

- ・ OS、ランタイム、ドライバなどのシステムや、時刻の設定データ以外のデータはすべて消去されますので、必ずデータのバックアップを行ってから初期化を実行してください。
-

- (3) (1) と (2) の手順を行ってもオフラインモードに入れない場合は本体の故障が考えられます。修理センターに配送してください。

☞ 「1.7.3 修理しよう！」(1-140 ページ)

1.3.3 電源が入らない（初期画面が表示されない、画面が真っ暗）

ステータス LED の点灯が消灯またはオレンジになっていませんか？

原因

バックライトが切れかけて、バックライト切れ検出機能が働いているか表示器への電源電圧供給が低下しています。

対処方法

- ・ステータス LED が消灯の場合

各表示器の電源電圧を測定し、マニュアルで記載されている [電源電圧許容範囲] の数値以内に設定してください。範囲内に電源電圧を設定しても、改善しない場合は修理センターに配送してください。

☞「1.7.3 修理しよう！」(1-140 ページ)

- ・ステータス LED がオレンジの場合

バックライトを交換してください。交換しても改善しない場合は、修理センターに配送してください。また、ご購入まもなく、ステータス LED がオレンジに点灯した場合は、修理センターに配送してください。

☞「1.7.3 修理しよう！」(1-140 ページ)

重要

- ・バックライト切れ検出は消費する電流を監視して行っています。バックライトの故障状態によっては検出できない場合や、完全にバックライトが切れる前に検出される場合があります。購入直後等であれば、本体故障の可能性があります。修理センターへ配送してください。

☞「1.7.3 修理しよう！」(1-140 ページ)

「RAAA005 初期画面が存在しません」というエラーが表示されていませんか？

原因

電源投入時に表示する最初の画面（初期画面）番号が間違っており違う画面が表示されている可能性があります。

対処方法

初期画面番号の設定を確認してください。設定変更方法は下記を参照してください。

☞「2.3.5 電源投入時に最初に表示する画面番号を設定したい」(2-26 ページ)

オフラインモードに入れますか？

原因

オフラインモードの自己診断の結果、正しいところが反応しない場合本体の故障が考えられます。

対処方法

・ オフラインモードに入れる場合

本体の故障がどうか切り分けるために、オフラインモードで表示器本体の自己診断を行います。

- (1) アナログタッチパネルの補正（キャリブレーションの設定）を行います。設定方法は下記を参照してください。

☞ 「2.8.1 表示器本体が正常に動作しているかチェックしたい ■キャリブレーション」
(2-48 ページ)

- (2) 次に [タッチパネルチェック] で正しいところが反転するかを確認します。確認方法は下記を参照してください。

☞ 「2.8.1 表示器本体が正常に動作しているかチェックしたい ■タッチパネルチェック」
(2-47 ページ)

- (3) (1) と (2) の手順を行っても現象が改善されない場合は本体の故障が考えられます。修理センターに配送してください。

☞ 「1.7.3 修理しよう！」(1-140 ページ)

・ オフラインモードに入れない場合

オフラインモードに入れない場合は以下の対処方法を行ってください。

- (1) オフラインモードに入るための [システムメニュー] が非表示に設定されている可能性があります。システムメニューが表示されない場合は GP-Pro EX で [本体設定] の [メニューとエラー設定] で [システムメニューの表示] を表示する設定に変更して再度プロジェクトファイルを転送してください。

☞ GP-Pro EX リファレンスマニュアル「5.14.6 [システム設定ウィンドウ] の設定ガイド
・メニューとエラー設定」(5-110 ページ)

転送後オフラインモードに入れた場合は上記の [オフラインモードに入れる場合] の対処手順を行ってください。

- (2) 表示器のユーザメモリ（FEPROM）の初期化を行ってプロジェクトファイルを再度転送してください。初期化の方法は下記を参照してください。

☞ 「2.7.1 ユーザメモリ（FEPROM）の初期化をしたい」(2-43 ページ)

重 要

- ・ OS、ランタイム、ドライバなどのシステムや、時刻の設定データ以外のデータはすべて消去されますので、必ずデータのバックアップを行ってから初期化を実行してください。

- (3) (1) と (2) の手順を行ってもオフラインモードに入れない場合は本体の故障が考えられます。修理センターに配送してください。

☞ 「1.7.3 修理しよう！」(1-140 ページ)

システムエリアのアドレスに表示 OFF、またはバックライトを OFF するデータが書き込まれていませんか？

原因

システムエリアのアドレスに表示を OFF、またはバックライトを OFF するデータが書き込まれている可能性があります。

対処方法

システムエリアのアドレスに表示を OFF ¹、またはバックライトを OFF ² するデータが書き込まれているか確認してください。

- 1 「表示 OFF」データ：ダイレクトアクセス方式はアドレス +9、メモリリンク方式はアドレス 12 です。書き込まれたデータを 0 クリアしてください。
- 2 「バックライト OFF」データ：ダイレクトアクセス方式はアドレス +14、メモリリンク方式はアドレス 11 です。書き込まれたデータを 0 クリアしてください。

1.3.4 ブザー音が鳴り続ける

エラーコードは表示されていますか？

原因

転送したプロジェクトファイルにエラーがあるか、接続機器との通信に問題がある可能性があります。

対処方法

エラーコードを確認してください。エラーコードの内容と対処方法は下記を参照してください。

☞「1.6.2 表示器で表示されるエラー」(1-113 ページ)

画面データや接続機器のラダープログラムなど、設定を変更してからブザーが鳴り出しましたか？

原因

画面データや接続機器のラダープログラムの設定を変更したときに、ブザー音を鳴らすビットが ON した可能性があります。

対処方法

問題を切り分けるために、接続機器と接続をしているのであれば接続ケーブルを抜いて GP の電源を入り切りし、以下の対処方法を順番に行ってください。

MEMO

- 接続機器との接続ケーブルを抜くと、問題の切り分けが簡潔ですが接続ケーブルを抜くことが困難な環境であれば、ケーブルを抜かずに以下同様の対処方法を行ってください。

- GP 単体で電源を入れ直してブザー音が止まった場合

システムエリア先頭アドレス +14 ワードの 01 ビット目を ON すると GP のブザーを鳴らすことができます。

☞ GP-Pro EX リファレンスマニュアル「26.3 接続機器から GP のブザーを鳴らしたい」(26-7 ページ)

接続機器側から +14 の 01 ビットが ON していないかどうか確認し、ON している場合は OFF させることによりブザー音を止めることができます。

もし、システムデータエリアの領域が接続機器のラダープログラムで使用している領域と重なっている場合は、オフラインモードでシステムエリア先頭アドレスを変更してください。システムエリア先頭アドレス変更方法は下記を参照してください。

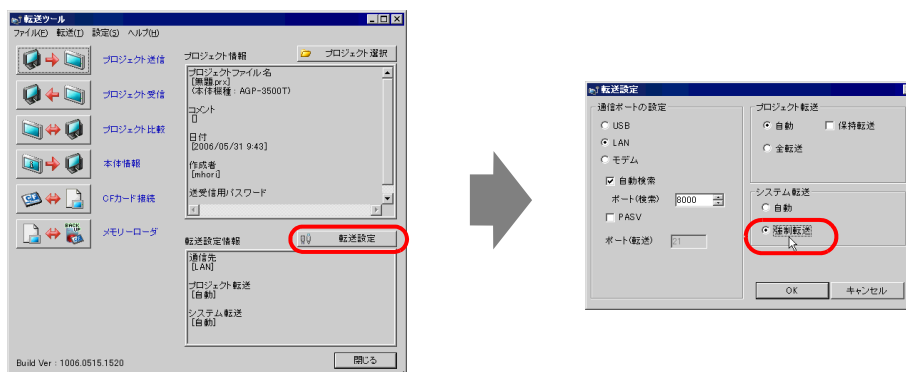
☞「2.14.1 表示器共通 システムエリア設定」(2-88 ページ)

次のページに続きます。

- ・ GP 単体で電源を入れ直してもまだブザー音がなっている場合

画面データに異常がある可能性があります。GP-Pro EX の強制セットアップでプロジェクトファイルを転送し直してください。GP-Pro EX 側で強制転送する場合は、[画面転送] をクリックして、[転送ツール] ダイアログボックスの [転送設定] を開きます。[転送設定] ダイアログボックスが開くので [システム転送] から [強制転送] を選択し、[OK] をクリックして転送を開始します。

☞ GP-Pro EX リファレンスマニュアル「33.10.1 [転送設定] の設定ガイド」(33-59 ページ)



- ・ 強制セットアップで転送し直してもブザー音がなっている場合
表示器の故障が考えられます。修理センターに配送してください。

☞ 「1.7.3 修理しよう！」(1-140 ページ)

1.3.5 画面に線（筋）が入る、画面が真っ白になる

オフラインモードの[表示パターンチェック]でも同じ現象が出ますか？

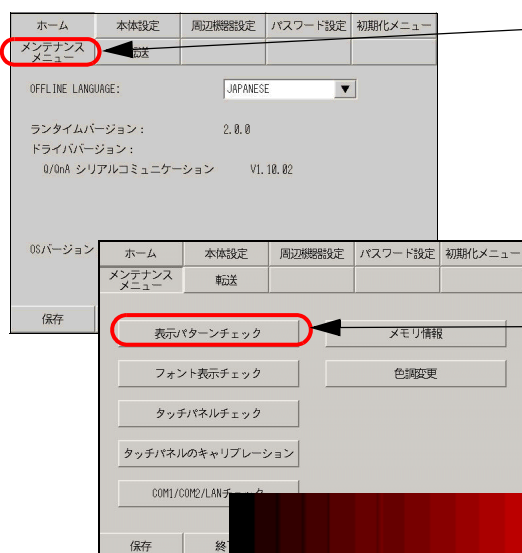
原因

オフラインモード、[メンテナンスメニュー]の[表示パターンチェック]画面でも線の位置や太さ、長さに変化がない場合は本体の故障が考えられます。

対処方法

本体の故障かどうか切り分けるために以下の手順で、オフラインモードの[表示パターンチェック]画面にて線（筋）の表示を確認します。

☞「2.2.1 オフラインモードへの入り方」(2-14 ページ)



オフラインモードに入り、項目切り替えスイッチから[メンテナンスメニュー]をタッチします。

[メンテナンスメニュー]が開くので[表示パターンチェック]をタッチします。

[表示パターンチェック]が開くので線（筋）の位置や太さ、長さが変化されることがなく常時表示されている、または画面が白くなっている場合は本体の故障が考えられます。修理センターに配送してください。

☞「1.7.3 修理しよう！」(1-140 ページ)

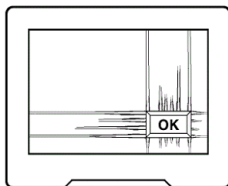
[表示パターンチェック]を終了するには、画面をタッチし[メンテナンスメニュー]まで戻ってから[終了]をタッチしてください。

以下のような表示になっていますか？

原因

カラー STN パネル、モノクロ LCD パネルは、液晶パネルの特性上、以下のような現象が生じる場合があります。

- ・ パネルの表示がちらつく場合
- ・ 画面の明るさにムラがあり均一に表示されない場合
- ・ 直線などの延長線上に本来存在しない線が流れたように表示される場合 (= クロストーク)



クロストーク

対処方法

表示器のコントラストを調整して、緩和される場合があるので以下の手順でコントラストの調整を行ってください。

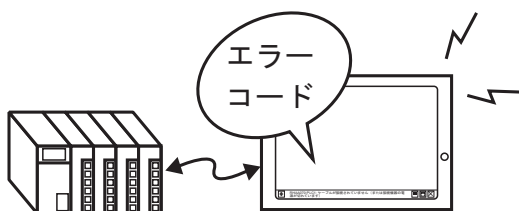
- ☞ 「2.3.1 明るさ（輝度、コントラスト）を調整したい」(2-22 ページ)

1.4 接続機器の通信で困った！

1.4.1 すべての画面で通信しない

表示器にエラーコードは表示されていますか？

すべての画面で通信できない場合、まず始めに表示器上に表示されるエラーコードを確認してください。



代表的なエラー番号	代表的な原因
RHAA006 ~ RHAA007	ノイズが発生していないか、ケーブル結線、コネクタの差し込みなどを確認してください。
RHAA010 ~ RHAA012	イーサネット通信時に表示されるエラーです。ポート番号やネットワーク環境を確認してください。
RHAA033 ~ RHAA035	接続機器側でエラーが出ています。詳細は「GP-Pro EX 機器接続マニュアル」を参照してください。
RHAA036 ~ RHAA037 ¹	デバイス範囲オーバーです。
RHAA038 ¹	書き込みのみのデータを読み出そうとしてエラーが出ています。
RHAA039 ¹	読み込みのみのデータを書き出そうとしてエラーが出ています。
RHAA040 ~ RHAA045	接続機器側でエラーが出ています。詳細は「GP-Pro EX 機器接続マニュアル」を参照してください。
RHAA065 ~ RHAA066 ¹	イーサネット使用時に通信ができていないと表示される代表的なエラーです。通信設定、IP アドレスなどを確認してください。
RHAA067 ~ RHAA070 ¹	RS-232C/422/485 使用時に通信ができていないと表示される代表的なエラーです。通信設定、ケーブル結線などを確認してください。

¹ 本章で詳細を紹介しているエラーです。これらのエラー以外については下記を参照してください。

「1.6.2 表示器で表示されるエラー 接続がうまくいかないときに出るエラー」(1-113 ページ)

RHAA067 ~ RHAA070 で始まるエラーが表示されていますか？

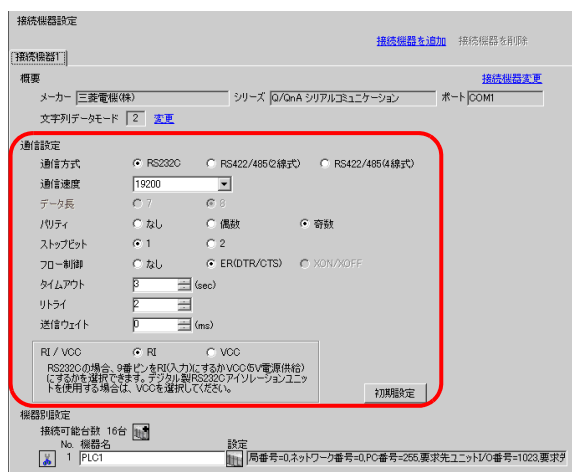
原因

RHAA067 ~ RHAA070 で始まるエラーは RS-232C/422/485 通信時にエラーがある場合に表示されます。

対処方法

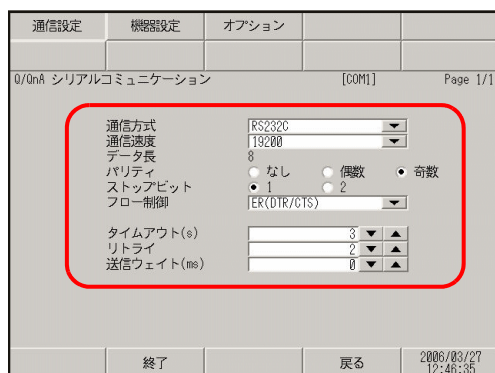
- (1) GP-Pro EX で [システム設定ウィンドウ] から [周辺機器設定] の [接続機器設定] を選択し、次のような画面が表示されたら「GP-Pro EX 機器接続マニュアル」を参照し、通信設定が正しく設定されているか確認してください。

例)「三菱電機(株)製 Q/QnA シリアルコミュニケーションシリーズ」をご利用の場合



- (2) GP のオフラインモードでも [周辺機器設定] から [接続機器設定] を開き、再度「GP-Pro EX 機器接続マニュアル」を参照して、通信設定が正しく設定されているか確認してください。

例)「三菱電機(株)製 Q/QnA シリアルコミュニケーションシリーズ」をご利用の場合



- (3) また接続機器側の通信設定を「GP-Pro EX 機器接続マニュアル」または接続機器のマニュアルを参照し、確認してください。
- (4) ケーブルの型式または配線に間違いがないか「GP-Pro EX 機器接続マニュアル」または接続機器のマニュアルを参照し確認してください。

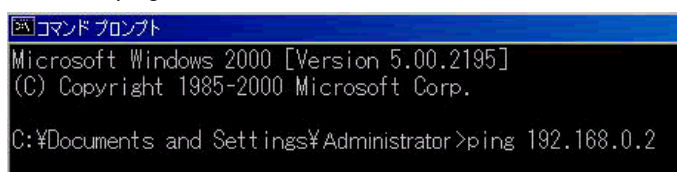
RHAA065 ～ 066 で始まるエラーが表示されていますか？

原因

RHAA065 ～ RHAA066 で始まるエラーはイーサネット通信時にエラーがある場合に表示されます。

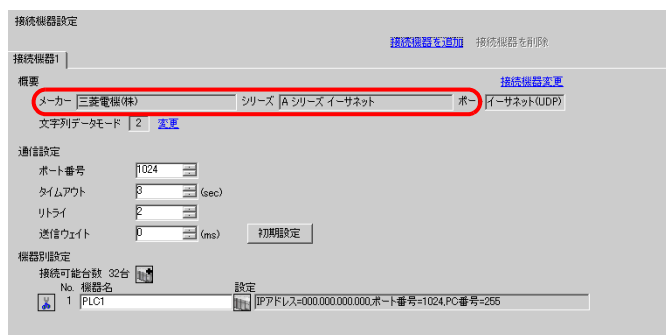
対処方法

- (1) ネットワーク内にパソコンが存在している場合は、表示器および接続機器に対して PING コマンドを送信し、応答があるかどうか確認してください。[スタート]メニューより[プログラム(P)]を開き[アクセサリ]を選択します。[アクセサリ]から、[コマンドプロンプト]を選択すると次のような画面が表示されるので C:\Documents and Settings*(コンピュータ名)の後に ping と入力し、続けてスペース、IP アドレスを入力し Enter キーを押します。(例：ping 192.168.0.2)



- (2) GP-Pro EX で[システム設定ウィンドウ]から[周辺機器設定]の[接続機器設定]を選択し、次のような画面が表示されたら「GP-Pro EX 機器接続マニュアル」を参照し、通信設定が正しく設定されているか確認してください。

例)「三菱電機(株)製 A シリーズイーサネット」をご利用の場合



また上記画面のをクリックすると以下のようなダイアログボックスが表示されるので接続機器の IP アドレスが正しく設定されているか確認してください。



MEMO

- ・ IP アドレスの設定等についてはネットワーク管理者の方にご連絡ください。

次のページに続きます。

- (3) GP のオフラインモードでも [周辺機器設定] から [接続機器設定] を開き、再度「GP-Pro EX 機器接続マニュアル」を参照して、通信設定が正しく設定されているか確認してください。

例)「三菱電機(株)製Aシリーズイーサネット」をご利用の場合

通信設定	機器設定			
A シリーズ イーサネット [UDP] Page 1/1				
ポート番号 ☐ 固定 ☒ 自動 1024				
タイムアウト(s) 3				
リトライ 2				
送信ウェイト(ms) 0				
				終了 戻る 2006/04/19 14:41:09

また、接続機器側の IP アドレスと表示器側の IP アドレスの確認方法については、以下を参照してください。

MEMO

- ・ IP アドレスの設定等についてはネットワーク管理者の方にご連絡ください。

- ・ 表示器側の IP アドレス確認

☞ 「2.5.1 表示器に IP アドレスを設定したい」(2-38 ページ)

- ・ 接続機器側の IP アドレス確認

☞ 「2.4.1 接続機器の通信設定を確認したい ■ イーサネット接続」(2-34 ページ)

- (4) また接続機器側の通信設定と IP アドレスを「GP-Pro EX 機器接続マニュアル」または接続機器のマニュアルを参照し、確認してください。

- (5) HUB、ケーブルを交換してみてください。

RHAA036 ~ RHAA039 で始まるエラーが表示されていますか？

原因

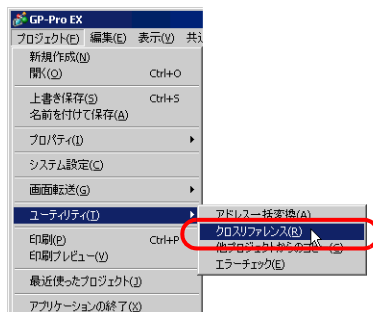
RHAA036 ~ RHAA039 で始まるエラーはアドレス範囲がオーバーしている場合に表示されます。

対処方法

サポートしていない接続機器側アドレスを画面上の部品やスクリプトなどで使用している可能性があります。特に、システムデータエリア、アラーム、サンプリング、グローバルDスクリプト、グローバルウィンドウ、ロジックプログラムなど、すべての画面で通信が発生する部品や機能を使用していると、全画面を通してエラーが発生します。

以下の手順に従ってサポート範囲外のデバイスがないか確認してください。

- (1) GP-Pro EX で [プロジェクト (F)] メニューから [ユーティリティ (T)] を開き、[クロスリファレンス (R)] を選択します。



- (2) [クロスリファレンス] ダイアログボックスが表示されるので [対象] で [すべて] を選択します。



青字で表示されているアドレスで以下の項目に該当するものがないか、以下の内容を各エラーごとに確認してください。

- ・エラーコード RHAA036 ~ RHAA037 が表示されている場合
GP-Pro EX がサポートしているデバイスアドレスの範囲外のアドレスを使用していないか確認してください。
- ・エラーコード RHAA038 が表示されている場合
書き込み専用デバイスをデータ表示器やDスクリプトなどで読み込んでいないかどうか確認してください。
- ・エラーコード RHAA039 が表示されている場合
読み込み専用デバイスをスイッチやDスクリプトなどで書き込んでいないかどうか確認してください。

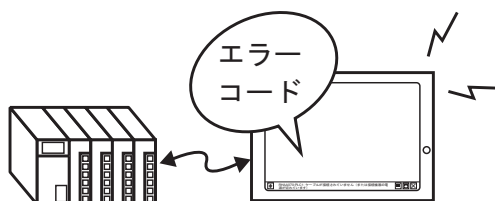
MEMO

- ・ サポートしているデバイスアドレス範囲、書き込み専用および読み込み専用デバイスについては「GP-Pro EX 機器接続マニュアル」の各ドライバマニュアルの「使用可能デバイス」を参照してください。

1.4.2 ある特定の画面でのみ通信しない

表示器にエラーコードは表示されていますか？

ある特定の画面でのみ通信できない場合、まず始めに表示器上に表示されるエラーコードを確認してください。



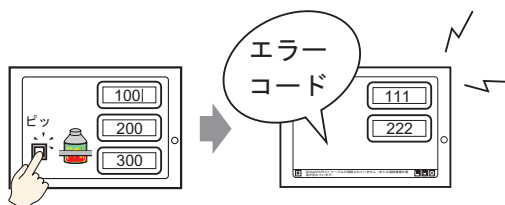
代表的なエラー番号	代表的な原因
RHAA006 ~ RHAA007	ノイズが発生していないか、ケーブル結線、コネクタの差し込みなどを確認してください。
RHAA010 ~ RHAA012	イーサネット通信時に表示されるエラーです。ポート番号やネットワーク環境を確認してください。
RHAA033 ~ RHAA035	接続機器側でエラーが出ています。詳細は「GP-Pro EX 機器接続マニュアル」を参照してください。
RHAA036 ~ RHAA037 ¹	デバイス範囲オーバーです。
RHAA038 ¹	書き込みのみのデータを読み出そうとしてエラーが出ています。
RHAA039 ¹	読み込みのみのデータを書き出そうとしてエラーが出ています。
RHAA040 ~ RHAA045	接続機器側でエラーが出ています。詳細は「GP-Pro EX 機器接続マニュアル」を参照してください。
RHAA065 ~ RHAA066 ¹	イーサネット使用時に通信ができていないと表示される代表的なエラーです。通信設定、IP アドレスなどを確認してください。
RHAA067 ~ RHAA070 ¹	RS-232C/422/485 使用時に通信ができていないと表示される代表的なエラーです。通信設定、ケーブル結線などを確認してください。

1 本章で詳細を紹介しているエラーです。これらのエラー以外については下記を参照してください。

「1.6.2 表示器で表示されるエラー 接続がうまくいかないときに出るエラー」(1-113 ページ)

原因

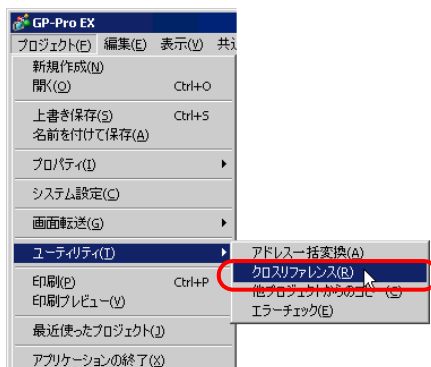
ある特定の画面を開けた時だけ通信エラーが発生する場合は、エラーが発生しているベース画面上にサポート範囲外のデバイスアドレスを部品やスクリプトなどで使用していることが考えられます。



対処方法

以下の手順で、エラーが発生している画面で使用されているアドレスを確認してください。

- (1) GP-Pro EX で RHAA036 ~ RHAA039 で始まるエラーが発生している画面を開きます。
- (2) GP-Pro EX で [プロジェクト (F)] メニューから [ユーティリティ (U)] を開き、[クロスリファレンス (R)] を選択します。



- (3) [クロスリファレンス] ダイアログボックスが表示されるので [対象] で [すべて] を選択します。



- (4) 青字で表示されているアドレスで以下の項目に該当するものがないか、以下の内容を各エラーごとに確認してください。

- ・エラーコード RHAA036 ~ RHAA037 が表示されている場合
GP-Pro EX がサポートしているデバイスアドレスの範囲外のアドレスを使用していないか確認してください。
- ・エラーコード RHAA038 が表示されている場合
書き込み専用デバイスをデータ表示器や D スクリプトなどで読み込んでいないかどうか確認してください。
- ・エラーコード RHAA039 が表示されている場合
読み込み専用デバイスをスイッチや D スクリプトなどで書き込んでいないかどうか確認してください。

MEMO

- ・ サポートしているデバイス範囲、書き込み専用または読み込み専用デバイスについては「GP-Pro EX 機器接続マニュアル」で [使用可能デバイス] を参照してください。

1.4.3 通信が遅い

表示器と接続機器間の通信量が多くありませんか？

原因

表示器が一度に多くの接続機器のアドレスデータを読み書きしようとする、通信量が増えるため通信に時間がかかる場合があります。このような場合、表示器のスイッチの反応が遅くなったりデータ表示器の数値更新が遅くなったりします。

また、表示器は現在表示している画面で使用されているアドレスに対して通信を行います。さらにシステムデータエリア、アラーム、サンプリング、グローバルDスクリプト、グローバルウィンドウ、ロジックプログラムなどで使用しているアドレスがある場合は全画面で通信を行います。

そのため上記の機能で多くのアドレスを設定している場合は通信に時間がかかる場合があります。

対処方法

- (1) できるだけ1つの画面に配置している部品数を減らしてください。常時使用しない部品はウィンドウで必要なときだけ呼び出すようにしてください。
☞ GP-Pro EX リファレンスマニュアル「18.3 ウィンドウを表示したい」(18-7 ページ)
- (2) アラーム、サンプリング、グローバルDスクリプト、グローバルウィンドウで使用しているアドレス数をできるだけ少なく設定してください。
- (3) 同一画面上に配置している部品で使用しているアドレスはできるだけ連続したアドレスを使用してください。
- (4) 接続機器側で必ずしも必要のないデータは表示器内部のアドレス[LS エリア]または[USR エリア]を使用するようにしてください。
- (5) ロジックプログラムを設定している接続機器アドレス数を少なくしてください。

表示器と接続機器間の通信速度が低く設定されていませんか？

原因

表示器と接続機器間の通信速度が低く設定されていると通信速度は遅くなります。

対処方法

通信速度が遅い場合は、以下の手順で通信速度を上げるように設定を変更してください。

- GP 側で変更する場合
☞ 「2.4.1 接続機器の通信設定を確認したい」(2-33 ページ)
- GP-Pro EX 側で変更する場合
☞ GP-Pro EX リファレンスマニュアル「5.14.6 [システム設定ウィンドウ] の設定ガイド」
 - [接続機器設定] の設定ガイド」(5-134 ページ)

次のページに続きます。

通信速度を変更した後はプロジェクトファイルの再転送が必要です。また接続機器側の通信速度も合わせて設定し直す必要があります。

MEMO

- ・ 設定できる通信速度の範囲は接続機器によって異なります。各接続機器の通信速度は「GP-Pro EX 機器接続マニュアル」を参照してください。

通信ラインにノイズがのっていませんか？

原因

通信ラインにノイズがのると、通信が途絶えがちになり、通信が遅く感じられることがあります。

対処方法

通信時間の値をチェックまたは通信ラインをチェックして通信ラインにノイズがのっているかどうか確認してください。

1 通信時間（通信サイクルタイム）の値をチェック

表示器内部の LS エリアに格納されている通信時間（通信サイクルタイム）の値をチェックします。通信時間（通信サイクルタイム）は LS エリアの LS9400 に単位 ms で格納されています。

- (1) 現在使用しているプロジェクトファイルを開き、全ての画面に LS9400 を指定したデータ表示器を配置します。

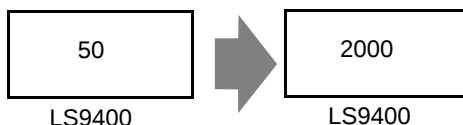


MEMO

- ・ 接続機器側から LS9400 の値をモニタできないので数値表示器を配置します。

- (2) プロジェクトファイルを再度転送します。

- (3) 表示器上でこの値をモニタし、ある時だけ LS9400 の値が大きくなっている場合は、ノイズ等が原因で通信エラーが発生しています。



次のページに続きます。

MEMO

- 複数の接続機器を表示器に接続している場合、表示器内部の LS エリアの LS9400 ~ LS9527 に表示器と接続機器が通信にかかっている目安の時間（通信サイクルタイム）が格納されています。LS9400 ~ LS9527 は ms 単位で格納されます。

LS エリア	
LS9400	ドライバ 1 の PLC1 台目
LS9431	ドライバ 1 の PLC32 台目
LS9432	ドライバ 2 の PLC1 台目
LS9463	ドライバ 2 の PLC32 台目
LS9464	ドライバ 3 の PLC1 台目
LS9495	ドライバ 3 の PLC32 台目
LS9496	ドライバ 4 の PLC1 台目
LS9527	ドライバ 4 の PLC32 台目

- GP3000 シリーズでは 1 台の表示器に最大 4 ドライバを割り付けることができます。また、接続機器によっては 1 ドライバあたり最大 32 台まで接続機器をつなげる場合があります。

例) 表示器に三菱ドライバとオムロンドライバを割り付け、それぞれの接続機器を 1 台ずつ接続している場合は LS9400 と LS9432 をモニタしてください。

表示器に三菱のイーサネットのドライバを割り付け、表示器 1 台に対して接続機器を 32 台接続している場合は LS9400 ~ LS9431 をモニタしてください。

- LS エリアのアドレスは、GP-Pro EX で [システム設定ウィンドウ] から [周辺機器一覧] を選択し、[接続機器管理アドレス一覧] で確認することができます。

☞ GP-Pro EX リファレンスマニュアル「5.14.6 [システム設定ウィンドウ] の設定ガイド ■ [周辺機器一覧] の設定ガイド」(5-131 ページ)

2 ラインモニタで通信ラインをチェックしてください。

1.4.4 通信が時々止まる

通信ラインにノイズがのっていませんか？

原因

通信ラインにノイズがのると、通信が途絶えがちになり、通信が遅く感じられることがあります。

対処方法

通信時間の値をチェックまたは通信ラインをチェックして通信ラインにノイズがのっているかどうか確認してください。

1 通信時間（通信サイクルタイム）の値をチェック

表示器内部の LS エリアに格納されている通信時間（通信サイクルタイム）の値をチェックします。通信時間（通信サイクルタイム）は LS エリアの LS9400 に単位 (ms) で格納されています。

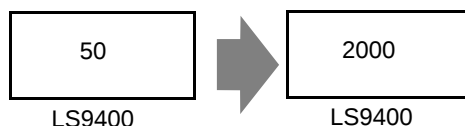
- (1) 現在使用しているプロジェクトファイルを開き、全ての画面に LS9400 を指定したデータ表示器を配置します。



MEMO

- ・ 接続機器側から LS9400 の値をモニタできないので数値表示器を配置します。

- (2) プロジェクトファイルを再度転送します。
- (3) 表示器上でこの値をモニタし、ある時だけ LS9400 の値が大きくなっている場合は、ノイズ等が原因で通信エラーが発生しています。



次のページに続きます。

MEMO

- 複数の接続機器を表示器に接続している場合、表示器内部のLSエリアのLS9400～LS9527に表示器と接続機器が通信にかかっている目安の時間（通信サイクルタイム）が格納されています。LS9400～LS9527はms単位で格納されます。

LS エリア	
LS9400	ドライバ1のPLC1 台目
LS9431	ドライバ1のPLC32 台目
LS9432	ドライバ2のPLC1 台目
LS9463	ドライバ2のPLC32 台目
LS9464	ドライバ3のPLC1 台目
LS9495	ドライバ3のPLC32 台目
LS9496	ドライバ4のPLC1 台目
LS9527	ドライバ4のPLC32 台目

- GP3000 シリーズでは1台の表示器に最大4ドライバを割り付けることができます。また、接続機器によっては1ドライバあたり最大32台まで接続機器をつなげる場合があります。

例)表示器に三菱ドライバとオムロンドライバを割り付け、それぞれの接続機器を1台ずつ接続している場合はLS9400とLS9432をモニタしてください。

表示器に三菱のイーサネットのドライバを割り付け、表示器1台に対して接続機器を32台接続している場合はLS9400～LS9431をモニタしてください。

- LSエリアのアドレスは、GP-Pro EXで[システム設定ウィンドウ]から[周辺機器一覧]を選択し、[接続機器管理アドレス一覧]で確認することができます。

☞ GP-Pro EX リファレンスマニュアル「5.14.6 [システム設定ウィンドウ] の設定ガイド ■ [周辺機器一覧] の設定ガイド」(5-131 ページ)

2 ラインモニタで通信ラインをチェックしてください。

表示器または接続機器の処理に負荷がかかっていませんか？

原因

D スクリプト、グローバル D スクリプト、CF カード保存、表示器画面のハードコピーなどの機能を使用している場合は、これらの処理が入ると表示器の画面更新処理に負荷がかかる場合があります。一度これらの機能を削除して通信が正常にできるか確認してください。

また、接続機器のプログラムのスキャンに時間がかかっている場合、表示更新が止まり、通信が止まったように見えます。

対処方法

以下の手順で画面更新処理への負荷、また接続機器のスキャン時間を確認してください。

次のページに続きます。

- 画面更新処理の負荷チェック

表示器の内部に LS エリアというアドレスがあり、その LS2036 に表示スキャンタイム（画面更新処理にかかっている時間）が格納されています。（単位 /ms）このアドレスに格納された値をモニタし、画面更新処理に負荷がかかっているかをチェックします。

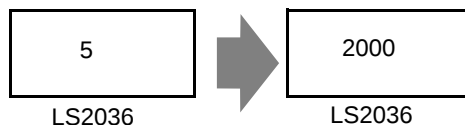
- (1) 現在使用しているプロジェクトファイルを開き、全ての画面に LS2036 を指定したデータ表示器を配置します。



MEMO

- ・ 接続機器側から LS2036 の値をモニタできないので数値表示器を配置します。

- (2) プロジェクトファイルを再度表示器に転送します。
- (3) 表示器上でこの値をモニタし、ある時だけ LS2036 の値が大きくなっている場合は、そのタイミングで負荷の大きい D スクリプトなどが実行され、表示器の画面更新処理に時間がかかっている可能性があります。



このような場合は、D スクリプトの数を少なくしたり、同じタイミングで複数の処理が同時に実行されないように工夫をしてください。

- 接続機器のスキャン時間チェック

接続機器のラダープログラムのスキャンタイムを読み出し、あるときだけスキャンに時間がかかっているか確認してください。もしラダープログラムの処理に時間がかかるようであれば、各接続機器メーカーへお問い合わせください。

1.5 ユニットとの通信で困った！

1.5.1 DIO インターフェイスに接続している機器が ON、OFF しない

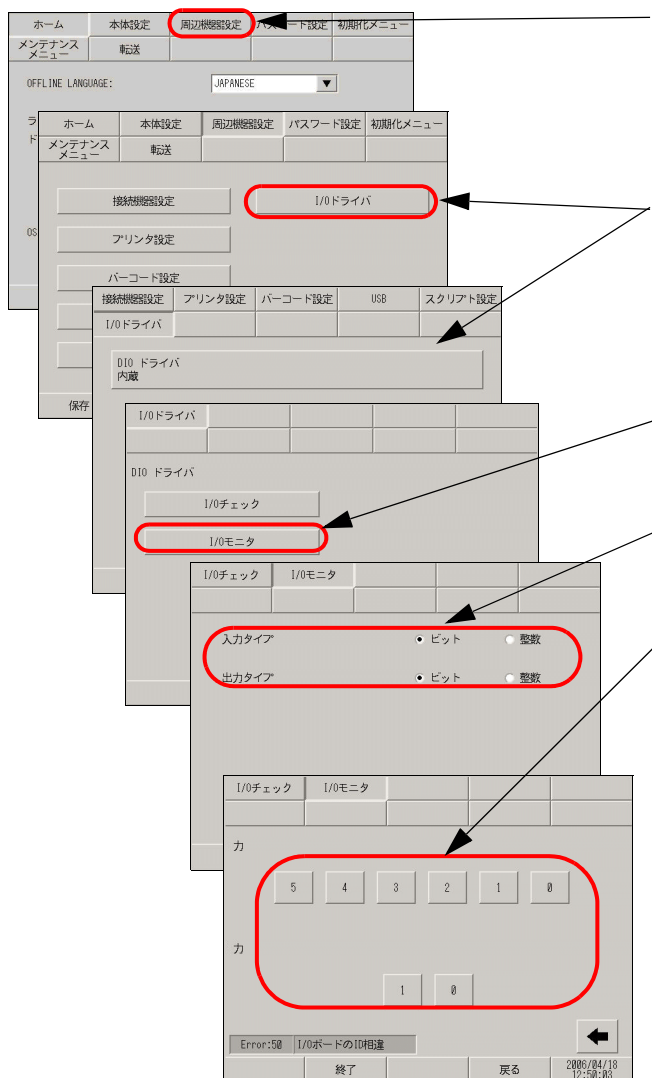
DIO ユニットに接続している機器は正常に入力、出力できますか？

DIO ボードに接続した接続機器が正常に入力、出力しているかチェックし、GP-Pro EX の設定に問題があるのか、GP 側の問題が考えられるのか切り分けます。

MEMO

- ・ 設定画面の詳細は設定ガイドを参照してください。

☞「2.14.2 GP3000 シリーズ DIO ボードタイプをご利用の場合 I/O ドライバ設定(I/O モニタ)」(2-111 ページ)



オフラインモードに入り、項目切り替えスイッチから[周辺機器設定]をタッチします。

[周辺機器設定]が開くので[I/Oドライバ]をタッチし、[DIOドライバ]をタッチします。

[I/Oドライバ]が開くので[I/Oモニタ]をタッチします。

入出力するデータのタイプを[ビット]、[整数]から選択します。(例：入力、出力ともビット)

入出力ビット表示画面が表示され、[入力]には現在のON/OFF状態が表示されます。[出力]ではタッチするたびにON/OFFを反転します。接続機器が正常に動作する場合はGP-Pro EXでプロジェクトファイルの設定を確認してください。正常に動作しない場合はGPと接続機器の配線を確認して次の項目をチェックします。

次のページに続きます。

表示器の内部端子は正常に動作しますか？

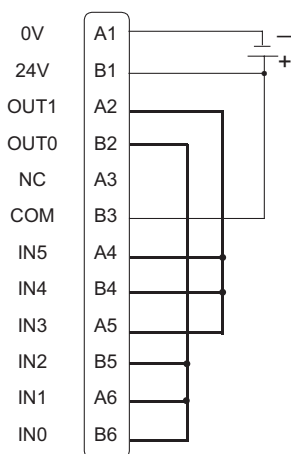
内部端子チェックを実行するには、チェック用のループバックケーブルを作成する必要があります。
以下のようにループバックケーブルをまず作成してください。

ループバックケーブルの作成

ループバックの配線は以下のとおりです。

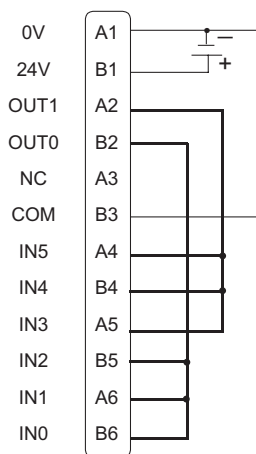
- ・シンクタイプ

例) OUT0からIN0~IN2へと、OUT1からIN3~IN5への3点ずつチェックする場合



- ・ソースタイプ

例) OUT0からIN0~IN2へと、OUT1からIN3~IN5への3点ずつチェックする場合



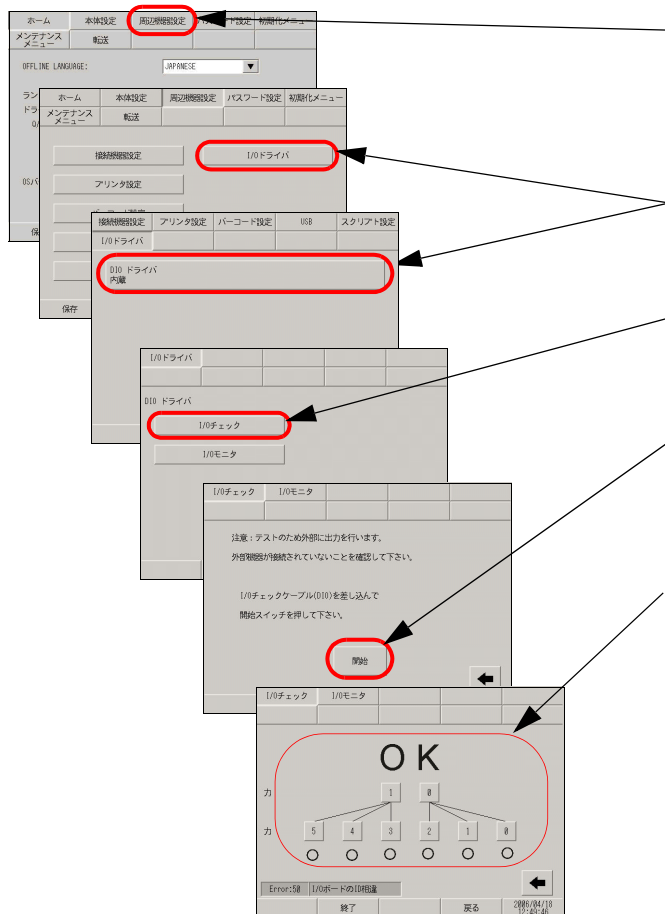
I/O チェック

DIO ボードにループバックケーブルが接続された状態で出力ターミナル 2 点の出力を入力ターミナルの 6 点に入力して出力データと入力データを比較します。データが期待値に一致すると [OK]、一致しないと [NG] が画面に表示され、この結果により接続チェックを行えます。

MEMO

- ・ 設定画面の詳細は設定ガイドを参照してください。

☞ 「2.14.2 GP3000 シリーズ DIO ボードタイプをご利用の場合 I/O ドライバ設定(I/O チェック)」(2-110 ページ)



オフラインモードに入り、項目切り替えスイッチから[周辺機器設定]をタッチします。

[周辺機器設定]が開くので[I/O ドライバ]をタッチします。

[I/O ドライバ]が開くので[I/O チェック]をタッチします。

[I/O チェック]が表示されるので[開始]をタッチします。

接続チェック実行画面が表示され、異常がなければ[OK]、エラーがある場合は[NG]と表示されます。[OK]と表示された場合は配線やDIO ボードに接続している機器を確認してください。[NG]と表示された場合は本体の故障が考えられます。修理センターに配送してください。

☞ 「1.7.3 修理しよう！」(1-140 ページ)

1.5.2 FLEX NETWORK ユニットまたは PROFIBUS(Slave) ユニットが通信しない、VM ユニットが動作しない

まずは各ユニットのマニュアルをご確認ください。

FLEX NETWORK ユニット、PROFIBUS(Slave)、VM ユニットなどの拡張オプションと通信しない場合はまず、各ユニットのマニュアルで「トラブルシューティング」の章をご確認ください。

拡張オプション	マニュアル名
FLEX NETWORK シリーズ	Flex Network アナログユニットユーザーズマニュアル Flex Network 1 軸位置決めユニットユーザーズマニュアル Flex Network DIO ユニットユーザーズマニュアル Flex Network 高速カウンタユニットユーザーズマニュアル Flex Network 2ch アナログユニットユーザーズマニュアル
PROFIBUS(Slave) ユニット	GP3000 シリーズ用 PROFIBUS ユニットユーザーズマニュアル
VM ユニット	GP2000 シリーズ VM ユニットユーザーズマニュアル

1.6 エラーが表示されたら... (エラーコード一覧)

エラーが表示されている場合はまずどこで、いつ、どんなエラーが表示されたのかを元に下記の表からエラー内容と対処方法をご確認ください。

どこで？	いつ？	どんな？	エラーの内容、対処方法はこちらへ
ソフト (GP-Pro EX 上) で	インストール時に	メッセージ	☞「1.6.1 ソフト (GP-Pro EX) で表示されるエラー ■インストール時に表示されるエラー」(1-73 ページ)
	画面データを作成中に	メッセージ	☞「1.6.1 ソフト (GP-Pro EX) で表示されるエラー ■画面作成時に表示されるエラー」(1-76 ページ)
	作成した画面データのエラーチェック時に	メッセージ	☞「1.6.1 ソフト (GP-Pro EX) で表示されるエラー ■エラーチェック時に表示されるエラー」(1-89 ページ)
	作成したロジックプログラムのエラーチェック時に	4桁の数字とメッセージ	☞「1.6.1 ソフト (GP-Pro EX) で表示されるエラー ロジックプログラム作成時」(1-95 ページ)
	シミュレーション時に	メッセージ	☞「1.6.1 ソフト (GP-Pro EX) で表示されるエラー ■シミュレーション時に表示されるエラー」(1-105 ページ)
	プロジェクトファイルを転送した時に	メッセージ	☞「1.6.1 ソフト (GP-Pro EX) で表示されるエラー 転送共通エラー」(1-106 ページ)
	モデムを接続してプロジェクトファイルを転送した時に	メッセージ	☞「1.6.1 ソフト (GP-Pro EX) で表示されるエラー モデム転送時のエラー」(1-109 ページ)
	CF メモリローダでプロジェクトファイルを転送した時に	メッセージ	☞「1.6.1 ソフト (GP-Pro EX) で表示されるエラー CF メモリローダ使用時のエラー」(1-109 ページ)
	ロジックプログラムをオンラインモニタした時に	メッセージ	☞「1.6.1 ソフト (GP-Pro EX) で表示されるエラー ロジックプログラム、オンラインモニタ時のエラー」(1-110 ページ)
	LT3000 シリーズにプロジェクトファイルを転送した時に	メッセージ	☞「1.6.1 ソフト (GP-Pro EX) で表示されるエラー LT3000 シリーズ使用時のエラー」(1-110 ページ)
	ProjectCopy でプロジェクトファイルを転送した時に	メッセージ	☞「1.6.1 ソフト (GP-Pro EX) で表示されるエラー ProjectCopy 使用時のエラー」(1-111 ページ)

次のページに続きます。

どこで？	いつ？	どんな？	エラーの内容、対処方法はこちらへ
表示器の画面上で	接続機器との通信がうまくいかない時に	RHxx ~	☞「1.6.2 表示器で表示されるエラー 接続がうまくいかないときに出るエラー」(1-113 ページ)
	ランタイムシステムで発生しているエラー	RAAAxxx ~	☞「1.6.2 表示器で表示されるエラー RAAA で始まるエラー (アプリケーションエラー)」(1-120 ページ)
	WinGP 機能のランタイム起動時に	RAAExxx ~	☞「1.6.2 表示器で表示されるエラー RAAE で始まるエラー」(1-126 ページ)
	ランタイムシステムで通信設定に関わるエラー	REAAxxx ~	☞「1.6.2 表示器で表示されるエラー REAA で始まるエラー」(1-128 ページ)
	表示器を起動中に	Start up Error : ~	☞「1.6.2 表示器で表示されるエラー その他のエラー (システムエラー)」(1-129 ページ)
	WinGP を起動時に	メッセージ	☞「1.6.2 表示器で表示されるエラー WinGP 起動時」(1-130 ページ)
	DIO ボードインターフェースに接続している機器が正常に動作しない時	RGE* ~	☞「1.6.2 表示器で表示されるエラー I/O ドライバエラー」(1-131 ページ)
	ロジックプログラム運転中に	RGAA001	☞「1.6.2 表示器で表示されるエラー Runtime エラー」(1-132 ページ)
	LT3000 シリーズをご利用の場合内部ドライバまたは外部ドライバのインターフェースに接続している接続機器が正常に動作しない時	3桁の数字とメッセージ	☞「1.6.2 表示器で表示されるエラー I/O ドライバエラー」(1-132 ページ)

1.6.1 ソフト (GP-Pro EX) で表示されるエラー

■ インストール時に表示されるエラー

転送ツール

エラーメッセージ	原因と対処方法	参照
この OS (Operating System) は転送ツールの対象 OS ではありません。	インストール環境が転送ツールの対照 OS であることを確認し、対象 OS で再度インストールを行ってください。	☞ GP-Pro EX リファレンスマニュアル「3.2.1 GP-Pro EX に必要な動作環境」(3-4 ページ)

GP-Pro EX

エラーメッセージ	原因と対処方法	参照
この OS (Operating System) は GP-Pro EX の対象 OS ではありません。	インストール環境が GP-Pro EX の対照 OS であることを確認してください。対照 OS で再度インストールを行ってください。	☞ GP-Pro EX リファレンスマニュアル「3.2.2 転送ツール専用動作環境」(3-5 ページ)

プロジェクトコンバータ

エラーメッセージ	原因と対処方法	参照
プロジェクトコンバータは V1.50.000 以上の GP-Pro EX がインストールされている環境にのみインストール可能です	GP-Pro EX がインストールされている環境にプロジェクトコンバータをインストールしてください。	☞ GP-Pro EX リファレンスマニュアル「2.1.4 プロジェクトコンバータ操作手順」(2-9 ページ)
GP-Pro EX のデータが不完全な状態のため、プロジェクトコンバータのインストールができません。 GP-Pro EX をインストールしなおした後、実行してください。	GP-Pro EX のデータが不足しています。GP-Pro EX をインストールし直した後、プロジェクトコンバータのインストールを行ってください。	☞ GP-Pro EX リファレンスマニュアル「2.1.4 プロジェクトコンバータ操作手順」(2-9 ページ)
GP-Pro EX がインストール済みの環境で転送ツールのインストールは実行できません	インストール環境には GP-Pro EX が不完全な状態で存在しています。アンインストールを促すダイアログが表示されるので、それに従い GP-Pro EX をアンインストールし、再度 GP-Pro EX をインストールしてください。 (GP-Pro EX をインストールすると転送ツールもインストールされます)	☞ 「GP-Pro EX インストールガイド」

インストール確認

エラーメッセージ	原因と対処方法	参照
インストールを行うには Windows Installer 3.1 が必要です。 Windows Installer インストール後は再起動が実行されます。 インストールを実行しますか？	[OK] ボタンを押し、Windows Installer をインストールしてください。	☞ 「GP-Pro EX インストールガイド」
インストールを中断します。 インストールを行うには Windows Installer 3.1 以上が必要です。	GP-Pro EX のインストールには Windows Installer 3.1 が必要です。インストールを再度行って下さい。	

Windows Installer 3.1

エラーメッセージ	原因と対処方法	参照
Windows Installer 3.1 のインストーラが起動できません。 GP-Pro EX をインストールする前に、Windows Update を行うかインストール CD から Windows Installer 3.1 のインストールを行ってください。	インストールを中断し、下記の方法で Windows Installer 3.1 へのアップデートを行った後、GP-Pro EX の CD からインストールを行ってください。 インストール先のパソコンがインターネット接続できる場合は Windows Update を行ってください。または、GP-Pro EX のインストール CD を開き、Windows Installer フォルダ内の exe ファイルを実行してください。	☞ 「GP-Pro EX インストールガイド」

Message アンインストール確認

エラーメッセージ	原因と対処方法	参照
この環境には次のバージョンがインストールされています。 GP-Pro EX 1.00.000 転送ツール 1.00.000 インストールを行うには、既存のバージョンを削除する必要があります。 アンインストールしますか？	既存の GP-Pro EX と、最新の GP-Pro EX は共存できません。最新のバージョンをインストールするには、[OK] を選択し既存の GP-Pro EX のアンインストールを行ってください。アンインストール後に最新バージョンのインストールが開始します。	☞ 「GP-Pro EX インストールガイド」

転送ツール起動失敗

エラーメッセージ	原因と対処方法	参照
転送ツールのインストーラ起動に失敗しました	インストーラの構成が正しくありません。 GP-Pro EX の CD からインストールを行ってください。	☞ 「GP-Pro EX インストールガイド」

GP-Pro EX 起動失敗

エラーメッセージ	原因と対処方法	参照
GP-Pro EX のインストーラ起動に失敗しました	インストーラの構成が正しくありません。 GP-Pro EX の CD からインストールを行ってください。	☞ 「GP-Pro EX インストールガイド」

プロジェクトコンバータ起動失敗

エラーメッセージ	原因と対処方法	参照
プロジェクトコンバータのインストーラ起動に失敗しました	インストーラの構成が正しくありません。GP-Pro EX の CD からインストールを行ってください。	☞「GP-Pro EX インストールレーションガイド」
PROP_INF の読み込みに失敗しました。	インストーラの構成が正しくありません。GP-Pro EX の CD からインストールを行ってください。	

パススルー機能起動失敗

エラーメッセージ	原因と対処方法	参照
パススルー機能のインストーラ起動に失敗しました	インストーラの構成が正しくありません。GP-Pro EX の CD からインストールを行ってください。	☞「GP-Pro EX インストールレーションガイド」

動画コンバータ起動失敗

エラーメッセージ	原因と対処方法	参照
動画コンバータのインストーラ起動に失敗しました	インストーラの構成が正しくありません。GP-Pro EX の CD からインストールを行ってください。	☞「GP-Pro EX インストールレーションガイド」

WinGP 起動失敗

エラーメッセージ	原因と対処方法	参照
WinGP のインストーラ起動に失敗しました	インストーラの構成が正しくありません。GP-Pro EX の CD からインストールを行ってください。	☞「GP-Pro EX インストールレーションガイド」

WinGP SDK 起動失敗

エラーメッセージ	原因と対処方法	参照
WinGP SDK のインストーラ起動に失敗しました	インストーラの構成が正しくありません。GP-Pro EX の CD からインストールを行ってください。	☞「GP-Pro EX インストールレーションガイド」

WinGP インストール

エラーメッセージ	原因と対処方法	参照
Pro-Server with Pro-Studio がインストールされている PC に WinGP をインストールすることはできません。Pro-Server with Pro-Studio をアンインストールしてから WinGP をインストールしてください。なお、Pro-Server with Pro-Studio の機能を使用したい場合は、Pro-Server EX V1.10 以降をご利用ください。	Pro-Server with Pro-Studio をアンインストールしてから WinGP をインストールしてください。Pro-Server with Pro-Studio の機能をご利用されたい場合は Pro-Server EX V1.10 以降をご利用ください。	☞ GP-Pro EX リファレンスマニュアル「37.3.2 設定手順インストール手順」(37-11 ページ)

次のページに続きます。

エラーメッセージ	原因と対処方法	参照
Pro-Server EX V1.10 未満がインストールされている PC に WinGP をインストールすることはできません。Pro-Server EX をアンインストールするか、バージョンを V1.10 以降にアップデートしてから WinGP をインストールしてください。	Pro-Server EX V1.10 未満をアンインストールしてから WinGP をインストールしてください。または Pro-Server EX V1.10 以降にバージョンアップしてから WinGP をインストールしてください。	 GP-Pro EX リファレンスマニュアル 「37.3.2 設定手順 インストール手順」 (37-11 ページ)
異なるバージョンの Pro-Server EX がインストールされています。先に異なるバージョンの Pro-Server EX をアンインストールしてからインストールしてください。	WinGP がインストールされている IPC に、Pro-Server EX Ver1.10 未満をインストールしようとした場合にこのエラーメッセージが表示されます。Pro-Server EX Ver1.10 以上をご利用ください。	
WinGP SDK が既にインストールされているため、WinGP SDK をアンインストールして、Pro-Server EX をインストールします。よろしいですか？ なお、WinGP SDK を利用したアプリケーションは、Pro-Server EX でそのまま利用可能です (Pro-Server EX での参加局設定は別途必要)。	「はい」を選択した場合 WinGP SDK をアンインストールした後、Pro-Server Ver1.10 がインストールされます。WinGP SDK で作成したアプリケーションをそのまま使用する場合は、WinGP 局の局名を [#WinGP] として NPX に登録してください。 「いいえ」を選択した場合 インストールが中断されます。	

■ 画面作成時に表示されるエラー

プロジェクトコンバータ

エラーメッセージ	原因と対処方法	参照
変換した結果 3 万文字を超えました。スクリプトをユーザ関数に分割するか、不要なコメントを削除してからもう一度コンバートして下さい。	一つのスクリプトに書かれている文字が多いので、関数化する、またはコメントを削除してからコンバートしてください。	—

起動

エラーメッセージ	原因と対処方法	参照
バージョンの異なるエディタを複数起動することは出来ません。	稼働中のエディタと同じバージョンのものを起動してください。	—
これ以上、エディタを起動することができません。	同時に起動できるのは 2 つまでです。	

次のページに続きます。

新規作成

エラーメッセージ	原因と対処方法	参照
オープンしようとしているファイルは、本アプリケーションのプロジェクトファイルでは無いため、開くことができませんでした。	ファイルの拡張子が (*.prx) となっているかを確認し、再度実行してください。	—
プロジェクトファイルの読み込みに失敗したため、開くことができませんでした。	対象ファイルが壊れているか、フォーマットが違いため読み込めませんでした。読み込み元ファイルの拡張子等を確認し、再度実行してください。	
GP-Pro/PB が起動できませんでした。 アプリケーションがインストールされている場合はファイルを指定して実行して下さい。	GP-Pro/PB がインストールされているか確認してください。 GP-Pro/PB のインストールには別 CD が必要です。	

プロジェクトプロパティ

エラーメッセージ	原因と対処方法	参照
フォルダが作成できませんでした。	CF カード出力フォルダの設定を確認し、指定ドライブ、フォルダを確認してください。	☞ GP-Pro EX リファレンスマニュアル 「5.7.2 設定手順 ■ 出力先フォルダの設定手順」(5-40 ページ)

画面管理

エラーメッセージ	原因と対処方法	参照
指定されたプロジェクトファイルが読み込めませんでした。コピーするファイルを指定しなおしてください。	ファイル保存先とのリンクが切れていないか確認して再度読み込んでください。	☞ GP-Pro EX リファレンスマニュアル 「5.8 他のプロジェクトから画面をコピーしたい」(5-42 ページ)
現在編集中のプロジェクトが指定されたため、コピーできませんでした。他のプロジェクトを指定してください。	編集中のプロジェクトファイルを指定する場合は編集を終了させてから指定してください。	

アドレス一括変換

エラーメッセージ	原因と対処方法	参照
アドレス一括変換の処理中に異常が発生しました。変換処理を中断し、変換前の状態に戻します。	ユーティリティ [アドレス一括変換] の設定を再度、手順どおりに設定し直してください。	☞ GP-Pro EX リファレンスマニュアル 「5.6.2 設定手順」(5-36 ページ)

次のページに続きます。

周辺機器設定

エラーメッセージ	原因と対処方法	参照
接続機器 n はプロジェクトファイル内の各種設定で使用されているため、削除できません。使用箇所はクロスリファレンスで確認することができます。 n は削除対象の接続機器番号	部品や機能でアドレスが使用されている機器は削除できません。 使用している部品、機能のアドレスを変更してから再度実行してください。	☞ GP-Pro EX リファレンスマニュアル「5.5 プロジェクト内で使用中のアドレスを一覧で確認したい」(5-27 ページ)

機種変更時アドレス一括変換

エラーメッセージ	原因と対処方法	参照
対象ファイルのフォーマットが違いため、インポートできませんでした。	ファイルが壊れているか、フォーマットが違いためインポートできませんでした。インポート元のファイルを確認し、再度実行してください。	☞ GP-Pro EX リファレンスマニュアル「7.4.2 設定手順 ■ アドレス変換範囲を指定して機種変更」(7-22 ページ)
対象ファイルの指定アドレスは、現在設定されている接続機器のアドレスではないため、インポートできませんでした。	ファイルのアドレスを確認し、再度実行してください。	
対象ファイルのフォーマットが違いため、一部のデータをインポートできませんでした。個別機器名やアドレスを確認してください。	ファイルの個別機器名やアドレスを確認し、再度実行してください。	
対象ファイルをインポートできませんでした。	ファイルが壊れているか、使用中のためインポートできませんでした。インポート元のファイルを確認し、再度実行してください。	
対象ファイルへエクスポートできませんでした。	対象ファイルが読み取り専用でないか、指定先のドライブ、フォルダを確認してください。	

検索ウィンドウ

エラーメッセージ	原因と対処方法	参照
置き換えようとした属性に、削除された部品の属性が含まれていました。 無効な属性は検索結果から削除されました。	このエラーを出さないようにするためには、置換する前は、必ず検索し直してください。	☞ GP-Pro EX リファレンスマニュアル「5.14.5 [ワークスペース] の設定ガイド ■ 検索ウィンドウ」(5-101 ページ)
文字数制限を越えるため置換できなかった属性があります。	文字の入力制限がある銘板などで、制限文字数を超えるように置換をかけた場合に表示されます。 (例) A→BB に置換することですべて A の文字列は 2 倍になる。	—

次のページに続きます。

D スクリプト

エラーメッセージ	原因と対処方法	参照
ユーザ定義関数が相互参照しているため、保存できません。 相互参照を修正してください。 相互参照とは、ユーザ定義関数 A がユーザ定義関数 B を呼び出し、ユーザ定義関数 B がユーザ定義関数 A を呼び出す状態のことです。	ユーザ定義関数は相互参照できません。呼び出す関数を確認してください。	☞ GP-Pro EX リファレンスマニュアル「20.6.3 ユーザ定義関数の設定の流れ」(20-40 ページ)

組み込み関数

エラーメッセージ	原因と対処方法	参照
[開始] アドレスと [終了] アドレスに異なるデバイスを設定することはできません。	[開始] アドレスと [終了] アドレスは同じデバイスを設定してください。	—
変換前アドレスの「終了」アドレスに対して、「開始」アドレスより若いアドレスを設定することはできません。正しい範囲を設定してください。	[終了] アドレスには [開始] アドレスより大きいアドレスを設定してください。	

アラーム文字列

エラーメッセージ	原因と対処方法	参照
アドレスが設定範囲を超えました。n を超える割付はできません。	アドレスの設定範囲を再確認し、自動割り付けを実行してください。 (n は設定可能な最大アドレス)	☞ GP-Pro EX リファレンスマニュアル「19.9.1 共通設定 (アラーム設定) の設定ガイド」(19-62 ページ)
現在位置からの設定可能な範囲は 1 ~ n です。範囲内の値を指定してください。	アドレスの設定範囲を再確認し、自動割り付けを実行してください。 (n は設定可能な最大追加ビット数)	☞ GP-Pro EX リファレンスマニュアル「19.9.1 共通設定 (アラーム設定) の設定ガイド ワード監視」(19-77 ページ)
上限値、下限値の大小関係が正しくありません。	上限値は下限値よりも大きい値を設定してください。	
最終行にアラーム設定が行われているため、行の挿入はできません。行挿入をキャンセルします。	これ以上アラーム行を挿入することができません。行挿入を行う場合は、最終行のメッセージを削除、または移動してください。	—
不正なファイルです。	インポートするファイルのフォーマットが正しくありません。正しいフォーマットのファイルを指定してください。	☞ GP-Pro EX リファレンスマニュアル「19.9.1 共通設定 (アラーム設定) の設定ガイド」(19-62 ページ)

次のページに続きます。

エラーメッセージ	原因と対処方法	参照
ファイルタイプが不正です。アラームデータではないためインポートできません。	インポートするファイルがアラームのデータではありません。アラームデータのファイルを指定してください。また [File Type] が変更されている可能性があります。[Alarm Data] であることを確認してください。	☞ GP-Pro EX リファレンスマニュアル「19.9.1 共通設定 (アラーム設定) の設定ガイド アラーム履歴のインポート / エクスポート」(19-72 ページ)
新しいバージョンのエディタで作成されているファイルです。インポートできません。	現在の GP-Pro EX のバージョンよりも以前もしくは同じバージョンで作成したデータを指定してください。	—
{0} 行目 : インポートできませんでした。データの欠落があります。	インポートするファイルのフォーマットが正しくありません。表示された行にデータの欠落があるため追記してください。	—
{0} 行目 [{1}] 行目が見つかりませんでした。	インポートするファイルのフォーマットが正しくありません。表示されたキーワードが存在しているか確認してください。	—
指定したファイルは既にオープンされているか読み取り専用になっているため、オープンできません。	他のアプリケーションにより使用されているファイルを閉じてください。	—
予期しないエラーが発生しました。アラームインポートに失敗しました。	—	☞ GP-Pro EX リファレンスマニュアル「19.9.1 共通設定 (アラーム設定) の設定ガイド アラーム履歴のインポート / エクスポート」(19-72 ページ)

次のページに続きます。

エラーメッセージ	原因と対処方法	参照
{0} 行目: [{1}] が不正な値です。有効範囲: [0・1]	範囲外の値が設定されています。正しい値を設定してからインポートしてください。	 GP-Pro EX リファレンスマニュアル「19.9.1 共通設定 (アラーム設定) の設定ガイド ■ アラーム設定 (ブロック 1) の設定ガイド」(19-75 ページ)
{0} 行目 [{1}] が不正な値です。有効範囲 [{2}-{3}]		 GP-Pro EX リファレンスマニュアル「19.9.1 共通設定 (アラーム設定) の設定ガイド ■ アラーム設定 (ブロック 1) の設定ガイド」(19-75 ページ)
{0} 行目: データ形式 [{1}] が不正な値です。有効範囲: [0:DEC・1:HEX・2:BCD]		 GP-Pro EX リファレンスマニュアル「19.9.1 共通設定 (アラーム設定) の設定ガイド ワード監視」(19-77 ページ)
{0} 行目: 印字設定 [{1}] が不正な値です。有効範囲 [0 リアルタイム印字・1 一括印字]		 GP-Pro EX リファレンスマニュアル「19.9.1 共通設定 (アラーム設定) の設定ガイド ■ アラーム設定 (共通設定) の設定ガイド」(19-63 ページ)

次のページに続きます。

エラーメッセージ	原因と対処方法	参照
{0} 行目： 電源投入時の継続動作 [{1}] が不正な値です。有効範囲： : [0 新規アラームとして表示・1: 継続アラームは表示しない]	範囲外の値が設定されています。正しい値を設定してからインポートしてください。	☞ GP-Pro EX リファレンスマニュアル「19.9.1 共通設定 (アラーム設定) の設定ガイド ■ アラーム設定 (共通設定) の設定ガイド」(19-63 ページ)
{0} 行目： フォントタイプ [{1}] が不正な値です。有効範囲： [0 : 標準フォント・1 : ストロークフォント]		☞ GP-Pro EX リファレンスマニュアル「19.9.1 共通設定 (アラーム設定) の設定ガイド ■ アラーム設定 (流れ) の設定ガイド」(19-81 ページ)
{0} 行目： カラー設定 [{1}] が不正な値です。カラー設定が変更されている可能性があります。		☞ GP-Pro EX リファレンスマニュアル「19.9.1 共通設定 (アラーム設定) の設定ガイド ■ アラーム設定 (流れ) の設定ガイド」(19-81 ページ)
{0} 行目： フォントサイズ [{1}] が不正な値です。		☞ GP-Pro EX リファレンスマニュアル「19.9.1 共通設定 (アラーム設定) の設定ガイド ■ アラーム設定 (流れ) の設定ガイド」(19-81 ページ)
{0} 行目： 発報条件 [{1}] が不正な値です。		☞ GP-Pro EX リファレンスマニュアル「19.9.1 共通設定 (アラーム設定) の設定ガイド ワード監視」(19-77 ページ)
{0} 行目： カラーモード [{1}] が不正な値です。 有効範囲： 0: カラー 65536 色ブリンク無し 2: カラー 16384 色 3 速ブリンク 4: カラー 4096 色 3 速ブリンク 5: モノクロ 16 階調 3 速ブリンク 6: カラー 256 色ブリンク無し 7: カラー 64 色 3 速ブリンク 8: カラー 16 色 1 速ブリンク 9: モノクロ 8 階調 1 速ブリンク 10: モノクロ 8 階調ブリンク無し		—

次のページに続きます。

レシビ設定

エラーメッセージ	原因と対処方法	参照
ファイリングデータ (CF) にアクセス出来なかったため変換できませんでした。設定を確認してください。	CF カード出力フォルダ内のデータが読み取り専用になっていないか確認してください。	☞ GP-Pro EX リファレンスマニュアル「5.7.2 設定手順 ■ 出力先フォルダの設定手順」(5-40 ページ)
一部の情報が貼り付けできませんでした	貼り付け範囲と貼り付けるデータの範囲が異なる可能性があります。貼り付けるデータの内容を確認してください。	—
対象ファイルを読み込みませんでした。	指定したデータが壊れている可能性があります。CF カード出力フォルダ内にデータを確認してください。	☞ GP-Pro EX リファレンスマニュアル「5.7.2 設定手順 ■ 出力先フォルダの設定手順」(5-40 ページ)
CSV ファイルが作成されていないため、インデックスファイルを作成できません。	CSV ファイルを作成後に実行してください。	☞ GP-Pro EX リファレンスマニュアル「25.11.3 条件名検索機能について インデックスファイルとは？」(25-99 ページ)
対象ファイルに不要なデータが存在するため、一部のデータを読み込みませんでした。	対象ファイルに指定範囲外のデータが存在します。インポート元ファイルのデータ範囲を再確認してください。 (範囲外のデータは削除してインポートされます)	☞ GP-Pro EX リファレンスマニュアル「25.3 レシビ (CSV データ) を作成したい」(25-9 ページ)
対象ファイルのフォーマットが異なるため、読み込みませんでした。	対象ファイルが壊れているか、フォーマットが異なるため読み込みませんでした。読み込み元のファイルを確認し、再度実行してください。	
対象ファイルを読み込みませんでした。	対象ファイルが壊れているか、使用中のため読み込みませんでした。ファイルを確認し、再度実行してください。	
対象ファイルへ書き込みませんでした。	出力先のファイルやディスクを確認し、再度実行してください。	

セキュリティ設定

エラーメッセージ	原因と対処方法	参照
同じパスワードが設定されています。パスワードを変更してください。	同一パスワードを複数のレベルで指定することはできません。パスワードを変更してください。	☞ GP-Pro EX リファレンスマニュアル「22.5 共通設定 (セキュリティ設定) の設定ガイド」(22-9 ページ)
「オフライン移行時にレベル 15 のパスワードを使用する」が有効になっています。レベル 15 にパスワードを設定してください。	レベル 15 のパスワードを設定してください。	☞ GP-Pro EX リファレンスマニュアル「22.5.1 パスワード設定」(22-9 ページ)

次のページに続きます。

サウンド設定

エラーメッセージ	原因と対処方法	参照
貼り付け先の範囲指定が正しくないため、貼り付けできません。	貼り付け先が貼り付け元の範囲指定の N 倍 (N は 1 以上の整数) となるようにしてください。	—
アドレスが設定範囲を超えました。〔最大値〕を超える割付はできません	接続機器に対応したデバイスアドレスを指定してください。	
指定したファイルを読み込むことができませんでした。	対象ファイルを確認し、再度実行してください。	
指定したファイルを変換した後、ファイルに出力することができませんでした。	対象ファイルを確認し、再度実行してください。	
指定したファイルは未対応のフォーマットのため、読み込むことができませんでした。	変換可能なフォーマットに変換し、再度実行してください。	 GP-Pro EX リファレンスマニュアル「26.5.1 共通設定 (サウンド設定) の設定ガイド」(26-13 ページ)
サウンドデータが存在しないため、編集 (削除、再生) できません。	CF カード出力フォルダ内にデータが存在するか確認してください。	 GP-Pro EX リファレンスマニュアル「5.7.2 設定手順 ■ 出力先フォルダの設定手順」(5-40 ページ)

文字列テーブル

エラーメッセージ	原因と対処方法	参照
文字数と文字行数の範囲内に文字列が収まらない場所があります。貼り付けできませんでした。	貼り付ける文字列が文字数と文字行数の範囲内に収まるようにしてください。	 GP-Pro EX リファレンスマニュアル「15.7.3 文字列テーブル設定の設定ガイド」(15-48 ページ)
メッセージが入力されているセルは、削除することができませんでした。	メッセージを削除してから、セルの削除を行ってください。	—
対象ファイルのフォーマットが異なるため、インポートできません。	ファイルが壊れているか、フォーマットが異なるためインポートできませんでした。インポート元のファイルを確認し、再度実行してください。	 GP-Pro EX リファレンスマニュアル「15.6 登録した文字列テーブルを別ファイルで管理したい / 他のプロジェクトでも利用したい」(15-29 ページ)
指定数以上設定されている文字列は、インポートされませんでした。 ・ [言語番号 : 言語 : テーブル名] ・ [言語番号 : 言語 : テーブル名]	指定ファイルに指定範囲外のデータが存在します。 範囲外のデータは削除してインポートされます。 [言語番号] 1 ~ 16 [言語] エクスポート時出力される形式 [テーブル名] 文字数 × 文字行数 1200	
対象ファイルをインポートできませんでした。	ファイルが壊れているか、使用中のためインポートできませんでした。インポート元のファイルを確認し、再度実行してください。	

次のページに続きます。

エラーメッセージ	原因と対処方法	参照
使用できない言語が設定されているため、インポートに失敗しました。	ファイル内の言語設定で指定している言語が現在オープン中のプロジェクトでは指定されていません。インポート元ファイルを確認するか、システム設定 → フォント設定で使用フォントの追加を行い、再度実行してください。	☞ GP-Pro EX リファレンスマニュアル「6.2 ストロークフォント、標準フォント」(6-3 ページ)
対象ファイルへエクスポートできませんでした。	出力先のファイルやディスクを確認し、再度実行してください。	☞ GP-Pro EX リファレンスマニュアル「15.6.2 設定手順 ■ エクスポート」(15-30 ページ)
文字数と文字行数の範囲内に文字列が収まらない行があります。インポートできませんでした。	インポートする文字列が文字数と文字行数の範囲内に収まるように設定してください。	☞ GP-Pro EX リファレンスマニュアル「15.6.2 設定手順 ■ インポート」(15-32 ページ)

多言語切り替え

エラーメッセージ	原因と対処方法	参照
指定した言語に一致するフォントが、Windows® にインストールされていないため、文字が正常に表示されない場合があります。	選択したテーブルのメッセージに、現在の OS では表示できない言語フォントが含まれています。 OS を変更するかフォントを追加でインストールしてください。	—

シンボル変数一覧

エラーメッセージ	原因と対処方法	参照
現在使用中のシンボル変数は削除できません。使用箇所はクロスリファレンスで確認することができます。	部品等に登録されているシンボルを別のシンボル（もしくはアドレス）に変更してから、対象シンボルの削除を行ってください。	☞ GP-Pro EX リファレンスマニュアル「5.9 アドレスを分かりやすい名前で登録したい」(5-46 ページ)

イメージ管理

エラーメッセージ	原因と対処方法	参照
作画対象である表示器本体のカラー数範囲と異なる設定のため、選択された設定は、正しく表示されない可能性があります。	表示器本体の色数の制限により、本体上で正しく表示されない場合があります。色数を確認して、再度変換を行ってください。	☞ GP-Pro EX リファレンスマニュアル「9.5 色・線種・パターンを変えたい」(9-34 ページ)
イメージを読み込めませんでした。他のイメージを指定してください。	ファイルが壊れているか、フォーマットが違う、あるいは使用中のためインポートできませんでした。インポート元のファイルを確認し、再度実行してください。	—
オリジナルファイルが[元のファイルの場所]に存在しないため、変換できません。	変換元ファイルが指定された場所にありません。ファイルの場所を指定し、再度実行してください。	—

次のページに続きます。

イメージ部品

エラーメッセージ	原因と対処方法	参照
イメージを読み込めませんでした。他のイメージを指定してください。	指定したイメージファイルが壊れているか、bmp または JPEG 形式ではありません。ファイルを指定しなおしてください。	 GP-Pro EX リファレンスマニュアル「9.10 画像を貼り付けたい」(9-62 ページ)

マーク

エラーメッセージ	原因と対処方法	参照
マークライブラリの更新に失敗しました。	マークの削除に失敗しました。指定ファイルが読み取り専用でないか、指定先ファイル、フォルダ等を確認してください。	—
指定されたマークライブラリ名が無効なため、マークライブラリの新規作成に失敗しました。	マークライブラリ名を変更して、再度実行してください。	
指定されたマークライブラリ名が無効なため、マークライブラリの名称変更失敗しました。	マークライブラリ名を変更して、再度実行してください。	

パッケージウィンドウ

エラーメッセージ	原因と対処方法	参照
*** パッケージには、ユーザ作成部品を登録することが出来ません。ユーザ作成部品が登録できるのは、ユーザが作成したパッケージです。	パッケージを新規作成し作成した部品を登録し直してください。	 GP-Pro EX リファレンスマニュアル「9.8.2 作成した絵をパッケージに登録しよう」(9-54 ページ)

テンプレート

エラーメッセージ	原因と対処方法	参照
対象テンプレートを読み込めませんでした。	他のテンプレートを選択してください。	—

複数コピー

エラーメッセージ	原因と対処方法	参照
1 画面に対する部品数の制限を超えたため、指定された数の複数コピーが正常に完了しませんでした。部品数の制限数は○○○までです。	不要な部品がある場合は削除して、再度実行してください。	 GP-Pro EX リファレンスマニュアル「5.15.1 画面作成の制限事項 ■ 画面に配置できる機能数」(5-157 ページ)
アドレスの設定範囲を超えたため、指定された数の複数コピーが正常に完了しませんでした。	複数のアドレスを持つ部品の場合、1 つでもアドレスが範囲を超えていると表示されます。アドレスの範囲を確認し、再度実行してください。	—

次のページに続きます。

部品一覧

エラーメッセージ	原因と対処方法	参照
対象ファイルへエクスポートできませんでした。	出力先のファイルやディスクを確認し、再度実行してください。	—

部品選択ツールバンド

エラーメッセージ	原因と対処方法	参照
対象ファイルを読み込めませんでした。	指定したイメージファイルが壊れているか、bmp または JPEG 形式ではありません。読み込み先のファイルやドライブを確認してください。	—
対象ファイルへ書き込めませんでした。	ファイルの書き込みに失敗しました。書き込み先のファイルやドライブを確認してください。	

データ制限

エラーメッセージ	原因と対処方法	参照
保存しようとしているプロジェクトファイルは、データ制限を超えています。データ制限を超えている箇所があると、プロジェクトファイルを本体へ送信することができません。データ制限を超えている箇所については、以下を参照してください。 プロジェクトファイルをそのまま保存しますか？	エラーが存在するデータは、保存はできませんが、本体へは送信できません。エラー内容を確認してください。	☞ 「1.6.1 ソフト (GP-Pro EX) で表示されるエラー ■ 画面作成時に表示されるエラー」(1-76 ページ)
履歴記憶数が上限を超えています。この表示器で利用できる履歴記憶数は 768 です。	IPC シリーズ以外の表示器でアラーム履歴記憶数の合計が 768 を超えています。(IPC からの機種変更により生じます) 履歴記憶数の合計を 768 以下に設定してください。	☞ GP-Pro EX リファレンスマニュアル「37.1.3 GP との相違点」(37-4 ページ)
登録可能メッセージ数を超えています。この表示器で利用できるメッセージ数はビット監視、ワード監視をあわせて全ブロックで 2048 個までです。	IPC シリーズ以外の表示器でビット監視 / ワード監視に設定されているメッセージが 2048 個を超えています。(IPC からの機種変更により生じます) メッセージ登録数を 2048 個以下にしてください。	☞ GP-Pro EX リファレンスマニュアル「19.9.1 共通設定 (アラーム設定) の設定ガイド ■ アラーム設定 (ブロック 1) の設定ガイド」(19-75 ページ)

印刷全般

エラーメッセージ	原因と対処方法	参照
印刷項目を選択してください。	印刷項目が選択されていません。選択内容を確認し、再度実行してください。	☞ GP-Pro EX リファレンスマニュアル「34.6.1 [印刷] の設定ガイド ■ 共通設定」(34-42 ページ)

次のページに続きます。

WinGP

エラーメッセージ	原因と対処方法	参照
部品数が上限を超えています。	1 画面に配置されている部品の総数が 1,280 個を超えています。 画面に配置されている部品の数を減らしてください。	 GP-Pro EX リファレンスマニュアル 「37.1.3 GP との相違点」(37-4 ページ)
アドレス数が上限を超えています。	1 画面に配置されているアドレスの総数が 3,000 個を超えています。 画面に配置されているアドレスの数を減らしてください。	
送信データサイズが上限を超えています。送信データサイズを確認して下さい。	プロジェクトデータの総容量が制限値を超えています。 プロジェクト内の描画、部品、デバイスなどを削除し、総容量を制限値以下にしてください。GP3000 : 8M IPC : 16M	

RPA 機能

エラーメッセージ	原因と対処方法	参照
RPA 機能キーコードが間違っています。	間違った RPA 機能キーコードが設定されています。 正しいキーコードを該当欄に入力してください。	 GP-Pro EX リファレンスマニュアル 「36.3.2 設定手順 ■ 詳細手順」(36-7 ページ)

■ エラーチェック時に表示されるエラー

画面作成時

エラー番号	画面ID/No/ 行	エラーメッセージ	対処方法	参照
1000	周辺機器設定	ポートの設定が重なっています。周辺機器一覧で確認してください。	ポート項目に！マークの表示がある周辺機器を確認し、重ならないポートへ変更してください。	👉 GP-Pro EX リファレンスマニュアル「7.2.2 設定手順」(7-4 ページ)
1001	セキュリティ設定	セキュリティ設定のパスワードが重複しています。パスワードを変更してください。	各レベルで異なるパスワードを設定してください。	👉 GP-Pro EX リファレンスマニュアル「22.5.1 パスワード設定」(22-9 ページ)
1002	アラーム設定	履歴記憶数が上限を超えています。この表示器で使用する履歴記憶数は 768 です。	履歴記憶数が 768 個以下になるように設定してください。	👉 GP-Pro EX リファレンスマニュアル「19.9.1 共通設定 (アラーム設定) の設定ガイド ■ アラーム設定 (共通設定) の設定ガイド」(19-63 ページ)
1003	アラーム設定	登録可能メッセージ数を超えています。この表示器で使用するメッセージ数はビット監視、ワード監視をあわせて全ブロックで 2048 個までです。	アラームメッセージが 2048 個以下になるように超過したメッセージを削除してください。	👉 GP-Pro EX リファレンスマニュアル「19.9.1 共通設定 (アラーム設定) の設定ガイド ■ アラーム設定 (ブロック 1) の設定ガイド」(19-75 ページ)
1004	アラーム設定	登録可能メッセージ数を超えています。この表示器で使用するメッセージ数は全ブロックでワード監視 768 個までです。	ワード監視のアラームメッセージを 768 個以下になるように超過したメッセージを削除してください。	👉 GP-Pro EX リファレンスマニュアル「19.9.1 共通設定 (アラーム設定) の設定ガイド ■ アラーム設定 (共通設定) の設定ガイド」(19-63 ページ)
1006	ビデオ / 動画設定	この表示器では、ビデオ / 動画設定は使用できません。ビデオ / 動画設定を削除してください。	[ビデオ / 動画設定] を削除してください。	👉 GP-Pro EX リファレンスマニュアル「1.3 機種別サポート機能一覧」(1-5 ページ)
1007	FTP サーバ設定	この表示器では、FTP サーバ設定は使用できません。FTP サーバ設定を削除してください。	[FTP サーバ設定] を削除してください。	👉 GP-Pro EX リファレンスマニュアル「27.9.2 [FTP サーバ設定] の設定ガイド」(27-89 ページ)

次のページに続きます。

エラー番号	画面ID/No/行	エラーメッセージ	対処方法	参照
1008	サウンド設定	この表示器では、サウンドは使用できません。サウンドデータを削除してください。	サウンドデータを削除してください。	 GP-Pro EX リファレンスマニュアル「1.3 機種別サポート機能一覧」(1-5 ページ)
1009	VM ユニットウィンドウ設定	この表示器では、VM ユニットウィンドウは使用できません。VM ユニットウィンドウを削除してください。	VM ユニットウィンドウを削除してください。	
1010	—	この表示器では、1,000 個以上の変数は正しく動作しません。シンボル変数編集ビューを確認してください。	変数が 1000 以下になるように超過した変数を削除してください。	 GP-Pro EX リファレンスマニュアル「5.14.8 [共通設定] の設定ガイド ■ シンボル変数設定」(5-150 ページ)
1011	本体設定	RPA 機能キーコードが設定されていません。	システム設定ウィンドウ [本体設定]-[拡張機能設定] の [RPA 機能キーコード設定] にキーコードを設定してください。	 GP-Pro EX リファレンスマニュアル「5.14.6 [システム設定ウィンドウ] の設定ガイド 拡張機能設定」(5-129 ページ)
1500	プロジェクト情報	送信データサイズが上限を超えています。送信データサイズを確認してください。	ユーザー画面エリアが各機種に対して下記のメモリ範囲内に収まるように設定してください。 GP-330* (6M バイト) GP-34** ~ 37** (8M バイト) IPC シリーズ (16M バイト) (ただしデータ構造の仕様上 90 数 % 程度でエラー出力される可能性があります)	 GP-Pro EX リファレンスマニュアル「6.4 [フォント設定] の設定ガイド」(6-19 ページ)
1501	—	*** に不正なアドレスがあります。正しいアドレスを設定してください。	指定された場所のアドレスに対してキーパッドを使ってアドレス入力を行ってください。(*** には、共通設定の機能や画面の場合、"ベース画面 1" などと場所を特定できる表示を行います)	 GP-Pro EX リファレンスマニュアル「14.2.2 設定手順」(14-6 ページ)
1502	シンボル変数設定	実アドレスが定義されていないシンボルがあります。シンボル設定で確認してください。	アドレス設定にシンボルを使用、または空欄になっている部品を削除するか、空欄の場合はアドレスを設定してください。	 GP-Pro EX リファレンスマニュアル「5.9.2 設定手順」(5-47 ページ)
1503	フォント設定	プロジェクトで使用するフォントに登録していないフォントが指定されています。フォント設定で追加を行うか、フォントを変更してください。	システム設定のフォント設定で追加を行うか、選択中のフォントを変更してください。	 GP-Pro EX リファレンスマニュアル「6.4 [フォント設定] の設定ガイド」(6-19 ページ)

次のページに続きます。

エラー番号	画面ID/No/ 行	エラーメッセージ	対処方法	参照
1504	プロジェクト情報	バックアップ SRAM の容量を超えています。超過分は実行されません。プロジェクト情報で確認してください。	使用する SRAM 容量の合計が約 320K バイト (GP-3202B のみ約 120K バイト) を超えないようにしてください。	 GP-Pro EX リファレンスマニュアル「5.7 プロジェクト情報をみたい」(5-38 ページ)
1505	サンプリング設定	サンプリング設定の「SRAM にバックアップを行う」が OFF のグループの設定が、データ保存領域の範囲を超えています。超過分は実行されません。	「SRAM にバックアップを行う」が OFF のグループの設定が、データ保存領域の範囲を超えています。サンプリングワード数や回数を減らして、保存領域の範囲内に収まるように設定してください。	 GP-Pro EX リファレンスマニュアル「24.9.1 概要 DRAM」(24-98 ページ)
1506	—	CF カードを使用する機能が設定されています。この機種は CF カードに対応していませんので、動作できません。	GP-3202B の機種にて CF カード出力フォルダが設定されています。機種変更するか、CF カード出力フォルダを設定しないようにしてください。	 GP-Pro EX リファレンスマニュアル「5.14.6 [システム設定ウィンドウ] の設定ガイド ■ [機種設定] の設定ガイド」(5-106 ページ)  GP-Pro EX リファレンスマニュアル「5.7 プロジェクト情報をみたい」(5-38 ページ)
1507	グローバル D スクリプト	使用可能なデバイス数の制限値を超えました。グローバル D スクリプト全体で使用可能なデバイス数は 255 個までです。	トリガ条件の同じスクリプトを複数作り命令文を分けるなどしてグローバル D スクリプト (call している関数も含む) 内での総使用アドレス数が、256 個を超えないように設定してください。	 GP-Pro EX リファレンスマニュアル「20.9.1 D スクリプト / グローバル D スクリプトの制限事項」(20-53 ページ)
1508	グローバル D スクリプト	グローバル D スクリプト、関数の総数が上限を超えています。32 個を超えた分は実行されません。	トリガ条件の同じ複数のスクリプトを 1 つにまとめるなどしてグローバル D スクリプト、関数の総数が、32 個を超えないようにしてください。	
1509	グローバル D スクリプト	グローバル D スクリプト [グローバル D スクリプト番号] にエラーが存在します。式が正しくありません。	[メッセージエリア] に表示されたコメント等を参照して、ツールボックス、組み込み関数を利用し確実に式を入力してください。	 GP-Pro EX リファレンスマニュアル「20.8.1 D スクリプト / 共通設定 [グローバル D スクリプト設定] の設定ガイド」(20-48 ページ)
1510	拡張スクリプト	拡張スクリプトにエラーが存在します。式が正しくありません。	[メッセージエリア] に表示されたコメント等を参照して、ツールボックス、組み込み関数を利用し確実に式を入力してください。	
1511	—	データ転送表示器の総数が上限を超えています。32 個を超えた分は動作できません。	プロジェクト全体での配置の総数が 32 個を超えないようにしてください。	 GP-Pro EX リファレンスマニュアル「5.15.1 画面作成の制限事項 ■ 画面に配置できる機能数」(5-157 ページ)

次のページに続きます。

エラー番号	画面ID/No/行	エラーメッセージ	対処方法	参照
1600	1	D スクリプト [ID/No] の式が正しくありません。	ツールボックス、組み込み関数等の入力補助機能を利用して確実に式を入力し、[メッセージエリア] にエラーが残らないようにしてください。	GP-Pro EX リファレンスマニュアル「20.8.1 D スクリプト / 共通設定 [グローバル D スクリプト設定] の設定ガイド」(20-48 ページ)
1601	1	データー括表示グラフ、ヒストリカルトレンドグラフ部品は合わせて 8 個まで配置可能です。	データー括表示グラフ、ヒストリカルトレンドグラフは 1 画面に 8 個のみ配置可能です。	GP-Pro EX リファレンスマニュアル「5.15.1 画面作成の制限事項 ■ 画面に配置できる機能数」(5-157 ページ)
1602	1	データー括表示グラフ、ヒストリカルトレンドグラフのチャンネルは 20 チャンネルのみ設定可能です。	データー括表示グラフ、ヒストリカルトレンドグラフのチャンネルは 40 チャンネルのみ設定可能です。	GP-Pro EX リファレンスマニュアル「17.8.2 ヒストリカルトレンドグラフの制限事項」(17-69 ページ)
1603	—	部品数が上限を超えています。	部品数を減らしてください。	GP-Pro EX リファレンスマニュアル「5.15.1 画面作成の制限事項 ■ 画面に配置できる機能数」(5-157 ページ)
1604	—	アドレス数が上限を超えています。	アドレス数を減らしてください。	—
1605	1	画面データのサイズが上限を超えています。	部品を別画面に分けるなどして 1 画面あたりのデータ容量が 1M バイトを超えないようにしてください。	GP-Pro EX リファレンスマニュアル「5.15.1 画面作成の制限事項 ■ 作成できる画面数」(5-156 ページ)
1606	1	データ表示 (入力許可)、サンプリングデータ表示器、特殊データ表示器 (CSV 表示) は同時配置できません。	いずれか 1 個の表示器だけを配置するようにしてください。	—
1607	1	ウィンドウ画面上ではデータ表示 (ポップアップ有り) は使用できません。	ウィンドウ上のデータ表示器にデータを入力する場合は、データ表示器の「ポップアップキーボードを使用する」のチェックをはずし、キーボードを直接ウィンドウ画面に配置してください。	GP-Pro EX リファレンスマニュアル「14.11.1 数値表示」(14-45 ページ)
1610	1	サマリ機能は 1 画面に 1 個のみ配置可能です。	アラームのサマリ機能は 1 画面に 1 個のみ配置可能です。	GP-Pro EX リファレンスマニュアル「19.3.2 設定手順」(19-14 ページ)
1611	1	サブ表示を使用するアラーム部品は 1 画面に 1 個のみ配置可能です。	アラーム部品 (履歴) を画面上へ複数配置している場合、サブ表示は行えません。サブ表示を行う場合は、アラーム部品 (履歴) を 1 つにしてください。	GP-Pro EX リファレンスマニュアル「19.9.3 テキストアラーム部品の設定ガイド」(19-121 ページ)

次のページに続きます。

エラー番号	画面ID/No/行	エラーメッセージ	対処方法	参照
1612	1	図形表示器のCFファイル表示機能は1画面に1個のみ配置可能です。	画面上へ配置する図形表示器 (CF ファイル表示機能) は1つにしてください。2 個目からの配置に関しては動作が保証できません。	☞ GP-Pro EX リファレンスマニュアル「10.6.4 図形表示器 (CF 画像表示) の制限事項」(10-56 ページ)
1613	1	図形表示器の移動表示で指定できる表示位置数は1画面に512 個のみ配置可能です。	1 画面に配置する図形表示器の表示位置数の合計が512 個を超えないようにしてください。	☞ GP-Pro EX リファレンスマニュアル「10.6.3 図形表示器 (移動表示) の制限事項」(10-54 ページ)
1614	1	図形表示器の移動表示は (マーク) は1画面に30 個のみ配置可能です。	画面上へ配置する図形表示器の数を減らしてください。	
1615	1	特殊データ表示器のデータ転送機能は1画面に1 個のみ配置可能です。	画面上へ配置する特殊データ表示器 (データ転送機能) は1つにしてください。2 個目からの配置に関しては動作が保証できません。	—
1616	1	特殊データ表示器のCSV 表示機能は1画面に1 個のみ配置可能です。	画面上へ配置する特殊データ表示器 (CSV 表示機能) は1つにしてください。2 個目からの配置に関しては動作が保証できません。	☞ GP-Pro EX リファレンスマニュアル「25.13.2 CSV データ表示 / 編集 / 印字の制限事項 ■ 表示の制限事項」(25-116 ページ)
1618	1	ウインドウ画面上では特殊データ表示器のCSV 表示機能の編集モードは使用できません。	ベース画面上に貼り付けた特殊データ表示器にて CSV 表示機能を使用してください。	
1619	1	特殊データ表示器のファイルマネージャ表示機能は1画面に1 個のみ配置可能です。	画面上へ配置する特殊データ表示器 (ファイルマネージャ表示機能) は1つにしてください。2 個目からの配置に関しては動作が保証できません。	
1620	1	ウインドウ画面上では特殊データ表示器のファイルマネージャ機能は使用できません。	ベース画面上に貼り付けた特殊データ表示器にてファイルマネージャ機能を使用してください。	—
1621	1	サンプリングデータ表示器は1画面に1 個のみ配置可能です。	画面上へ配置するサンプリングデータ表示器は1つにしてください。2 個目からの配置に関しては動作が保証できません。	
1623	1	ウインドウ画面上ではサンプリングデータ表示器のデータ編集機能は使用できません。	ウインドウ画面上でサンプリングデータ表示器を使用する場合は、データ編集機能は使用しないでください。	☞ GP-Pro EX リファレンスマニュアル「24.8.2 サンプリングデータ表示器の設定ガイド ■ 基本設定」(24-91 ページ)

次のページに続きます。

エラー番号	画面ID/No/行	エラーメッセージ	対処方法	参照
1624	1	スイッチ/ランプの過去表示機能は1画面に1個のみ配置可能です。	画面上へ配置するスイッチ/ランプ(過去表示機能)は1つにしてください。2個目からの配置に関しては動作が保証できません。	 GP-Pro EX リファレンスマニュアル「17.8.2 ヒストリカルトレンドグラフの制限事項 ■ 過去データ表示の制限事項」(17-71 ページ)
1625	1	ヒストリカルトレンドグラフの過去データ表示機能は1画面に1個のみ配置可能です。	画面上へ配置するヒストリカルトレンドグラフ(過去表示機能)は1つにしてください。2個目からの配置に関しては動作が保証できません。	
1626	1	常時読み込みが設定されたウィンドウは1画面に3個(グローバルウィンドウ使用時は2個)まで配置可能です。	画面上へ配置する常時読み込み設定のウィンドウ部品は3個(グローバルウィンドウ使用時は2個)までにしてください。それ以降のウィンドウは動作しませんが常時読み込みあり3個+通常381個という形まで画面上に配置することは可能です。	 GP-Pro EX リファレンスマニュアル「18.7.1 ビット動作」(18-22 ページ)
1627	1	1つの画面に呼び出すことのできるキーボードは1個のみです。	画面上へ配置するキーボード(キーボード登録による画面呼び出し)は1つにしてください。2個目からの配置に関しては動作が保証できません。	 GP-Pro EX リファレンスマニュアル「9.10 画像を貼り付けたい」(9-62 ページ)
1628	1	動画表示器は1画面に1個のみ配置可能です。	画面上へ配置できる動画表示器は1つです。2個目からの動作は保証できません。	—
1629	1	文字列テーブルでストロークフォントのみ表示可能な言語が設定されています。文字列テーブルを使用する場合は、フォントタイプをストロークフォントに設定してください。	文字列テーブルの「言語切替言語」で選択された言語の中にはストロークフォントでのみ表示可能な言語があります。「文字タイプ」で「文字列テーブル」を使用する場合は、「フォントタイプ」を「ストロークフォント」に設定してください。	 GP-Pro EX リファレンスマニュアル「15.7.1 メッセージ表示器の設定ガイド 表示設定(文字列テーブル)」(15-38 ページ)
1630	1	テキストアラームは1画面に1個のみ配置可能です。	画面上へ配置するテキストアラームは1つにしてください。2個目からの配置に関しては動作が保証できません。	 GP-Pro EX リファレンスマニュアル「19.10.4 テキストアラーム部品の制限事項」(19-140 ページ)
1631	1	キーボード登録には、画面呼出しのキーボード登録は配置できません。	キーボード登録には、画面呼出しのキーボード登録は配置できません。	—
1632	1	RPA 表示器は1画面に1個のみ配置可能です。	RPA 表示器は1画面に1個以上配置しないでください。	 GP-Pro EX リファレンスマニュアル「5.15.1 画面作成の制限事項 ■ 画面に配置できる機能数」(5-157 ページ)

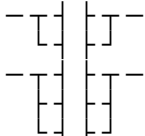
1 ベース[番号:コメント]、ウィンドウ[番号:コメント]、ヘッダ[コメント]、フッタ[コメント]、VM[番号:コメント]が表示されます。

ロジックプログラム作成時

・ 命令オペランドのエラー

エラー番号	エラーメッセージ	原因と対処方法
2000	***は配列ではありません。配列の要素を削除するか、***を配列に指定して下さい。 (***はシンボル変数名)	非配列変数に対して配列要素指定しています。配列の要素指定を削除するか、変数を配列指定してください。
2001	***の配列要素範囲を超えています。要素範囲内で使用するか、配列要素数を大きくして下さい。 (***はシンボル変数名)	配列要素指定が定数で配列の要素数を超えています。 変数名 [n] ...n=0 ~ 要素数 -1 定数値をシンボル変数設定時に設定した、要素数 -1 以下に設定してください。
2002	***のメンバ指定はできません。メンバ指定を削除して下さい。 (***はシンボル変数名)	構造体変数でないのにメンバ名を指定している。(例: aaa.PT aaa は整数変数。)メンバ指定が可能は変数のタイプはタイマ、カウンタ、日付、時刻、PID になります。以外のタイプの場合は、メンバ指定を削除してください。
2003	***に指定されたメンバは存在しません。メンバ指定を確認して下さい。 (***はシンボル変数名)	構造体変数の存在しないメンバ名を参照しています。メンバ指定を変更してください。
2004	***はビット参照できません。整数タイプに変更するか、ビット参照を削除して下さい。 (***はシンボル変数名)	ビット参照できるタイプは、整数タイプになります。整数タイプなら配列・非配列に問わずビット参照可能です。ビット参照を希望する場合はタイプを整数変数に変更してください。整数変数が使用できない場合は、ビット参照を削除してください。
2005	***はバイト参照できません。整数タイプに変更するか、バイト参照を削除して下さい。 (***はシンボル変数名)	バイト参照できるタイプは、整数タイプになります。整数タイプなら配列・非配列に問わずバイト参照可能です。バイト参照を希望する場合はタイプを整数変数に変更してください。整数変数が使用できない場合は、バイト参照を削除してください。
2006	***はワード参照できません。整数タイプに変更するか、ワード参照を削除して下さい。 (***はシンボル変数名)	ワード参照できるタイプは、整数タイプになります。整数タイプなら配列・非配列に問わずワード参照可能です。ワード参照を希望する場合はタイプを整数変数に変更してください。整数変数が使用できない場合は、ワード参照を削除してください。
2035	オンラインエディット可能なデータサイズを超えています。	オンラインエディットにて編集した行に存在するタイマ命令・カウンタ命令に割り付いているタイマ変数・カウンタ変数の設定値変更数が多すぎるため、一回に編集できる (AGP へ送信できる) タイマ変数・カウンタ変数の設定値データサイズの上限を超えています。編集した行のいくつかのタイマ変数・カウンタ変数の設定値を変更前の値に戻すか、編集をキャンセルして、モニタステップに移行してください。

次のページに続きます。

エラー番号	エラーメッセージ	原因と対処方法
2500	ロジックを使用しない設定になっています。ロジックを使用する設定に変更しますか。	ロジックプログラムを「使用しない」の設定になっているにも関わらず、ロジックプログラムが記述されています。記述しているロジックプログラムは「使用しない」の設定の場合は、動作しません。描画動作上問題ありませんが、ロジックプログラムが必要なければ削除することをお勧めします。
2501	この機種ではロジックを使用できません。	ロジックプログラムが使用できない機種の場合、ロジックプログラムを記述しても、ロジックプログラムは動作しません。ロジックプログラムを「使用する」「使用しない」の設定に関わらず使用できません。ロジックプログラムを記述しても、描画動作上問題ありませんが、ロジックプログラムが必要なければ削除することをお勧めします。
2900	無効な構造体メンバが使用されています。	GP-PRO EX V1.10.00 にて時刻変数の「MS」メンバをサポートしていましたが、V2.00.00 では対応しておりません。よって、V1.10.00 に時刻変数の「MS」メンバを画面上やロジック上で使用しているプロジェクトを V2.00.00 で開いた場合のみ、このエラーが発生します。時刻変数の「MS」メンバを使用している部品やオペランドの変更または削除を行ってください。
3000	*** 内で RET 命令は使用出来ません。変更又は削除して下さい。 (*** はロジック画面名)	INIT、MAIN のロジック画面で RET 命令が使用されています。RET 命令は、SUB-*** 以外の画面で使用することができません。INIT、MAIN のロジック画面で RET 命令を使用している場合は RET 命令を削除してください。
3001	*** 内で EXIT 命令は使用出来ません。変更又は削除して下さい。 (*** はロジック画面名)	INIT、SUB-*** のロジック画面で EXIT 命令が使用されています。EXIT 命令は、MAIN 以外の画面で使用することができません。INIT、SUB-*** のロジック画面で EXIT 命令を使用している場合は EXIT 命令を削除してください。
3002	*** 内 (*** はロジック画面名) で *** (*** は命令名) 命令は使用出来ません。変更又は削除して下さい。	INIT のロジック画面で JMP、JSR、LWA の命令を使用することはできません。INIT のロジック画面で使用している JMP、JSR、LWA の命令を削除してください。JMP、JSR、LWA の命令は、MAIN、SUB-*** のみ使用可能です。
3003	*** 内 (*** はロジック画面名) で *** (*** は命令名) 命令は使用出来ません。変更又は削除して下さい。	INIT、SUB-*** のロジック画面で PBC、PBR 命令が使用されています。EXIT 命令は、MAIN 以外の画面で使用することができません。INIT、SUB-*** のロジック画面で EXIT 命令を使用している場合は EXIT 命令を削除してください。
3004	分岐のネスト数が最大値を超えています。分岐を分割して下さい。	分岐の階層 (ネスト) が 25 を超えています。分岐の階層を 25 以下にしてください。  : 1 ネスト : 2 ネスト

次のページに続きます。

エラー番号	エラーメッセージ	原因と対処方法
3005	FOR-NEXT 命令のネスト数が最大値を超えています。ネスト数を 64 以下にしてください。	FOR-NEXT が実行されるプログラム内に FOR-NEXT の命令が複数登録され、階層（ネスト）が 64 階層を越えました。64 階層以内でプログラム作成を行ってください。
3009	オンラインエディット可能なステップ数 (340Step) を超えています。	オンラインエディットにて編集した行の命令数が多すぎるため、一回に編集できる（AGP へ送信できる）ロジックプログラムサイズの上限を超えています。編集した行の命令数を減らすか、編集をキャンセルして、モニタステップに移行してください。
3200	未対応命令が設定されています。	命令が未定義命令が存在します。未定義命令を削除するか命令が存在するエディターバージョンをご利用ください。
3201	*** 命令は、この位置に配置できません。行の最後に配置してください (*** は命令名)	接続線の右端（行の最後）のみ設定できる命令が設定されていない。ロジック制御命令（JMP、JSR、RET、EXIT、PBC、LWA）は行の最後のみ設定できます。ロジック制御命令より右に設定した命令を削除するか、ロジック制御命令行の最後に設定してください。
3202	FOR-NEXT 命令のループ内で *** 命令は使用出来ません。*** 命令を削除してください。 (*** は命令名)	FOR ~ NEXT のプログラム内では、ロジック制御命令（JMP、JSR、RET、EXIT、PBC、LWA）は使用できません。ロジック制御命令を削除するか、FOR ~ NEXT 処理を変更してください。
3203	*** 命令に対応する *** 命令が見つかりません。*** を追加してください。 (*** は命令名)	FOR に対する NEXT 命令および NEXT に対する FOR の命令がプログラム内で見つかりません。FOR または NEXT 命令を追加するか、FOR または NEXT 命令を削除してください。
3204	*** 命令は同じ行内に他の命令を配置することができません。他の命令を全て削除してください。 (*** は命令名)	FOR、NEXT、PBR のいずれかの命令がある場合は、行上に命令または分岐の設定ができません。FOR、NEXT、PBR 以外の命令を削除するか、FOR、NEXT、PBR の命令を削除してください。
3205	PBC 命令に対応する PBR 命令が見つかりません。対応を確認してください。	PBC 命令に対する PBR 命令がありません。必ず PBC 命令に対する PBR 命令を PBC 命令より下に設定してください。
3206	PBR 命令に対応する PBC 命令が見つかりません。対応を確認してください。	PBR 命令に対する PBC 命令がありません。必ず PBR 命令より多く PBC 命令を設定してください。
3207	*** は行の最後に設定することができません。応用命令またはコイル命令を追加してください。 (*** は命令名)	入力系の命令は行の最後に設定できません。行の最後に応用命令またはコイルを追加してください。
3208	*** の後に命令が存在します。命令を削除してください。 (*** は命令名)	行の最後に設定できる命令の後に命令が存在します。後の命令を削除してください。
3300	JMP 命令で指定された *** が存在しません。ラベルを確認してください。 (*** はラベル名)	JMP 命令で指定された、ラベル名が存在しません。JMP 命令で指定されたラベルを追加するか、使用中のラベル名が間違っています。

次のページに続きます。

エラー番号	エラーメッセージ	原因と対処方法
3301	JMP 命令で指定された * * * が他のロジックに設定されています。同一ロジック内のラベルを設定して下さい。(* * * はラベル名)	JMP 命令で指定されたラベル名が、他のロジック画面で使用されています。JMP 命令は同一ロジック画面しか使用できません。ラベル名を変更するか、JMP 命令を削除してください。
3302	JSR 命令で指定された * * * が存在しません。サブルーチンを確認して下さい。(* * * はサブルーチン名)	JSR 命令で指定されたサブルーチンが存在しません。JSR 命令の設定内容を変更するか、新規にサブルーチンを作成してください。
3400	未対応オペランドが設定されています。	命令に未定義オペランドが存在します。オペランドを設定してください。
3401	* * * オペランドが設定されていません。オペランドを設定して下さい。(* * * はオペランド名)	命令に未定義オペランドが存在します。オペランドを設定してください。
3402	配列要素は整数変数又は定数の指定をして下さい。	配列指定を設定した変数を使用する場合は、要素指定を整数定数にしてください。または整数変数のタイプを非配列に設定してください。整数変数のタイプは必ず非配列変数で設定し内部変数を使用してください。
3403	参照要素は整数変数又は定数の参照をして下さい。	指定 (ビット、バイトおよびワード) 要素は整数定数もしくは整数タイプ非配列変数でなければいけません。 整数タイプ非配列変数の属性は、内部でなければいけません
3404	* * * が複数の PID 命令で使用されています (* * * は命令名)	1 個の PID 変数が、複数の PID 命令に使用されています。PID 変数 1 個に対して、PID 命令 1 個になります。どちらか一方の PID 命令を削除するか、PID 変数を追加してください。
3405	オペランド * * * のタイプが合致しません。タイプ変更して下さい。(* * * はオペランド名)	オペランド S1、S2、S3、D1、HP などのタイプが不正です。各オペランドには取り得るタイプが決まっており、これ以外のものを指定しています
3406	オペランド * * * に定数は設定出来ません。定数以外のタイプを指定して下さい。(* * * はオペランド名)	オペランド D1 に、定数の設定はできません。定数以外のタイプを指定してください。
3407	オペランド * * * に入力属性タイプを設定できません。入力属性以外のタイプを指定して下さい。(* * * はオペランド名)	オペランド D1 に、入力定義された変数タイプは指定できません。入力の定義を解除するか、他の変数タイプを入力してください。
3408	オペランド * * * のタイプ又は属性が他のオペランドと一致しません。タイプ又は属性を変更して下さい。(* * * はオペランド名)	オペランド S1、S2、S3 または D1 の内 (変数方式で配列の場合は要素数も含める) にタイプが異なるオペランドが存在します。他のオペランドと統一させるために、タイプ変更してください。
3409	オペランド * * * の定数値がオペランド * * * のビットサイズを超えました。定数値をビットサイズ内で設定して下さい。(* * * はオペランド名)	オペランドの定数値がオペランドで指定している変数のビットサイズの範囲を超えています。ビットサイズを範囲に設定してください。

次のページに続きます。

エラー番号	エラーメッセージ	原因と対処方法
3410	オペランド S1 が整数定数ではありません。整数定数を設定して下さい。	オペランド S1 は整数定数のみ指定可能です。整数定数以外を設定してる場合は、整数定数を設定してください。
3411	オペランド S1 が整数定数の範囲外です。0 ~ 7 の値で設定して下さい。	オペランド D1 のタイプが違います。D1 に指定可能なタイプはビットタイプになります。ビットタイプを設定してください。
3412	オペランド D1 のタイプが違います。ビットタイプを設定して下さい。	オペランド D1 のタイプが違います。D1 に指定可能なタイプはビットタイプになります。ビットタイプを設定してください。
3413	オペランド D1 に外部入力属性を割り付けることができません。属性変更するか、オペランドの設定を変更して下さい。	オペランド D1 に外部入力属性を設定した変数を割り付けることができません。入力属性変更するか、別の変数をオペランドに設定してください。
3414	オペランドに設定されているタイプが全て同一ではありません。全てのタイプを同一タイプに合わせて下さい。	オペランドに設定しているタイプが異なります。全て同一タイプに変更してください。
3415	オペランド * * * の定数値がオペランド D1 のビットサイズを超えました。定数値をビットサイズ内で設定して下さい。(* * * はオペランド名)	オペランド S1 または S2 の整数定数値が D1 の変数タイプの入力可能ビットサイズの範囲を超えました。オペランド S1 または S2 の整数定数値を、D1 の入力可能ビットサイズ範囲内に設定してください。
3416	オペランドの配列要素数が異なります。配列要素数を確認して下さい。	オペランド S1、S2 および D1 が整数配列の場合、配列要素数が異なっています。配列の要素数を合わせてください。しかし、S2 のみ整数の場合は、S1 と D1 の配列要素数が異なっても問題ありません。
3417	オペランド S1 とオペランド D1 に設定されているタイプが異なります。タイプを合わせて下さい。	オペランド S1 とオペランド D1 の変数タイプが異なります。変数のタイプを合わせてください。
3418	オペランド * * * は配列要素でなければなりません。配列要素を設定して下さい。(* * * はオペランド名)	オペランド S1、D1 がビット、整数、フロート、リアル配列要素、システム変数(整数配列の要素)以外を設定しています。オペランド S1、D1 には、ビット、整数、フロート、リアル配列要素、システム変数(整数配列の要素)を設定してください。
3419	オペランド S2 の値がオペランド * * * (* * * はオペランド名)(* * * (* * * は命令名)) の配列要素数を超えています。 * * * (* * * はオペランド名)(* * * は命令名) の配列要素数を大きくするか、S2 の設定を変更して下さい。	オペランド S2 の値がオペランド S1 の配列要素数を超えています。オペランド S1 の配列要素数を大きくするか、オペランド S2 の値をオペランド S1 の配列要素数以下に設定してください。
3420	オペランド S2 の値とオペランド * * * (* * * はオペランド名)(* * * (* * * は命令名)) の要素番号を足した結果、 * * * (* * * は命令名) の配列要素数を超えています。要素番号を小さくするか、S2 の設定を変更して下さい。	オペランド S2 が整数定数、オペランド S1 または D1 の要素番号 + オペランド S2 の値が、オペランド S1 または D1 の配列範囲を超えています。オペランド S2 の値をオペランド S1 または D1 の範囲内に設定するか、オペランド S1 または D1 の配列要素を大きくしてください。

次のページに続きます。

エラー番号	エラーメッセージ	原因と対処方法
3421	オペランド***は、整数、フロート、リアル数の配列要素でなければなりません。配列要素を設定して下さい。(***はオペランド名)	オペランド S1 または D1 に、整数・フロート・リアル変数の配列要素、またはシステム変数(整数変数)以外を設定しています。オペランド S1 または D1 に、整数・フロート・リアル変数の配列要素、またはシステム変数(整数変数)を設定してください。
3422	オペランド S2 の値が範囲外です。範囲内で設定して下さい。	オペランド S2 が整数定数で、0 S2 31 または 0 S2 32 × size-1 (配列指定の場合) 以外の値になっています。設定範囲内の値を設定してください。
3423	オペランド S2 の値が設定範囲外です。範囲内で設定して下さい。	RCL、RCR 命令のオペランド S2 が整数定数で、0 S2 32 以外の値になっています。設定範囲内の値を設定してください。
3424	オペランド***の値が設定範囲外です。範囲内で設定して下さい。(***はオペランド名)	DECO 命令のオペランド S1 が整数定数で、0 S1 31 以外の値か、SAL、SAR 命令のオペランド S2 が整数定数で 0 S2 31 以外の値になっています。設定範囲内の値に設定してください。
3425	オペランド S1 とオペランド S2 に設定されているタイプが同一ではありません。同一タイプのものを設定して下さい。	オペランド S1 とオペランド S2 のタイプが違います。オペランド S1 とオペランド S2 を同一タイプのものを設定してください。
3426	オペランド***の値がオペランド***の設定可能範囲を超えています。定数値を変更して下さい。(***はオペランド名)	オペランド S1 とオペランド S2 の整数定数のビットサイズが入力可能な範囲を超えています。変数のビットサイズの範囲で設定してください。
3427	オペランド S1 が 0 です。範囲内で設定して下さい。	オペランド S1 が整数定数でゼロになっています。定数をゼロ以外に設定してください。
3428	設定値にタイプが一致しないものがあります。全てのタイプを同一タイプに合わせて下さい。	オペランド S2 (S3、S4 または S5) と他のオペランドとのタイプが異なります。タイプが異なる場合は、同一タイプに変更してください。
3429	設定値に不正なタイプが設定されています。タイプを確認して下さい。	設定値に不正なタイプが設定されています。タイプを確認して不正なタイプの場合は削除してください。または正常なタイプに変更してください。
3430	オペランド S2 に定数を設定できません。定数以外を指定して下さい。	オペランド S2 に定数は設定できません。定数以外の変数を設定してください。
3431	設定値***に不正な値が設定されています。正常値になるよう処理を行って下さい。(***はメンバ名)	ダイアログからの設定は下記の設定値以外は範囲外です。 下記の範囲内で設定してください。 時 : 0 ~ 23 分 : 0 ~ 59 秒 : 0 ~ 59
3432	設定値***に不正な値が設定されています。正常値になるよう処理を行って下さい。(***はメンバ名)	ダイアログからの設定は下記の設定値以外は範囲外です。 下記の範囲内で設定してください。 年 : 0 ~ 99 月 : 1 ~ 12 日 : 1 ~ 31

次のページに続きます。

エラー番号	エラーメッセージ	原因と対処方法
3433	オペランド S1 が整数定数の範囲外です。1 ~ 10 の値で設定して下さい。	オペランド S1 には定数の 1 ~ 10 以外の値を設定できません。オペランド S1 には定数の 1 ~ 10 を設定してください。
3470	オペランド*** (***はオペランド名) に配列変数である*** (***シンボル変数名) を設定できません	オペランド S1、S2、D1 に整数配列 (システム変数) 全体を設定しています。S1、S2、D1 には配列全体の設定はできません。配列を指定する場合は、配列の要素指定をしてください。
3471	オペランド***は M、D、F および R アドレス以外を割り付けることはできません。M、D、F および R アドレスを設定して下さい。(***はオペランド名)	オペランド S1 または D1 が M、D、F、R のアドレス以外を設定しています。M、D、F、R のアドレスを S1 または D1 に設定してください。
3472	オペランド S2 の値が、オペランド***のデバイス数を超えています。S2 の値を小さくして下さい。(***はオペランド名)	オペランド S2 が整数定数でオペランド S1 または D1 の範囲を超えています。S2 の値を範囲内にしてください。
3473	オペランド S2 の値とオペランド***のアドレスを足した結果、***のデバイス範囲を超えています。S2 の値を小さくするか、***のアドレスを変更して下さい。(***はオペランド名)	オペランド S2 が整数定数でオペランド D1+S2 の値が D1 の範囲を超えています。または S1+S2 が S1 の範囲を超えています。S2 の値を設定範囲内にしてください。
3474	オペランド***は D、F および R アドレス以外を割り付けることはできません。D、F および R アドレスを設定して下さい。(***はオペランド名)	オペランド D1 または S1 に整数・フLOAT・リアル変数以外を設定しています。オペランド D1 または S1 に整数・フLOAT・リアル変数を設定してください。
3600	命令が設定されていません。実行上意味がありません。	空行が存在します。動作上問題ありませんが、必要なければ削除することをお勧め致します。
3601	命令が設定されていない分岐が存在します。実行上意味がありません。	分岐に命令がありません。意図して設定している場合は問題ありません。使用用途が無い場合は削除することをお勧め致します。
3650	***にプログラムの記述がありません (***はサブルーチン名)	空のサブルーチンプログラムが存在します。動作上問題ありませんが、使用用途が無い場合は削除することをお勧め致します。
3651	***は使用されておられません (***はサブルーチン名)	サブルーチンプログラムがあるがサブルーチンコールされていません。動作上問題ありませんが、使用用途が無い場合は削除することをお勧め致します。
3652	ラベルが連続して定義されています。	ラベルが連続して存在します。動作上問題ありませんが、必要なければ削除することをお勧めいたします。
3700	1 行内にコイル命令のみ配置されています。この命令は必ず実行されます。	行中にコイル命令のみ 1 個だけ存在します。動作上問題ありませんが、常時 ON するコイルになります。
3900	***は複数のコイルで使用されています (***はシンボル変数名)	1 つの変数で 2 つ以上のコイル命令を使用しています。(二重コイル) 意図的に使用している場合は問題ありません。通常は 1 つの変数に対して 1 コイル命令を使用します。(ただし、SET、RESET 命令は別です。)

次のページに続きます。

エラー番号	エラーメッセージ	原因と対処方法
3901	*** が複数のタイマ命令で使用されています (*** はシンボル変数名)	タイマ変数が複数のタイマ命令で使用されています。誤動作の原因となるので、カウンタ命令 1 個に対して 1 変数で定義してください。
3902	*** が複数のカウンタ命令で使用されています (*** はシンボル変数名)	カウンタ変数が複数のカウンタ命令で使用されています。カウンタ命令 1 個に対して 1 変数で定義してください。
3903	オペランド S1 の定数が範囲外です。正の定数値を設定して下さい。	オペランド S1 の定数が設定外です。正の定数値を設定してください。
3904	オペランド S2 にゼロが入っています	オペランド S2 が整数定数でかつゼロの場合オペランド S2 にゼロが入っています。
3905	オペランド S1 とオペランド S2 が共に整数定数です	オペランド S1、S2 ともに定数を設定。オペランド S1 または S2 を定数以外に設定してください。
3906	PT の値がゼロです	PT の値がゼロです。PT の値を別途設定している場合は問題ありません。
3907	PV の値がゼロです	PV の値がゼロです。PV の値を別途設定している場合は問題ありません。

・ その他エラー

【I/O 設定】

エラー番号	エラーメッセージ	原因と対処方法
4500	マスタ属性を持つ I/O ドライバが複数存在します	マスタ属性を持つ I/O ドライバが複数存在します。

【変数】

エラー番号	エラーメッセージ	原因と対処方法
2007	非保持の内部ビット変数が多すぎます。	非保持の内部ビット変数の総量が保持非保持設定の非保持数を超過しています。
2008	保持の内部ビット変数が多すぎます。	保持の内部ビット変数の総量が 256 デバイスを超過しています。
2009	入力ビット変数が多すぎます。	入力 I/O に割り当てたビット変数の総量が 256 デバイスを超過しています。
2010	出力ビット変数が多すぎます。	出力 I/O に割り当てたビット変数の総量が 256 デバイスを超過しています。
2011	非保持の内部整数変数が多すぎます。	非保持の内部整数変数の総量が保持非保持設定の保持数を超過しています。
2012	保持の内部整数変数が多すぎます。	保持の内部整数変数の総量が保持非保持設定の保持数を超過しています。
2013	入力整数変数が多すぎます。	入力 I/O に割り当てた整数変数の総量が 64 デバイスを超過している。
2014	出力整数変数が多すぎます。	出力 I/O に割り当てた整数変数の総量が 64 デバイスを超過している。
2015	保持のフロート変数が多すぎます。	保持のフロート変数の総量が保持非保持設定の保持数を超過しています。
2016	非保持のフロート変数が多すぎます。	非保持のフローと変数の総量が保持非保持設定の保持数を超過しています。
2017	保持のリアル変数が多すぎます。	保持のリアル変数の総量が保持非保持設定の保持数を超過しています。
2018	非保持のリアル変数が多すぎます。	非保持のリアル変数の総量が保持非保持設定の保持数を超過しています。
2019	保持のタイマ変数が多すぎます。	保持のタイマ変数の総量が保持非保持設定の保持数を超過しています。
2020	非保持のタイマ変数が多すぎます。	非保持のタイマ変数の総量が保持非保持設定の保持数を超過しています。
2021	保持のカウント変数が多すぎます。	保持のカウント変数の総量が保持非保持設定の保持数を超過しています。
2022	非保持のカウント変数が多すぎます。	非保持のカウント変数の総量が保持非保持設定の保持数を超過しています。
2023	保持の日付変数が多すぎます。	保持の日付変数の総量が保持非保持設定の保持数を超過しています。
2024	非保持の日付変数が多すぎます。	非保持の日付変数の総量が保持非保持設定の保持数を超過しています。

次のページに続きます。

エラー番号	エラーメッセージ	原因と対処方法
2025	保持の時刻変数が多すぎます。	保持の時刻変数の総量が保持非保持設定の保持数を超えています。
2026	非保持の時刻変数が多すぎます。	非保持の時刻変数の総量が保持非保持設定の保持数を超えています。
2027	PID 変数が多すぎます。	PID 変数の数が 8 個を超えています。
2028	アドレス数が多すぎます。	CHMI リフレッシュテーブルのレコード数が運用上限値 (256) を超えています。
2029	アドレス (整数) が多すぎます。	縮約による増加分も含めてワードアドレス (ED) が 256 個を超えています。
2030	未割り当てのシンボル「0」がロジックで使用されています。アドレスを設定してください。	未割り当てのシンボルをロジックで使用しています。
2502	保持型の変数「0」を I/O に割り付けています。	変数方式時保持型の変数が I/O に割り当てられています。
2031	一つの変数「0」を複数の I/O に割り付けています。	1 つの変数を複数の I/O に割り付けています。
2032	ターミナルに割り付けていない I/O 変数「0」を利用しています。	アドレス方式時に割り付けられていない I/O 変数を使用しています。

【コメント】

エラー番号	エラーメッセージ	原因と対処方法
3006	変数コメントが多すぎます。	変数コメントの数が上限数 (変数コメントブロック数 × 40+210) を超えています。
3007	行コメントが多すぎます。	行コメントの数が上限数 (行コメントブロック数 × 10+55) を超えています。

【メモリチェック】

エラー番号	エラーメッセージ	原因と対処方法
3008	ロジックのステップ数が多すぎます。	ロジックの総ステップ数がロジックの上限数 (ロジックブロック数 × 500) を超えています。

■ シミュレーション時に表示されるエラー

エラーメッセージ	原因と対処方法	参照
シミュレーションを先に終了して下さい。	EX シミュレーション中に、エディタを終了させようとしてしました。 エディタを終了させる前に、EX シミュレーションを終了させてください。	☞ GP-Pro EX リファレンスマニュアル 「32.2.2 設定手順」 (32-4 ページ)
シミュレーション中のため、言語を変更できません。	EX シミュレーション中に、エディタのオプション設定で動作言語を変更しようとしてしました。 動作言語を変更する前に、EX シミュレーションを終了させてください。	☞ GP-Pro EX リファレンスマニュアル 「5.14.7 [オプション設定] の設定ガイド」(5-139 ページ)
シミュレーションが開始できませんでした。	EX シミュレーション起動時に、何らかのトラブルで PC シミュレーションが起動しませんでした。 通常は発生しません。(弊社までお問い合わせください)	☞ GP-Pro EX リファレンスマニュアル 「32.2.2 設定手順」 (32-4 ページ)
プロジェクトにエラーがあるためシミュレーションできません。 詳細はエラーチェックで確認してください。	接続機器情報が生成できないため、シミュレーションが開始できませんでした。プロジェクトファイルのエラーを修正後、シミュレーションを実行してください。	—

■ 転送エラー

転送共通エラー

エラーメッセージ	原因と対処方法	参照
不正な IP アドレスです。	指定した IP アドレスの値が不正です。 正しい IP アドレスを入力してください。	—
IP アドレスは既に存在します。 追加 / 変更できません。	IP アドレスの追加時に既に存在する IP アドレスを設定しています。重複しない IP アドレスを指定してください。	
フォルダー一覧を受信できませんでした。ルートフォルダへ移動しました。	CF カードツールにて表示されているフォルダが表示できなくなったためルートフォルダへ移動しました。 表示できない原因としてフォルダが削除された、CF カードが差し替えられた等が考えられます。 フォルダが削除されていないか、もしくは CF カードが抜かれていないか確認してください。	 GP-Pro EX リファレンスマニュアル 「33.5 CF カードにデータだけを転送したい」(33-28 ページ)
指定のファイル名は既に存在します。別の名前を指定してください。	CF カードツールにてファイルをリネームしようとして指定したファイル名が既に存在する場合表示されます。 重複しないファイル名を指定してください。	
接続が切断されました。CF カード接続を終了します。	ケーブルが抜かれた等が原因で接続が切れました。 ケーブルが正しく接続されているか等を確認してください。 【LAN】 ・ PC の IP アドレスが正しく設定されているか確認してください。 ・ ケーブルの種類は正しいか確認してください。 【USB】 ・ USB ケーブルはデジタル製のものか確認してください。 ・ ドライバはインストールされているか確認してください。	—
不正なパスワードです。	入力されたパスワードが間違っています。 正しいパスワードを設定してください。	 GP-Pro EX リファレンスマニュアル 「33.6 パスワードで転送を許可したい」(33-31 ページ)
不正なパスワードです。送信をキャンセルしました。	パスワード入力を 3 回間違えたときに表示されます。 正しいパスワードを設定してください。	
ソケットがオープンできませんでした。	LAN ポートが有効になっていません。 PC の LAN 設定を確認してください。	—
プロジェクトが読み込めませんでした。	ファイルが壊れているか、もしくはプロジェクトファイルではないファイルが選択されています。正しいプロジェクトファイルを選択してください。	
本体に接続できませんでした。	ケーブルが抜けているか、非対応のものが使用されています。ケーブル接続・種類や USB ドライバのインストールを確認してください。	 GP-Pro EX リファレンスマニュアル 「33.2 USB 転送ケーブルで転送したい」(33-5 ページ)

次のページに続きます。

エラーメッセージ	原因と対処方法	参照
ファイルアクセスに失敗しました。	ファイルのアクセス権がない可能性があります。 PC のアクセス権限を確認してください。	—
通信中にエラーが発生しました。	ケーブルが断線しているか、またはノイズの影響で通信ができません。ケーブル周りの状況を確認し、ケーブルが断線していないか、またはノイズ等が発生していないか確認してください。(USB の延長ケーブル等を使用している場合は使用しない等)	
メモリエラーが発生しました。	PC のメモリが不足しています。他のアプリケーションを終了するか OS を再起動後、再度転送ツールを実行してください。	
接続先の本体を認識できませんでした。 GP-Pro EX もしくは転送ツールのサポート対象機種かどうかを確認してください	エディタの認識できない機器に転送しようとしています。 接続先の本体が GP かどうか確認してください。	
情報を取得できませんでした。	システムがダウンロードされていない、あるいは未サポート機種可能性があります。サポートされている機種かどうか確認の上、本体のシステムを再度転送し直してください。	 GP-Pro EX リファレンスマニュアル「33.1 設定メニュー」(33-2 ページ)
不正なパスワードです。送信をキャンセルしました。	パスワードチェックができません。ファイルが破損した可能性があります。ノイズ等が発生していない場所等で再度確認してください。(USB の延長ケーブル等を使用している場合は使用しない等)	—
本体は転送ツールと通信中のため、接続できませんでした。	他のパソコンにて通信中です。 アクセス等が終わるまでお待ちください。	 GP-Pro EX リファレンスマニュアル「33.10.1 [転送設定] の設定ガイド」(33-59 ページ)
データが書き込めませんでした。	ファイルのアクセス不良、破損等で GP へ書き込むことができません。 PC のハードディスクのアクセス権をチェックした後、強制転送を行ってください。	
プロジェクトが受信できませんでした。再度、実行してください。	受信の際にデータエラーが発生しました。ノイズ等が発生していない場所等で再度確認してください。(USB の延長ケーブル等を使用している場合は使用しない等)	—
プロジェクトファイルが送信されていません。	受信先にプロジェクトデータが存在しません。(転送相手がお買い上げ画面等)または、データが壊れています。 まず、プロジェクト送信を行ってください。	 GP-Pro EX リファレンスマニュアル「33.1 設定メニュー」(33-2 ページ)
CF カードデータが保存できませんでした。	CF カードが正しく挿入されていないか、ライトプロテクトがかけられています。 CF カードを使用できる状態にしてください。(デジタル製の CF カード以外はアクセスできない場合があります。)	—

次のページに続きます。

エラーメッセージ	原因と対処方法	参照
プロジェクトが転送先本体と異なります。	比較にて転送元プロジェクトと本体内部にあるプロジェクトが異なるため比較できませんでした。比較実行できるのは同一プロジェクトのみとなります。	☞ GP-Pro EX リファレンスマニュアル「33.4 転送前にプロジェクトの変更点を確認したい(比較)」(33-25 ページ)
フォーマットエラー	本体のデバイスの初期化に失敗しました。ノイズ等が発生していない場所等で再度転送し直してください。	—
通信先デバイスが見つかりません。	指定の通信デバイスがない、または使用できません。 PC の LAN 設定や USB ドライバがインストールされているかどうか確認してください。	
転送に失敗しました。	通信中にエラーが発生しました。ノイズ等が発生していない場所等で再度確認してください。(USB の延長ケーブル等を使用している場合は使用しない等)	
転送先の本体で書き込みエラーが発生しました。	フラッシュの故障等が原因で本体へのデータ書き込みに失敗しました。強制転送を行っても改善されない場合は、サポートダイヤルへお問い合わせください。	☞ GP-Pro EX リファレンスマニュアル「33.10.1 [転送設定] の設定ガイド」(33-59 ページ)
CF カード未サポート機種または CF カードが挿入されていません。	CF カードが正しく挿入されているかどうか確認してください。(デジタル製の CF カード以外はアクセスできない場合があります。)	—
指定のファイル名は既に存在します。別の名前を指定してください。	転送先にコピーするファイルと同じ名前のディレクトリが存在します。CF カードの内容を一旦、削除してから、再度転送してください。プロジェクト転送時にエラーが発生した場合は、強制転送を行ってください。	☞ GP-Pro EX リファレンスマニュアル「33.5 CF カードにデータだけを転送したい」(33-28 ページ)
CF カードへ書込めませんでした。	CF カードが正しく挿入されていないか、ライトプロテクトがかけられている可能性があります。CF カード内のファイルがライトプロテクトされていないか等を PC にて確認してください。	—
転送に必要なファイルが見つかりません。	転送に必要なファイルがハードディスク上に存在しないか壊れています。再度転送ツールをインストールしなおしてください。	☞ GP-Pro EX リファレンスマニュアル「33.10.5 転送ツールのみインストールして転送したい」(33-68 ページ)
タイムアウトエラーが発生しました。	ノイズ等が発生していない場所等で再度確認してください。(USB の延長ケーブル等を使用している場合は使用しない等)	—

次のページに続きます。

エラーメッセージ	原因と対処方法	参照
例外が発生しました。	転送に必要なモジュールが正しくインストールされていない可能性があります。再度転送ツールをインストールしなおしてください。	☞ GP-Pro EX リファレンスマニュアル「33.10.5 転送ツールのみインストールして転送したい」(33-68 ページ)
プロジェクトを送信できませんでした。 プロジェクトのサイズが最大容量を超えています。	転送しようとしたプロジェクトファイルのデータサイズが GP の画面容量を超えています。不要な画面データを削除する等の処理を行い、データサイズを減らしてください。	☞ GP-Pro EX リファレンスマニュアル「5.7 プロジェクト情報をみたい」(5-38 ページ)
機種タイプが異なるため転送できません。	プロジェクトファイルと転送先機種で互換性がありません。プロジェクトファイルの機種タイプを互換性があるものに変更し、再度転送してください。	☞ GP-Pro EX リファレンスマニュアル「5.14.6 [システム設定ウィンドウ] の設定ガイド ■ [機種設定] の設定ガイド」(5-106 ページ)
WinGP 対象機種でないため、終了します。	WinGP の対象機種以外にインストールして起動した場合に表示されるポップアップメッセージです。WinGP の対象機種にインストールして下さい。	☞ GP-Pro EX リファレンスマニュアル「37.2.1 対応機種」(37-6 ページ)

モデム転送時のエラー

エラーメッセージ	原因と対処方法	参照
I/O ドライバが異なるためモデムでは転送できません。	モデム転送時に I/O ドライバの種類またはバージョンが一致しなかったため転送を行えませんでした。	—
ランタイムシステムが異なるためモデムでは転送できません。	モデム転送時にランタイムシステムまたはプロトコルのバージョンが一致しなかったか、プロトコルの種類が異なるため転送を行えませんでした。	—
フォント設定が異なるためモデム転送はできません。	モデム転送時に登録されているフォントの種類が一致しなかったため転送を行えませんでした。	—
プロジェクトまたは編集エディタのバージョンが異なるためモデムでは転送できません。	モデム転送時にプロジェクトの種類または編集バージョンが異なるため転送を行えませんでした。	—

CF メモリローダ使用時のエラー

エラーメッセージ	原因と対処方法	参照
起動データ作成用のファイルが見つかりません。	メモリローダ用のシステムファイルがインストールされていません。再インストールしてください。	☞ GP-Pro EX リファレンスマニュアル「33.7.2 転送手順 起動 CF カード / USB の作成」(33-43 ページ)
バックアップファイルが作成できませんでした。	容量不足や、ファイルにアクセスできない、プロジェクトファイルが壊れているなどの原因が考えられます。出力先を再度確認してください。	—

次のページに続きます。

エラーメッセージ	原因と対処方法	参照
サポートされていない機種です。	メモリローダツールがサポートされていない機種のプロジェクトが選択されています。プロジェクトファイルの機種を確認してください。	☞ GP-Pro EX リファレンスマニュアル「1.3 機種別サポート機能一覧」(1-5 ページ)
バックアップファイルが読み込めませんでした。	バックアップファイルが壊れていたり、アクセス権限がないなどの原因が考えられます。バックアップファイルの転送パスワードが設定されていないか確認してください。	☞ GP-Pro EX リファレンスマニュアル「33.6.3 転送パスワードの解除 / 変更」(33-34 ページ)
メモリが確保できませんでした。	PC のメモリ不足が考えられます。他に起動しているアプリケーションを終了してみてください。	—
無効なバックアップファイルです。	バックアップファイルでないファイルを選択しています。正しいファイルを選択してください。	—
指定されたパスが見つかりません。	指定のパスが存在しないか、不正なパス名が設定されました。存在する有効なパス名を設定してください。	—

ロジックプログラム、オンラインモニタ時のエラー

ロジックプログラムをパソコン側でモニタする際（オンラインモニタ時）に表示器からロジックプログラムが転送できない場合、以下のエラーが表示されます。

エラーメッセージ	原因と対処方法	参照
モニタの開始を失敗しました。	ケーブルが接続されていないか、通信設定が間違っている可能性があります。ケーブルが接続されていることを確認してください。また「表示 (V)」メニューから「オプション設定 (O)」を選択し、「モニタステップ」の「通信設定」を確認してください。	☞ GP-Pro EX リファレンスマニュアル「5.14.7 [オプション設定] の設定ガイド ■ モニタステップ」(5-145 ページ)

LT3000 シリーズ使用時のエラー

エラーメッセージ	原因と対処方法	参照
ID on I/O board does not match.	正常に I/O ボードを認識できない。I/O ボードに異常があると考えられます。電源を再投入し、プロジェクトファイルの強制転送を行ってください。それでも同じエラーが発生する場合は、I/O ボードの異常が考えられます。サービス・リペアセンターにご連絡ください。	☞ 「2.12.3 プロジェクトファイルを強制転送したい」(2-72 ページ)
Failed to transfer firmware to I/O board. Use forced transfer method.	I/O ボードのファームウェアのファイルが壊れています。I/O ボードのフラッシュメモリに I/O ボードのファームウェアを正常に転送することができませんでした。プロジェクトファイルの強制転送を行ってください。それでも同じエラーが発生する場合は、I/O ボードの異常が考えられます。サービス・リペアセンターにご連絡ください。	

次のページに続きます。

ProjectCopy 使用時のエラー

エラーメッセージ	原因と対処方法	参照
プロジェクトファイルを選択してください。	プロジェクトファイルを選択せずにコピー操作を行うと表示されます。プロジェクトファイルを選択してからコピー操作を行ってください。	☞ GP-Pro EX リファレンスマニュアル「37.8.3 ProjectCopy (コピーツール) の設定ガイド」(37-143 ページ)
プロジェクトファイルは存在しません。	選択したプロジェクトファイルが存在しない場合に表示されます。プロジェクトファイルが存在するか確認して、再度プロジェクトファイルを選択して下さい。	
コピー先が見つかりません。	プロジェクトファイルを格納するフォルダが指定の場所がない場合に表示されます。何らかの原因で WinGP のフォルダ構成が変更されている可能性がありますので再インストールして下さい。	☞ GP-Pro EX リファレンスマニュアル「37.3.2 設定手順 ■ インストール / アンインストール」(37-10 ページ)
コピーに失敗しました。	何らかの原因でコピーに失敗した場合に表示されます。	—
接続機器種別が異なるためコピーできません。	コピーしようとしているプロジェクトに設定された接続機器種別と WinGP が持っている接続機器ドライバが不一致の場合に表示されます。接続機器種別を変更してからコピーするか、又は転送ツールで転送を行ってください。	☞ GP-Pro EX リファレンスマニュアル「5.14.6 [システム設定ウィンドウ] の設定ガイド ■ [接続機器設定] の設定ガイド」(5-134 ページ)
WinGP 動作中のためコピーできません。	WinGP 動作中にコピーを実行した場合に表示されます。WinGP を終了させてからコピーして下さい。	☞ GP-Pro EX リファレンスマニュアル「37.3.2 設定手順・CF カードや USB ストレージから転送する場合」(37-19 ページ)
プロジェクトで設定されている CF カードフォルダが見つかりません。CF カードフォルダを選択してください。	CF カードのファイルを使用する設定を持つプロジェクトをコピーしようとする場合にプロジェクトで設定した CF カードフォルダがコピーツールから参照できない環境にある場合に表示されます。このメッセージの後に表示されるダイアログで使用するファイルが格納されたフォルダを指定して下さい。	☞ GP-Pro EX リファレンスマニュアル「37.8.3 ProjectCopy (コピーツール) の設定ガイド」(37-143 ページ)
このプロジェクトは、編集中または機種設定に間違いがあります。作画ソフトにて編集し直なおしてください。	GP-Pro EX でプロジェクト保存時に転送できないエラーメッセージが出力されたプロジェクトをコピーしようとした場合に表示されます。GP-Pro EX で編集しなおして下さい。	☞ GP-Pro EX リファレンスマニュアル「5.14.6 [システム設定ウィンドウ] の設定ガイド ■ [機種設定] の設定ガイド」(5-106 ページ)

次のページに続きます。

エラーメッセージ	原因と対処方法	参照
接続機器ドライバのバージョンが古い ためコピーできません。転送ツールから転送を行って下さい。	WinGP の持っている接続機器ドライバがプロジェクトを編集したエディタの持っている接続機器ドライバよりバージョンが古い場合に 表示されます。コピーツールでは接続機器ドライバを転送することができませんので、転送ツールで転送を行って下さい。	—
フォントの追加が必要なためコピーできません。	プロジェクトで設定したフォントファイルを WinGP が持っていない場合に 表示されます。コピーツールではフォントファイルを転送することができませんので、転送ツールで転送を行って下さい。	—
WinGP 対象機種でないため、終了します。	WinGP の対象機種以外にインストールして起動した場合に 表示されるポップアップメッセージです。WinGP の対象機種にインストールして下さい。	☞ GP-Pro EX リファレンスマニュアル「37.2.1 対応機種」(37-6 ページ)
プロジェクトの機種設定は ***** です。本体は PS-***** です。プロジェクトの機種を変更してから転送して下さい。	プロジェクトで設定した機種とコピー先の機種が不一致の場合に 表示されます。プロジェクトの機種変換を行ってからコピーして下さい。	☞ GP-Pro EX リファレンスマニュアル「5.14.6 [システム設定ウィンドウ] の設定ガイド ■ [機種設定] の設定ガイド」(5-106 ページ)

1.6.2 表示器で表示されるエラー

■ 表示器共通

接続がうまくいかないときに出るエラー

接続機器 (PLC など) の通信に問題がある場合に、下記のエラーメッセージが表示されます。

MEMO

- ・ 以下は全ドライバ (接続機器) 共通のエラーメッセージです。各接続機器特有のエラーメッセージについては、「GP-Pro EX 機器接続マニュアル」をご覧ください。

エラー番号	エラーメッセージ	原因と対処方法	対策
RHxx006	(ドライバ名):(ポート名)で受信データがパリティエラーになりました	受信データが欠落したことにより発生しました。ノイズ、接触不良などの要因が考えられます。	ノイズ対策、コネクタの差し込みなどを確認してください。 メモリリンク方式で通信している場合は、表示器側とホスト側のデータ長/パリティビットの設定を確認し、設定を合わせてください。
RHxx007	(ドライバ名):(ポート名)で受信データがフレンジエラーになりました		
RHxx008	(ドライバ名): この機種では Ethernet を使用できません	GP-Pro EX の接続機器設定で Ethernet 対応ドライバを選択し、LAN 接続できない本体機種に転送した場合に発生します。	本体機種がイーサネット対応しているか確認してください。対応している場合は、GP-Pro EX の機種設定が間違っていないか確認してください。
RHxx009	(ドライバ名):(ポート名)ポートを使用できません	同一の COM ポートに 2 種類以上のドライバを選択し手入る場合に発生します。	GP-Pro EX の接続機器設定で、COM ポートの設定を確認してください。
RHxx010	(ドライバ名)TCP ポート番号(%d)が重なっているか、コネクションクローズ処理が完了していません。	表示器側の TCP ポート番号が重複している、または通信途中で接続機器 (PLC) 側でリセットが行われた場合に発生します。	(1) ポート番号が重複している場合は、別々に割り振ってください。 (2) 本体をリセットしてください。
RHxx011	(ドライバ名): コネクションがクローズされました	通信途中で接続環境に問題が発生しました。	ネットワーク環境が正常か確認してください。PC と GP、PLC(接続機器)を直接繋いで PING コマンドで IP アドレスを認識しているかなどの確認を行い要因を特定してください。
RHxx012	(ドライバ名):UDP ポート番号が重なっています	表示器側の UDP ポート番号が重複している場合に発生します。	ポート番号が重複している場合は、別々に割り振ってください。
RHxx013	(ドライバ名): COM1: 9 番ピンを VCC (5V 電源供給) に設定できませんでした。接続ケーブルや接続先の機器を再確認してください。	COM1 の 9 番ピンが RI 入力として結線されています。(232C 用アイソレーションユニットを使用する設定にした場合など)	GP-Pro EX の接続機器設定で、RI/VCC 設定を RI 設定に変更し直してください。

次のページに続きます。

エラー番号	エラーメッセージ	原因と対処方法	対策
RHxx033	(接続機器名): 通信開始要求でエラー応答を受信しました (受信エラーコード:(10 進数) [(16 進数)])	通信設定や配線はあっています。選択しているドライバにより考えられる要因が異なりますので、サポートダイヤルまでお問い合わせください。	
RHxx034	(接続機器名): 読出し要求でエラー応答を受信しました (受信エラーコード:(10 進数) [(16 進数)])		
RHxx035	(接続機器名): 書込み要求でエラー応答を受信しました (受信エラーコード:(10 進数) [(16 進数)])		
RHxx036	(接続機器名): 読出し要求でエラー応答を受信しました (受信エラーコード:(10 進数) [(16 進数)]) アドレス範囲外デバイスがあります)	表示器側で設定しているアドレスの読出し要求に対し、PLC (接続機器) から認識できず、エラーコードを返しています。表示器側で PLC (接続機器) のアドレス範囲外を要求する設定がされている可能性があります。	(1) ご使用の接続機器マニュアルで、受信エラーコードの詳細を確認してください。 (2) 設定しているアドレスがご使用の接続機器のデバイス範囲内におさまっているか確認してください。 ¹
RHxx037	(接続機器名): 書込み要求でエラー応答を受信しました (受信エラーコード:(10 進数) [(16 進数)]) アドレス範囲外デバイスがあります)	表示器側で設定しているアドレスの書込み要求に対し、PLC (接続機器) から認識できず、エラーコードを返しています。表示器側で、PLC (接続機器) のアドレス範囲外を要求する設定がされている可能性があります。	
RHxx038	(接続機器名): 読出し要求でエラー応答を受信しました (受信エラーコード:(10 進数) [(16 進数)]) 書込み専用デバイスがあります)	AGP 側で設定しているアドレスの読出し要求に対し、PLC (接続機器) から認識できず、エラーコードを返しています。PLC (接続機器) 側の書込み専用アドレスを要求する設定が AGP 側で設定している可能性があります。	(1)) ご使用の接続機器のマニュアルで、受信エラーコードの詳細を確認してください。 (2) 表示器側で PLC (接続機器) の書込み専用アドレスを読み込む設定になっていないか確認してください。 ¹ データ表示器やランプなど読込み動作を行う部品を使用している場合は、読込み専用のアドレスに変更してください。

次のページに続きます。

エラー番号	エラーメッセージ	原因と対処方法	対策
RHxx039	(接続機器名): 書き込み要求でエラー応答を受信しました (受信エラーコード : (10 進数) [(16 進数)] 読出し専用デバイスがあります)	表示器側で設定しているアドレスの書き込み要求に対し、PLC(接続機器) から認識できず、エラーコードを返してきています。表示器側で、PLC (接続機器) の読込み専用アドレスを要求する設定がされている可能性があります。	(1) ご使用の接続機器のマニュアルで、受信エラーコードの詳細を確認してください。 (2) 表示器側で PLC (接続機器) の読込み専用アドレスに書き込む設定になっていないか確認してください。 ¹ スイッチやデータ表示器 (入力許可)、トリガアクション、D スクリプトなど、書き込みを行う部品を使用している場合は、読み書き可能なアドレスに変更してください。
RHxx040	(接続機器名): 通信開始要求の応答データに異常がありました	PLC(接続機器) 側で異常が発生しています。	通信設定や接続機器が間違っていないか確認してください。
RHxx041	(接続機器名): 読出し要求の応答データに異常がありました		
RHxx042	(接続機器名): 書き込み要求の応答データに異常がありました		
RHxx043	(接続機器名): 通信開始要求の応答データがチェックサム異常になりました		
RHxx044	(接続機器名): 読出し要求の応答データがチェックサム異常になりました		
RHxx045	(接続機器名): 書き込み要求の応答データがチェックサム異常になりました		
RHxx049	(接続機器名): 読出しデバイスの中に不正なデバイスがあります	間接アドレス指定で間違ったデバイスやアドレスを生成しています。	間接アドレス指定の設定が認識できるアドレス範囲内におさまっているかを確認してください。
RHxx050	(接続機器名): 書き込みデバイスの中に不正なデバイスがあります		

次のページに続きます。

エラー番号	エラーメッセージ	原因と対処方法	対策
RHxx051	(接続機器名): 読出しデバイスの中にアドレス範囲外のデバイスがあります(アドレス:(デバイスアドレス))	データ表示器(文字列表示)やスクリプトの memcpy、memset など、開始アドレスから終了アドレスまでの領域が、アドレス範囲内におさまっていません。	データ表示器(文字列表示)や D スクリプトなど、複数のアドレスにまたがる設定が、アドレス範囲内におさまっているかを確認してください。 ¹
RHxx052	(接続機器名): 書き込みデバイスの中にアドレス範囲外のデバイスがあります(アドレス:(デバイスアドレス))		
RHxx053	(接続機器名): 読出しデバイスの中に書き込み専用デバイスがあります(アドレス:(デバイスアドレス))	書き込み専用デバイスの読み出しや、読み出し専用デバイスへの書き込みを、プロトコルドライバーが検出した場合。	(1) PLC 側のマニュアルから受信エラーコードの詳細を確認してください。 (2) AGP 側で PLC 側の書き込み専用アドレスを読み込む設定になっていないかを確認してください。数値表示器や、ランプなど読み込み動作を行う部品を使用している場合は、読み込み用のアドレスに変更するか、部品自体を設定から外すなど行い対処を行ってください。
RHxx054	(接続機器名): 書き込みデバイスの中に読出し専用デバイスがあります(アドレス:(デバイスアドレス))		
RHxx065	(接続機器名): TCP コネクションをオープンできませんでした(IPアドレス:(IPアドレス))	接続機器の IP アドレス、ポート番号が認識できていません。接続機器や HUB の電源が入っていない、ケーブルが抜けているなどの可能性があります。	(1) 表示器側と接続機器側の IP アドレス、ポート番号設定を確認してください。 (2) ネットワーク環境が正常か確認してください。PC と GP、PLC(接続機器)を直接つないで PING コマンドで IP アドレスを認識しているかを確認するなどして要因を特定し、対策を行ってください。
RHxx066	(接続機器名): UDP で接続先が見つかりませんでした(IPアドレス:(IPアドレス))		

次のページに続きます。

エラー番号	エラーメッセージ	原因と対処方法	対策
RHxx067	(接続機器名): 通信開始要求に応答がありません	以下の可能性があります。	(1) 表示器側と PLC(接続機器) 側の通信設定がされているかを確認してください。設定例は「GP-Pro EX 機器接続マニュアル」を参照してください。 (2) 配線を再確認してください。ケーブルの導通チェックや、コネクタの差し込みを確認してください。結線については「GP-Pro EX 機器接続マニュアル」を参照してください。COM2 の場合は、オンラインアダプタ (CA4-ADPONL-01) が接続されているかどうかを確認してください。 (3) GP-Pro EX の接続機器設定を確認してください。
RHxx068	(接続機器名): 読出し要求に応答がありません	(1) GP と PLC で通信設定があていない	
RHxx069	(接続機器名): 書込み要求に応答がありません	(2) 結線の間違い、接触不良など配線に問題がある	
		(3) PLC(接続機器) の選択が間違っている (4) PLC(接続機器) の電源が入っていない、またはリセットが行われた	
RHxx070	(接続機器名): ケーブルが接続されていません (または接続機器の電源が切れています)	接続機器の電源が入っていない、ケーブルが抜けているなどの要因で、コマンドを送信できません。	(1) GP3**1 シリーズに GP3**0 シリーズで転送している。機種設定が本体 AGP の型式とあっているか確認してください。 (2) PLC(接続機器) 側の電源が入っているか確認してください。 (3) ケーブルの配線があっているか、ケーブルが正常につながっているを確認してください。
RHxx071	(接続機器名): 拡張ユニット (ユニット名) が装着されていません	拡張ユニットが認識できていません。	ユニットが正しく装着されているか確認してください
RHxx072	(接続機器名): オフスキャン中の機器に対して読み出し要求が行われました	オフスキャン中の機器に対しサンプリング、拡張 D スクリプト、Pro-Server EX などより Read された場合に発生します。	通信スキャンを停止している接続機器に対してサンプリング、拡張 D スクリプト、Pro-Server EX などから読み出しが行われました。LS9550 ~ LS9559 の該当するビット ² を OFF して接続機器の通信スキャンを開始してください。 ☞ GP-Pro EX リファレンスマニュアル「7.3 複数つないだ接続機器から一部切断したい」(7-10 ページ)

次のページに続きます。

エラー番号	エラーメッセージ	原因と対処方法	対策
RHxx073	(接続機器名): オフスキャン中の機器に対して書き込み要求が行われました	オフスキャン中の機器に対しスクリプト、タッチ、Pro-Server EX などより Write された場合に発生します。	通信スキャンを停止している接続機器に対してスイッチ、D スクリプト、拡張 D スクリプト、Pro-Server EX などから書き込みが行われました。LS9550 ~ LS9559 の該当するビット ² を OFF して接続機器の通信スキャンを開始してください。 ☞ GP-Pro EX リファレンスマニュアル「7.3 複数つないだ接続機器から一部切断したい」(7-10 ページ)
RHxx084	(接続機器名): 書き込み要求が多すぎて処理できませんでした	通信ドライバの処理速度を超えるタイミングで書き込みを行い続けた場合に発生します。 例) ボーレート 9600 の接続機器に対し、タグスキャンカウンタ更新のタイミングで Write し続ける場合など	高速で書き込みを行う D スクリプトなどの設定をしていないかどうか確認してください。 通信速度 9600bps など低速で通信している機器に対し、高速で ON/OFF をするビット (例: LS9400、タグのスキャンカウンタなど) を使い D スクリプトで書き込みを続けた場合にこのエラーが発生する場合があります。
RHxx085	(接続機器名): 読み出し要求が多すぎて処理できませんでした	通信ドライバの処理速度を超えるタイミングで読み込みを行い続けた場合に発生します。 例) ボーレート 9600 の接続機器に対し、タグスキャンカウンタ更新のタイミングで拡張 D スクリプトなどで Read し続ける場合など	高速で読み込みを行う D スクリプトなどの設定をしていないかどうか確認してください。 通信速度 9600bps など低速で通信している機器に対し、高速で ON/OFF をするビット (例: LS9400、タグのスキャンカウンタなど) を使い D スクリプトで読み込みを続けた場合にこのエラーが発生する場合があります。

- 1 すべての画面で発生している場合は、システムデータエリア、アラーム、グローバル D スクリプト、グローバルウィンドウ、サンプリング (ヒストリカルトレンドグラフ) など、全画面で動作する機能で設定しているアドレスを確認してください。確認方法は GP-Pro EX で [システム設定ウィンドウ] から [周辺機器一覧] を選択し、[接続機器管理アドレス一覧] で確認することができます。

☞ GP-Pro EX リファレンスマニュアル「5.14.6 [システム設定ウィンドウ] の設定ガイド ■ [周辺機器一覧] の設定ガイド」(5-131 ページ)

特定画面のみで発生する場合は、その画面でのみ動作する部品などのアドレスを確認してください。

- 2 通信スキャンを実行するか停止するかをコントロールするビットアドレスの設定範囲は内部デバイスアドレスの LS9550 ~ LS9557 です。それぞれの接続機器アドレスはビット 0 から順に各ドライバの 1 台目から割り付けられています。

LS エリア	
LS9400	ドライバ 1 の PLC1 台目
LS9431	ドライバ 1 の PLC32 台目
LS9432	ドライバ 2 の PLC1 台目
LS9463	ドライバ 2 の PLC32 台目
LS9464	ドライバ 3 の PLC1 台目
LS9495	ドライバ 3 の PLC32 台目
LS9496	ドライバ 4 の PLC1 台目
LS9527	ドライバ 4 の PLC32 台目

例) LS9550 にはドライバ 1 の 1 ~ 16 台までの通信スキャンをコントロールするビットアドレスが設定できるようになっています。

【LS9550】

15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0

ビット 0 : ドライバ 1 の 1 台目の PLC のスキャン ON/OFF します。

ビット 0 を ON することでドライバ 1 の 1 台目の PLC のスキャンを停止(スキャン OFF する)します。再開する場合にはビット 0 を OFF してください。

システムエリア先頭アドレスを指定した接続機器の通信スキャンを停止することはできません。ただし、システムデータエリアを使用しない場合は通信スキャンを停止することができます。

☞ GP-Pro EX リファレンスマニュアル「5.14.6 [システム設定ウィンドウ] の設定ガイド システムエリア設定」(5-128 ページ)

接続機器によっては、LS エリアのアドレスが 32 ビット設定できるものもあります。この場合、通信スキャンをコントロールするビットアドレスは下位の 16 ビットを使用します。

通信スキャンを OFF した場合、表示中の部品のデータは継続して表示されますが、画面切り替えを行い再度その画面を表示した場合、部品のデータは表示されません。

RAAA で始まるエラー (アプリケーションエラー)

エラー番号	エラーメッセージ	原因と対処方法	参照
RAAA001	プロジェクトデータがありません (プロジェクトを転送してください)	プロジェクトファイルが存在していません。 プロジェクトを転送してください。	 GP-Pro EX リファレンスマニュアル「33.2.2 転送手順 ■ パソコンから GP への転送 (送信)」(33-6 ページ)  GP-Pro EX リファレンスマニュアル「33.3.2 転送手順 ■ パソコンから GP への転送 (送信)」(33-13 ページ)
RAAA002	プロジェクトデータの容量がオーバーしています	プロジェクトデータの総容量が最大サイズを超えている、または総画面数が 16000 ファイルを超えています。GP-Pro EX で「プロジェクト情報」を参照し、総容量を超えないようにしてください。 プロジェクトデータの総容量最大サイズは表示器の機種により異なります。(例:GP-3500T の場合、8M バイト)	 GP-Pro EX リファレンスマニュアル「5.7 プロジェクト情報をみたい」(5-38 ページ)
RAAA003	プロジェクトデータに異常があります (プロジェクトを転送してください)	プロジェクトファイルに異常があります。 プロジェクトを転送しなおしてください。	 GP-Pro EX リファレンスマニュアル「33.2.2 転送手順 ■ パソコンから GP への転送 (送信)」(33-6 ページ)  GP-Pro EX リファレンスマニュアル「33.3.2 転送手順 ■ パソコンから GP への転送 (送信)」(33-13 ページ)
RAAA004	システム画面に異常があります (強制転送をしてください)	システム画面が存在していない、または異常です。 強制転送をしてください。	 GP-Pro EX リファレンスマニュアル「33.10.1 [転送設定] の設定ガイド」(33-59 ページ)
RAAA005	初期画面で指定された画面が存在しません (XXXX)	初期画面設定で指定した画面番号がプロジェクト内に存在していないため、画面表示できません。初期画面番号を変更するか、画面を追加してください。括弧内には指定された画面番号が表示されます。	 GP-Pro EX リファレンスマニュアル「5.14.6 [システム設定ウィンドウ] の設定ガイド 表示設定」(5-108 ページ)

次のページに続きます。

エラー番号	エラーメッセージ	原因と対処方法	参照										
RAAA006	プロジェクトデータにこのバージョンのシステムでは表示できない未サポート機能があります	ランタイムプログラムが認識できない機能が存在します。 エディタのバージョンとランタイムのバージョンが一致していない可能性があります。ランタイムのバージョンをアップしてください。	—										
RAAA007	同時に使用できる部品数がオーバーしています（最大 384 個）	1 画面に 384 個以上の部品が設定されています。 画面切替、ウィンドウオープン時に部品数がオーバーしています。使用可能な範囲内に設定しなおしてください。	 GP-Pro EX リファレンスマニュアル「5.15.1 画面作成の制限事項 ■ 作成できる画面数」（5-156 ページ）										
RAAA008	フォント（XXXX）がありません（フォントを追加したプロジェクトを転送してください）	表示しようとしたフォントがシステム内に存在しませんでした。使用しているフォントをシステム内にダウンロードしてください。 カッコ内には以下のフォント名を表示します。 <table border="1"><tr><td>日本語標準</td></tr><tr><td>欧米標準</td></tr><tr><td>韓国語標準</td></tr><tr><td>中国語標準</td></tr><tr><td>台湾語標準</td></tr><tr><td>日本語ストローク</td></tr><tr><td>欧米ストローク</td></tr><tr><td>韓国語ストローク</td></tr><tr><td>中国語ストローク</td></tr><tr><td>台湾語ストローク</td></tr></table>	日本語標準	欧米標準	韓国語標準	中国語標準	台湾語標準	日本語ストローク	欧米ストローク	韓国語ストローク	中国語ストローク	台湾語ストローク	 GP-Pro EX リファレンスマニュアル「6.4 [フォント設定] の設定ガイド」（6-19 ページ）
日本語標準													
欧米標準													
韓国語標準													
中国語標準													
台湾語標準													
日本語ストローク													
欧米ストローク													
韓国語ストローク													
中国語ストローク													
台湾語ストローク													
RAAA010	CF カードが挿入されていません、または CF カードのハッチが開いています	CF カードが挿入されていないか、CF カードのハッチが開いているため、CF カードへアクセスできませんでした。CF カードを挿入し、ハッチを閉じてください。	 GP3000 シリーズハードウェアマニュアル										

次のページに続きます。

エラー番号	エラーメッセージ	原因と対処方法	参照
RAAA011	CF カードからの起動に失敗しました	DIP SW1 が ON にも関わらず、CF カードからの起動に必要なファイルが存在していない。または起動に必要なファイルが異常である可能性があります。CF カードに起動用プロジェクトをコピーしなおしてください。	—
RAAA012	プロジェクトデータにこの機種では表示できない未サポート機能があります。	ランタイムプログラムが認識できない機能が存在します。対応する機種に変更してください。	
RAAA013	USB ストレージが見つかりません	USB ストレージが接続されていないか、認識できなかったため、USB ストレージへアクセスできませんでした。USB ストレージを接続してください。USB ストレージを接続済みの場合は一度はずしてから再接続してください。	
RAAA014	USB ストレージからの起動に失敗しました	USB ストレージからの起動に必要なファイルが存在していません。または起動に必要なファイルが異常である可能性があります。USB ストレージに起動用プロジェクトをコピーしなおしてください。	
RAAA050	時計設定でエラーが発生しました	時計データを更新する際、時計 IC に書き込みが失敗しました。 IC チップが故障している可能性があります。	
RAAA051	バックアップ電池の充電が必要です	バックアップリチウム電池の電圧が低下したことが原因でバックアップ SRAM のデータが消え、時計データが正しく保持されていません。 GP へ電源を供給し十分な充電を行った上で、再度時計データを設定しなおしてください。充電は電源投入後、24 時間でバックアップ可能な限り充電され、充電を完了するには約 96 時間 (4 日間) を必要とします。	☞ GP3000 シリーズ ハードウェアマ ニュアル
RAAA052	ハードウェアに異常があります (XXXX)	(XXXX) には、エラーが発生しているハードウェアを表示します。 例 LAN ポートの場合には「LAN」と表示されます。本体故障の可能性があります。 リペアセンターへ配送してください。	—
RAAA100	システム先頭デバイスアドレスが正しくありません	システムデバイス先頭アドレスが正しく設定されていない、または異常です。 オフラインで正しいアドレスを設定するか、プロジェクトを転送してください。	☞ GP-Pro EX リファ レンスマニュアル 「5.14.6 [システム 設定ウィンドウ] の設定ガイド シ ステムエリア設定」 (5-128 ページ)
RAAA101	不正または未設定のデバイスアドレスがあります	部品や機能の設定で使用しているデバイスアドレスが不正です。正しいデバイスアドレスに設定しなおしてください。	—

次のページに続きます。

エラー番号	エラーメッセージ	原因と対処方法	参照
RAAA102	接続機器からの読み出しに失敗しました (XXXX)	接続機器からの読み出しに失敗しました。通信ケーブルが外れていないか等、接続状況を確認してください。カッコ内には部品名が入ります。	👉 GP3000 シリーズハードウェアマニュアル
RAAA103	指定したアドレス設定が正しくありません (XXXX)	指定したアドレスが正しくありません。正しいアドレスに設定しなおしてください。	—
RAAA110	RPA で復旧不可能なエラーが発生しました。	内部で初期化エラー、システムエラーが発生しました。GP 本体の再起動、または画面の設定を見直してください。	👉 「2.14.9 システムメニュー ■ オフライン、CF 起動、エラー、リセット」 (2-154 ページ)
RAAA111	RPA サーバ認証に失敗しました。	パスワードが違います。サーバパソコンで設定したパスワードと合っているかパスワードを確認してください。	👉 GP-Pro EX リファレンスマニュアル「36.3.2 設定手順 ■ 詳細手順」 (36-7 ページ)
RAAA112	RPA サーバへの接続に失敗しました。	サーバパソコンが見つからない。または、サーバパソコンに接続できません。サーバパソコンの IP アドレスと合っているか確認してください。サーバパソコンが起動しているか確認してください。サーバパソコン側の設定を確認してください。サーバパソコン側のファイアウォールが許可になっているか確認してください。	
RAAA113	RPA サーバへの接続処理中です。	以前の接続の切断処理が完了していません。しばらく (最大 75 秒後に) してから、再度接続してください。	—
RAAA114	RPA 機能キーコードが設定されていません。	GP-Pro EX にて RPA 機能キーコードが設定されていません。RPA 機能は事前に RPA 専用キーコード (型式: EX-RPA) の購入が必要です。RPA 機能を使用する表示器 1 台につきキーコードを 1 つ用意してください。	👉 GP-Pro EX リファレンスマニュアル「36.3.2 設定手順 ■ 詳細手順」 (36-7 ページ)
RAAA120	指定した関数が存在しない、または関数内にエラーがあります (D スクリプト)	D スクリプトで呼び出している関数が存在しない。または関数内にエラーがあります。関数の書式を再確認してください。	👉 GP-Pro EX リファレンスマニュアル「21 章 プログラム命令、記述式一覧」 (21-1 ページ)
RAAA121	関数のネストが 10 段階以上になっています (D スクリプト)	D スクリプトで関数のネストが 10 段階以上になっています。if、loop 文の階層を減らしてください。 ネストとは、A 関数にて B 関数を呼び出しており、さらに B 関数では C 関数を呼び出している状態 (関数呼び出し階層) のことを言います。	👉 GP-Pro EX リファレンスマニュアル「21.8.3 loop - endloop」 (21-67 ページ)

次のページに続きます。

エラー番号	エラーメッセージ	原因と対処方法	参照
RAAA122	このバージョンのシステムでは実行できない未対応のスク립トが記述されています (D スクリプト)	プロジェクトデータの D スクリプトの中に未対応の機能が記述されています。ランタイムのバージョンをアップしてください。	—
RAAA123	接続機器の設定が未設定の状態で SIO 操作関数が使用されています (D スクリプト)	接続機器の設定が未設定の場合に D スクリプトで SIO 操作関数を使用しています。接続機器の設定をおこなってください。	☞ GP-Pro EX リファレンスマニュアル「5.14.6 [システム設定ウィンドウ] の設定ガイド ■ [スクリプト設定] の設定ガイド」(5-137 ページ)
RAAA124	D スクリプト内にエラーがあります	使用している D スクリプト内にエラーがあります。命令文の書式を再確認してください。	☞ GP-Pro EX リファレンスマニュアル「21 章 プログラム命令、記述式一覧」(21-1 ページ)
RAAA130	最大数 32 個をオーバーしています (グローバル D スクリプト)	グローバル D スクリプトの総数がオーバーしています。グローバル D スクリプトの総数は最大 32 個です (関数も 1 個とカウントします)。	☞ GP-Pro EX リファレンスマニュアル「20.9.1 D スクリプト / グローバル D スクリプトの制限事項」(20-53 ページ)
RAAA131	デバイス合計が最大数 255 個をオーバーしています (グローバル D スクリプト)	グローバル D スクリプト内の全てのデバイス合計が最大の 255 デバイスをオーバーしています。メモリ操作関数等を利用して使用デバイス数を減らしてください。	
RAAA132	指定した関数が存在しないか関数内にエラーがあります (グローバル D スクリプト)	グローバル D スクリプトで呼び出している関数が存在しない。または関数内にエラーがあります。関数の書式を再確認してください。	☞ GP-Pro EX リファレンスマニュアル「21 章 プログラム命令、記述式一覧」(21-1 ページ)
RAAA133	関数のネストが 10 段階以上になっています (グローバル D スクリプト)	グローバル D スクリプトで関数のネストが 10 段階以上になっています。 if、loop 文の階層を減らしてください。 ネストとは、A 関数にて B 関数を呼び出しており、さらに B 関数では C 関数を呼び出している状態 (関数呼び出し階層) のことを言います。	☞ GP-Pro EX リファレンスマニュアル「21.8.3 loop - endloop」(21-67 ページ)
RAAA134	このバージョンのシステムでは実行できない未対応のスク립トが記述されています (グローバル D スクリプト)	プロジェクトデータのグローバル D スクリプトの中に未対応の機能が記述されています。ランタイムのバージョンをアップしてください。	—
RAAA135	接続機器の設定が未設定の状態で SIO 操作関数が使用されています (グローバル D スクリプト)	接続機器の設定が未設定の場合にグローバル D スクリプトで SIO 操作関数を使用しています。接続機器の設定をおこなってください。	☞ GP-Pro EX リファレンスマニュアル「5.14.6 [システム設定ウィンドウ] の設定ガイド ■ [スクリプト設定] の設定ガイド」(5-137 ページ)

次のページに続きます。

エラー番号	エラーメッセージ	原因と対処方法	参照
RAAA136	グローバル D スクリプト内にエラーがあります	使用しているグローバル D スクリプト内にエラーがあります。命令文を再確認してください。	👉 GP-Pro EX リファレンスマニュアル「21 章 プログラム命令、記述式一覧」(21-1 ページ)
RAAA140	関数の最大数 255 個をオーバーしています (拡張スクリプト)	拡張スクリプトの総数がオーバーしています。拡張スクリプトの総数は最大 255 個です。2 つのスクリプトを 1 つにまとめるなどしてスクリプト総数を減らしてください。	👉 GP-Pro EX リファレンスマニュアル「20.9.2 拡張スクリプトの制限事項」(20-56 ページ)
RAAA141	指定した関数が存在しないか関数内にエラーがあります (拡張スクリプト)	拡張スクリプトで呼び出している関数が存在しない。または関数内にエラーがあります。関数の書式を再確認してください。	👉 GP-Pro EX リファレンスマニュアル「21 章 プログラム命令、記述式一覧」(21-1 ページ)
RAAA142	関数のネストが 10 段階以上になっています (拡張スクリプト)	拡張スクリプトで関数のネストが 10 段階以上になっています。 If、loop 文の階層を減らしてください。 ネストとは、A 関数にて B 関数を呼び出しており、さらに B 関数では C 関数を呼び出している状態 (関数呼び出し階層) のことを言います。	👉 GP-Pro EX リファレンスマニュアル「21.8.3 loop - endloop」(21-67 ページ)
RAAA143	このバージョンのシステムでは実行できない未対応のスクリプトが記述されています (拡張スクリプト)	プロジェクトデータの拡張スクリプトの中に未対応の機能が記述されています。ランタイムのバージョンをアップしてください。	—
RAAA144	接続機器の設定が未設定の状態です SIO 操作関数が使用されています (拡張スクリプト)	接続機器の設定が未設定の場合に拡張スクリプトで SIO 操作関数を使用しています。接続機器の設定をおこなってください。	👉 GP-Pro EX リファレンスマニュアル「5.14.6 [システム設定ウィンドウ] の設定ガイド ■ [スクリプト設定] の設定ガイド」(5-137 ページ)
RAAA145	拡張スクリプト内にエラーがあります	使用している拡張スクリプト内にエラーがあります。関数の書式を再確認してください。	👉 GP-Pro EX リファレンスマニュアル「21 章 プログラム命令、記述式一覧」(21-1 ページ)
RAAA150	パスワードが一致しません 正しいパスワードを入力してください	セキュリティ機能のパスワード入力間違いです。大文字・小文字の区別などが正しいか確認の上、パスワードを再度入力してください。	👉 GP-Pro EX リファレンスマニュアル「22.4.1 パスワード入力ウィンドウのご紹介」(22-7 ページ)
RAAA151	ホストから画面を切替ってください	強制画面切替方式 (従来の画面切替方式) で、PLC (ホスト) から画面切替をおこなった場合に表示されるパスワード入力を、キャンセルしたときに表示されます。キャンセルしたい場合には、キャンセル通知ビットを利用して PLC (ホスト) から前の画面に戻すようにしてください。	—

次のページに続きます。

エラー番号	エラーメッセージ	原因と対処方法	参照
RAAA152	COM ポートを使用できません	使用しようとした COM ポートがすでに別の機能で使用されている場合に 표시됩니다。設定を再確認してください。	☞ GP-Pro EX リファレンスマニュアル「7.4 接続機器 (PLC など) を変更したい」(7-17 ページ)
RAAA153	辞書ファイルがありません	日本語 FEP 用辞書ファイルが内部ストレージ、または CF カードに存在していません。プロジェクトデータを再転送してください。	—
RAAA154	指定したファイリングデータは、このプロジェクトでは使用できません	CF カードから SRAM にファイリングデータを転送するときに、指定したファイリングデータがプロジェクトデータと一致していない場合に 표시됩니다。プロジェクトデータと一致するファイリングデータを使用するようにしてください。	☞ GP-Pro EX リファレンスマニュアル「24.6 収集したデータを CF カード / USB ストレージに保存したい」(24-20 ページ)
RAAA155	IP アドレスが他の機器と重複しています。本機もしくは他の機器の IP アドレスを変更してください。 (IP:XXX.XXX.XXX.XX X,MAC:XX:XX:XX:XX: XX:XX) ¹	ネットワーク上に同じ IP アドレスの機器が存在します。本機もしくは他の機器の IP アドレスを変更してください。	☞ GP-Pro EX リファレンスマニュアル「33.2.2 転送手順 ■ パソコンから GP への転送 (送信)」(33-6 ページ)
RAAA156	COM ポートの 9 番ピンを VCC(5V 電源供給) に設定できませんでした。接続ケーブルや接続先の機器を再確認してください。	COM ポートの 9 番ピンを VCC(5V 電源供給) に設定できませんでした。COM ポートの接続ケーブルまたは接続先の機器を再確認して、本機をリセットしていただくか、あるいは、プロジェクトのスクリプト設定の 5V 電源供給を再確認してください。	☞ GP-Pro EX リファレンスマニュアル「5.14.6 [システム設定ウィンドウ] の設定ガイド ■ [スクリプト設定] の設定ガイド」(5-137 ページ)
RAAA157	システム先頭デバイスアドレスに割り当てている接続機器をオフスキャンにすることはできません。	システム先頭デバイスアドレスに割り当てている接続機器 (メイン PLC) がオフスキャンに設定されました。メイン PLC をオフスキャンにすることはできません。メイン PLC をオフスキャンにしたい場合はシステムデータエリアを使用しない設定にしてください。または、メイン PLC のオフスキャンの設定を解除してください。	☞ GP-Pro EX リファレンスマニュアル「5.14.6 [システム設定ウィンドウ] の設定ガイド システムエリア設定」(5-128 ページ)

1 IP アドレスは 10 進表記、MAC アドレスは 16 進表記

RAAE で始まるエラー

エラー番号	エラーメッセージ	原因と対処方法	参照
RAAE001	履歴データファイルに異常があるため、復元できませんでした。	履歴データファイルの内容が破壊され、履歴データファイルのチェックサムが一致せず、1 つ前の履歴データも正常でない場合に 표시됩니다。この場合は履歴データがクリアされた状態で起動します。	—

次のページに続きます。

エラー番号	エラーメッセージ	原因と対処方法	参照
RAAE002	履歴データのサイズが大きいため、履歴データを復元できませんでした。	GP-Pro EX で設定された履歴データサイズより保存されている履歴データファイルのサイズが大きく、1つ前の履歴データが正常でない場合に表示されます。通常は発生しませんが、履歴データファイルを入れ替えた場合などに発生する可能性があります。この場合は履歴データがクリアされた状態で起動します。	—
RAAE003	履歴データファイルの保存に失敗しました。	履歴データのファイル保存に失敗した場合に表示されます。他のソフトが履歴データファイルを開いていた場合や、履歴データファイルの保存先フォルダが無い場合に発生します。この場合は、その時点の履歴データは保存されません。	—
RAAE004	最新の履歴データがありません。前に保存した履歴データを復元します。	履歴データファイルがなく、1つ前の履歴データファイルが正常な場合に表示されます。履歴データファイルの保存に失敗した場合や、履歴データファイルを削除した場合に発生します。この場合は、1つ前に保存された履歴データを復元して起動します。	—
RAAE005	履歴データがありません。履歴データを復元できませんでした。	履歴データファイルがなく、1つ前の履歴データファイルに異常がある場合に表示されます。履歴データファイルの保存に失敗した場合や、履歴データファイルを削除した場合に発生します。この場合は、履歴データがクリアされた状態で起動します。	—
RAAE006	最新の履歴データのサイズが大きいため、前に保存した履歴データを復元します。	GP-Pro EX で設定された履歴データサイズより保存されている履歴データファイルのサイズが大きく、1つ前の履歴データファイルが正常である場合に表示されます。通常は発生しませんが、履歴データファイルを入れ替えた場合などに発生する可能性があります。この場合は、1つ前に保存された履歴データを復元して起動します。	—
RAAE007	最新の履歴データファイルに異常があるため、前に保存した履歴データを復元します。	履歴データファイルの内容が破壊され、履歴データファイルのチェックサムが一致せず、1つ前の履歴データが正常である場合に表示されます。この場合は、1つ前に保存された履歴データを復元して起動します。	—
RAAE008	「LanSys.cfg」ファイルが無い為、初期値で起動しました。	LanSys.cfg ファイルがない場合に表示されます。この場合、自局名、ポートの設定が初期値になります。オフラインで自局名、ポートを再設定してください。	—
RAAE009	「system.cfg」ファイルが無い為、初期値で起動しました。	system.cfg ファイルがない場合に表示されます。この場合、本体設定の内容がすべて初期値になります。プロジェクトファイルを再度転送してください。	—

REAA で始まるエラー

エラー番号	エラーメッセージ	原因と対処方法	参照
REAA016	XXX ポート番号 (XXX) のオープンに失敗しました	XXX(UDP または TCP) ポート番号 (XXX) のオープンに失敗しました。システムポート番号が既に使用されている可能性があります。システム番号を変更してください。	—
REAA017	書き込み禁止エリアにアクセスしました (アドレス:XXX)	D スクリプトまたはネットワーク越しで書き込み禁止エリア (LS0000 ~ LS0019、LS2032 ~ LS2095、LS9000 ~ LS9999) に書き込みすることはできません。書き込み禁止エリアにデータを書き込まないでください。	—
REAA018	アドレス範囲外のデバイスにアクセスしました (アドレス:XXX)	範囲外のデバイスにアクセスしました。範囲外のデバイスアドレスを指定しないでください。	—
REAA021 REAA022	不正な ID (局、機器、デバイス) が指定されました	不正な ID が指定されました。存在しないデバイスにアクセスしています。プロジェクトファイルを強制転送するか、使用可能なデバイスを確認してください。	☞「2.12.3 プロジェクトファイルを強制転送したい」(2-72 ページ)
REAA026 REAA027 REAA028	不正または未設定のデバイスアドレスがあります	不正なデバイスが指定されました。存在しないデバイスにアクセスしています。プロジェクトファイルを強制転送するか、使用可能なデバイスを確認してください。	

その他のエラー (システムエラー)

- ・ GP 内部のシステムが正常に起動できない場合

システムの起動に関するファイルに問題がある場合、強制転送画面が下記エラーメッセージと共に表示されます。転送ツールによるシステムデータの再転送を行ってください。

MEMO

- ・ 転送ツールの詳細については GP-Pro EX リファレンスマニュアル「33.10 転送ツールの設定ガイド」(33-57 ページ)を参照してください。

エラーメッセージ	対象ファイル	原因と対処方法
Start up Error : Boot.cfg	BOOT.CFG	起動に必要な Boot.cfg ファイルが消失もしくは破損しています。プロジェクトファイルを強制転送してください。
Start up Error : Default Font	*****.FNT	デフォルトフォントデータが消失もしくは破損しています。プロジェクトファイルを強制転送してください。
Start up Error : LanSys.cfg	LANSYS.CFG	LAN 設定ファイルが破損しています。プロジェクトファイルを強制転送してください。
Start up Error : System.cfg	SYSTEM.CFG	ランタイム起動に必要なファイル (システム設定ファイル) が存在しません。プロジェクトファイルを強制転送してください。
Start up Error : CF memory loader	BOOT.CFG	CD カード起動で CF カード内にある Boot.cfg ファイルデータ異常があります。CF カードのデータを入れ直してください。
Start up Error : CF MOUNT Error	—	CF カード起動で CF カード読み込み失敗しました。CF カードを交換するなどして再度読み込み直してください。
Start up Error : Runtime Load NG	BOOT.CFG LDMODULE.SYS STARTUP.SYS RUN***.SYS	ランタイムシステムデータが消失、もしくは破損しています。プロジェクトファイルを強制転送してください。
Start up Error : Runtime Start NG	—	ランタイム起動中にエラー発生 ・ デフォルトフォントロードエラー ・ ユーザフォントロードエラー
Compulsion Transfer Mode (DipSW2=ON)	—	ディップスイッチ 2 を ON による強制転送 ¹
Compulsion Transfer Mode (Panel Touch)	—	起動時に画面左下もしくは右下をタッチしつづけての強制転送表示 ¹

1 この項目は異常ではなく、正常時に表示される画面です。

次のページに続きます。

- GP の起動中にファイル異常を検出した場合
システムの起動後の初期処理に必要なファイルに問題がある場合、通常転送画面が下記エラーメッセージと共に表示されます。問題を修正後、転送ツールで再転送を行ってください。

MEMO

- 転送ツールの詳細については GP-Pro EX リファレンスマニュアル「33.10 転送ツールの設定ガイド」(33-57 ページ)を参照してください。

エラーメッセージ	原因と対処方法	参照
起動に必要なファイル (****) が読み出せません。画面データを再転送してください。	起動に必要なファイルの読み出しができませんでした。再転送して復旧してください。カッコ内には異常、または存在していないファイル名が表示されます。	—
不正または未設定のデバイスアドレスがあります (****)。設定を見直して画面データを再転送してください。	部品や機能の設定で使用しているデバイスアドレスが不正です。カッコ内は不正なアドレスが使用されている部品または機能名が表示されます。ただしカッコは表示されない場合もあります。	
接続機器の最大設定数を超過しています。設定を見直してプロジェクトデータを再転送してください。	接続機器の最大設定数を超過しています。(大型機種：4、中型機種：2)プロジェクトの設定を確認して再度転送してください。	 GP-Pro EX リファレンスマニュアル「5.14.6 [システム設定ウィンドウ] の設定ガイド ■ [周辺機器一覧] の設定ガイド」(5-131 ページ)

WinGP 起動時

エラーメッセージ	原因と対処方法	参照
RootFrame.dll をロードできませんでした。	rootFrame.dll ファイルが破損しているか、ファイルが無い場合に表示されます。この場合は WinGP をインストールし直してください。	 GP-Pro EX リファレンスマニュアル「37.3.2 設定手順 ■ インストール / アンインストール」(37-10 ページ)
****.dll が見つからなかったため、このアプリケーションを開始できませんでした。アプリケーションをインストールし直すとこの問題は解決される場合があります。	WinGP のシステムを構成するファイルが破損しているか、ファイルが無い場合に表示されます。この場合は WinGP をインストールし直してください。	
初期化ファイル (.ini) に異常が見つかりました。標準値で起動します。	PCRuntime.ini ファイルが破損しているか、ファイルが無い場合に表示されます。この場合は IPC 設定で設定された内容をすべて初期値として起動します。プロジェクトファイルを再度転送してください。	—
起動中にエラーが発生しました。強制終了します。	予期されない原因で起動中にエラーが発生した場合に表示されます。	—
Windows を再起動して下さい。	WinGP インストール後、Windows を再起動せずに WinGP を起動した場合に表示されます。Windows 再起動後に WinGP を起動してください。	—

次のページに続きます。

エラーメッセージ	原因と対処方法	参照
インストール先のパスが 200 文字を超えているため、起動できません。	WinGP のインストール先の階層が深い、又はフォルダ名が長い場合に表示されます。WinGP を一度アンインストールし、200 文字以内の場所に再インストールして下さい。	 GP-Pro EX リファレンスマニュアル 「37.3.2 設定手順 ■ インストール / アンインストール」(37-10 ページ)
API 通信機能が利用できません。WinGP の API 通信を利用するには WinGP SDK もしくは Pro-Server EX が必要です。正しくインストールされているかご確認ください。	API 通信を使用する設定にして WinGP SDK がインストールされていない場合に表示されます。WinGP を再インストールするか、Pro-Server EX をインストールして下さい。	
プロジェクトの機種設定は ***** です。本体は PS-***** です。プロジェクトの機種を変更してから転送して下さい。	プロジェクトで設定した機種とコピー先の機種が不一致の場合に表示されます。プロジェクトの機種変換を行ってからコピーして下さい。	 GP-Pro EX リファレンスマニュアル 「5.14.6 [システム設定ウィンドウ] の設定ガイド ■ [機種設定] の設定ガイド」(5-106 ページ)

■ GP3000 シリーズの DIO ボードタイプをご利用の場合

I/O ドライバエラー

エラー番号	エラーメッセージ	原因と対処方法
RGE*002	設定値異常	I/O に割り当たっているシンボル変数の型に異常があります。I/O の設定値に異常があります。設定値異常の場合は、再度プログラムを転送してください。
RGE*003	デバイス範囲外エラー	I/O に割り当たっているシンボル変数のアドレスが範囲外の設定です。デバイス範囲外エラーの場合は、再度プログラムを転送してください。
RGE*004	ターミナル設定が重複	I/O のターミナル数の制限数（ビット入力 6 点、ビット出力 2 点）を超えて設定しています。ターミナル設定が重複の場合は、再度プログラムを転送してください。
RGE*005	ターミナル設定順異常	I/O ターミナル番号が昇順で設定されていません。ターミナル設定順異常の場合は、再度プログラムを転送してください。
RGE*006	ターミナル登録数不足	適正な I/O ターミナル数ではありません。ターミナル登録数不足の場合は、再度プログラムを転送してください。
RGE*009	ドライバ設定が重複	ドライバが 2 重登録されています。ドライバ設定が重複の場合は、再度プログラムを転送してください。
RGE*011	ビット / 整数値が不一致	I/O で指定している変数型設定が正しくありません。プロジェクトデータを、再度転送してください。
RGE*012	設定レベル値の異常	I/O ドライバに異常があります。プロジェクトデータを、再度転送してください。
RGE*013	データ取得アドレス異常	I/O ドライバ情報が正しくありません。プロジェクトデータを、再度転送してください。 コントローラ情報が正しくありません。プロジェクトデータを、再度転送してください。
RGE*014	ドライバ / ユニット未登録	I/O ドライバまたは I/O が未登録状態になりました。プロジェクトデータを、再度転送してください。

次のページに続きます。

エラー番号	エラーメッセージ	原因と対処方法
RGE*050	I/O ボードの ID 相違	接続している I/O ボードがプロジェクトの I/O ボードと異なります。プロジェクトデータを、再度転送してください。
RGE*100	I/O ユニット通信エラー	DIO ボードからの入力時にチャタリング発生しました。ノイズまたは本体の故障の可能性があります。発生頻度が高い場合は故障の可能性がある高いので修理依頼してください。
RGE*101	4ch. アナログ設定エラー	DIO ボードに出力したが、出力結果をフィードバックした時に出力されていなかった。ノイズまたは本体の故障の可能性があります。発生頻度が高い場合は故障の可能性がある高いので修理依頼してください。

Runtime エラー

ロジックプログラム運転中に表示されるエラーです。

エラー番号	エラーメッセージ	原因と対処方法
RGAA001	ウォッチドッグエラーが発生しました	プログラム上で無限ループに入っているか、ロジックプログラム待機命令が沢山使用されている可能性があります。GP-Pro EX の [システム設定ウィンドウ] より [本体設定] を選択し、[ロジック設定] タブを開いて [WDT (ウォッチドッグタイマ) 設定] の時間を長く設定してください。

■ LT3000 シリーズをご利用の場合

I/O ドライバエラー

- ・ STD ドライバをご利用の場合

エラー番号	エラーメッセージ	原因と対処方法
001	モジュールタイプ異常	モジュール設定のタイプが未サポートです。プロジェクトファイルが正しく送られていない可能性が考えられます。再度プロジェクトファイルを転送してください。
002	設定値異常	ターミナルに割り当たっている変数の型が不正、またはターミナル設定が不正です。プロジェクトファイルが正しく送られていない可能性が考えられます。再度プロジェクトファイルを転送してください。
003	デバイス範囲外エラー	ターミナルに割り当たっている変数アドレスが不正です。プロジェクトファイルが正しく送られていない可能性が考えられます。再度プロジェクトファイルを転送してください。
004	ターミナル設定過多	ターミナル数が不正 (ターミナル数が多い) です。プロジェクトファイルが正しく送られていない可能性が考えられます。再度プロジェクトファイルを転送してください。
005	ターミナル設定順異常	ターミナル番号が昇順になっていません。プロジェクトファイルが正しく送られていない可能性が考えられます。再度プロジェクトファイルを転送してください。

次のページに続きます。

エラー番号	エラーメッセージ	原因と対処方法
006	ターミナル登録数不足	ターミナル数が不正（ターミナル数が少ない）です。プロジェクトファイルが正しく送られていない可能性が考えられます。再度プロジェクトファイルを転送してください。
007	モジュール設定重複	モジュールが2重登録されました。プロジェクトファイルが正しく送られていない可能性が考えられます。再度プロジェクトファイルを転送してください。
008	モジュール設定過多	モジュール数が不正（ターミナル数が多い）です。プロジェクトファイルが正しく送られていない可能性が考えられます。再度プロジェクトファイルを転送してください。
009	ドライバ設定重複	ドライバが2重登録されました。プロジェクトファイルが正しく送られていない可能性が考えられます。再度プロジェクトファイルを転送してください。
010	入出力設定不一致	ターミナル設定が不正（ユニットの入出力設定が不一致）です。プロジェクトファイルが正しく送られていない可能性が考えられます。再度プロジェクトファイルを転送してください。
011	ビット / 整数型不一致	ターミナル設定が不正（ユニットの変数型設定が不一致）です。プロジェクトファイルが正しく送られていない可能性が考えられます。再度プロジェクトファイルを転送してください。
012	設定レベル値の異常	ドライバが不正です。プロジェクトファイルが正しく送られていない可能性が考えられます。再度プロジェクトファイルを転送してください。
013	データ取得アドレス異常	ドライバ情報が不正、またはコントローラ情報が不正です。プロジェクトファイルが正しく送られていない可能性が考えられます。再度プロジェクトファイルを転送してください。
014	ドライバ ID 異常	ドライバ / ユニット登録時にエラーとなり、ドライバ / ユニットが未登録状態です。プロジェクトファイルが正しく送られていない可能性が考えられます。再度プロジェクトファイルを転送してください。
015	モジュール設定順異常	モジュール番号が昇順になっていません。プロジェクトファイルが正しく送られていない可能性が考えられます。再度プロジェクトファイルを転送してください。
016	ファイルバージョン異常	ドライバのファイルバージョンに対応してません。プロジェクトファイルが正しく送られていない可能性が考えられます。再度プロジェクトファイルを転送してください。

次のページに続きます。

エラー番号	エラーメッセージ	原因と対処方法
050	I/O ボードの ID 相違	接続されている I/O ボードが異なります。 表示器の型式が異なっている可能性があります。 表示器の型式を確認し、再度プロジェクトファイルを転送してください。
051	未サポート機種異常	本ドライバ対応の機種ではありません。 表示器の型式が異なっている可能性があります。 表示器の型式を確認し、再度プロジェクトファイルを転送してください。
052	IO 初期異常	I/O ボードの初期化に失敗しました。 プロジェクトファイルが正しく送られていない可能性が考えられます。再度プロジェクトファイルを転送してください。それでも直らない場合、ハードウェアの故障が考えられます。サポートに問い合わせてください。
053	IO ROM 異常	I/O ボードのシステム ROM 異常です。 プロジェクトファイルが正しく送られていない可能性が考えられます。再度プロジェクトファイルを転送してください。それでも直らない場合、ハードウェアの故障が考えられます。サポートに問い合わせてください。
054	IO RAM 異常	I/O ボードのシステム RAM 異常です。 プロジェクトファイルが正しく送られていない可能性が考えられます。再度プロジェクトファイルを転送してください。それでも直らない場合、ハードウェアの故障が考えられます。サポートに問い合わせてください。
055	IO マイコン異常	I/O ボードのマイコン異常です。 プロジェクトファイルが正しく送られていない可能性が考えられます。再度プロジェクトファイルを転送してください。それでも直らない場合、ハードウェアの故障が考えられます。サポートに問い合わせてください。
056	IO IF RAM 異常	I/O ボードのシステム I/F RAM 異常です。 プロジェクトファイルが正しく送られていない可能性が考えられます。再度プロジェクトファイルを転送してください。それでも直らない場合、ハードウェアの故障が考えられます。サポートに問い合わせてください。
057	IO E2PROM 異常	I/O ボードのシステム E2PROM 異常です。 プロジェクトファイルが正しく送られていない可能性が考えられます。再度プロジェクトファイルを転送してください。それでも直らない場合、ハードウェアの故障が考えられます。サポートに問い合わせてください。
100	I/O ボード異常	I/O ボードからの応答がありません。プロジェクトファイルが正しく送られていない可能性が考えられます。再度プロジェクトファイルを転送してください。それでも直らない場合、ハードウェアの故障が考えられます。サポートに問い合わせてください。
101	特殊 IO パラメータ異常	設定した特殊 I/O のパラメータに異常があります。 パラメータが不正です。パラメータを設定し直して、パラメータ変更要求を行ってください。

次のページに続きます。

エラー番号	エラーメッセージ	原因と対処方法
102	加減速テーブル作成異常	設定した特殊 I/O のパラメータに異常があります。パラメータが不正です。パラメータを設定し直して、加減速テーブル作成要求を行ってください。
103	初期パラメータ異常	初期処理時の特殊 I/O パラメータに異常があります。パラメータが不正です。パラメータを設定し直して、パラメータ変更要求を行ってください。
200	整数型データ読込エラー	整数型ターミナルのデータ値読み出しに失敗しました。 プロジェクトファイルが正しく送られていない可能性が考えられます。再度プロジェクトファイルを転送してください。
201	ビット型データ読込エラー	ビット型ターミナルのデータ値読み出しに失敗しました。 プロジェクトファイルが正しく送られていない可能性が考えられます。再度プロジェクトファイルを転送してください。
202	整数型データ書込エラー	整数型ターミナルのデータ値書き込みに失敗しました。 プロジェクトファイルが正しく送られていない可能性が考えられます。再度プロジェクトファイルを転送してください。
203	ビット型データ書込エラー	ビット型ターミナルのデータ値書き込みに失敗しました。 プロジェクトファイルが正しく送られていない可能性が考えられます。再度プロジェクトファイルを転送してください。

・ EXM ドライバをご利用の場合

エラー番号	エラーメッセージ	原因と対処方法
1	モジュール型式異常	モジュール設定のタイプが未サポートです。 プロジェクトファイルが正しく送られていない可能性が考えられます。再度プロジェクトファイルを転送してください。
2	設定値異常	ターミナルに割り当たっている変数の型が不正、またはターミナル設定が不正です。 プロジェクトファイルが正しく送られていない可能性が考えられます。再度プロジェクトファイルを転送してください。
3	デバイス範囲外エラー	ターミナルに割り当たっている変数アドレスが不正です。 プロジェクトファイルが正しく送られていない可能性が考えられます。再度プロジェクトファイルを転送してください。
4	ターミナル設定過多	ターミナル数が不正（ターミナル数が多い）です。 プロジェクトファイルが正しく送られていない可能性が考えられます。再度プロジェクトファイルを転送してください。
5	ターミナル設定順異常	ターミナル番号が昇順になっていません。 プロジェクトファイルが正しく送られていない可能性が考えられます。再度プロジェクトファイルを転送してください。

次のページに続きます。

エラー番号	エラーメッセージ	原因と対処方法
6	ターミナル登録数不足	ターミナル数が不正（ターミナル数が少ない）です。プロジェクトファイルが正しく送られていない可能性が考えられます。再度プロジェクトファイルを転送してください。
7	モジュール設定重複	モジュールが2重登録されました。プロジェクトファイルが正しく送られていない可能性が考えられます。再度プロジェクトファイルを転送してください。
8	モジュール設定過多	モジュール数が不正（ターミナル数が多い）です。プロジェクトファイルが正しく送られていない可能性が考えられます。再度プロジェクトファイルを転送してください。
9	ドライバ設定重複	ドライバが2重登録されました。プロジェクトファイルが正しく送られていない可能性が考えられます。再度プロジェクトファイルを転送してください。
10	入出力設定不一致	ターミナル設定が不正（ユニットの入出力設定が不一致）です。プロジェクトファイルが正しく送られていない可能性が考えられます。再度プロジェクトファイルを転送してください。
11	ビット / 整数型不一致	ターミナル設定が不正（ユニットの変数型設定が不一致）です。プロジェクトファイルが正しく送られていない可能性が考えられます。再度プロジェクトファイルを転送してください。
12	設定レベル値の異常	ドライバが不正です。プロジェクトファイルが正しく送られていない可能性が考えられます。再度プロジェクトファイルを転送してください。
13	データ取得アドレス異常	ドライバ情報が不正、またはコントローラ情報が不正です。プロジェクトファイルが正しく送られていない可能性が考えられます。再度プロジェクトファイルを転送してください。
14	ドライバID 異常	ドライバまたはユニット登録時にエラーとなり、ドライバまたはユニットが未登録状態です。プロジェクトファイルが正しく送られていない可能性が考えられます。再度プロジェクトファイルを転送してください。
15	モジュール設定順異常	モジュール番号が昇順になっていません。プロジェクトファイルが正しく送られていない可能性が考えられます。再度プロジェクトファイルを転送してください。
16	ファイルバージョン異常	ドライバのファイルバージョンに対応していません。プロジェクトファイルが正しく送られていない可能性が考えられます。再度プロジェクトファイルを転送してください。

次のページに続きます。

エラー番号	エラーメッセージ	原因と対処方法
50	I/O ボードの ID 相違	接続されている I/O ボードが異なります。表示器の型式が異なっている可能性が考えられます。表示器の型式を確認し、再度プロジェクトファイルを転送してください。
51	未サポート機種異常	本ドライバ対応の機種ではありません。表示器の型式が異なっている可能性が考えられます。表示器の型式を確認し、再度プロジェクトファイルを転送してください。
52	I/O ボード初期化異常	I/O ボードの初期化に失敗しました。プロジェクトファイルが正しく送られていない可能性が考えられます。再度プロジェクトファイルを転送してください。それでも直らない場合、ハードウェアの故障が考えられます。サポートに問い合わせてください。
100	モジュール初期化異常	モジュールが正しく接続されていない可能性が考えられます。モジュールを正しく接続して電源を入れ直してください。それでも直らない場合、モジュールの故障が考えられます。サポートに問い合わせてください。
101	モジュール初期応答異常	
102	モジュール初期送信異常	
103	モジュール初期受信異常	
104	モジュール初期終了異常	
105	モジュール接続数異常	接続されているモジュールが多すぎます。接続されているモジュール数を接続可能範囲内にして電源を入れ直してください。
106	未サポートモジュール	サポートされていないモジュールが接続されています。サポートされていないモジュールを外して電源を入れ直してください。
107	モード設定値異常	モード設定値に異常があります。プロジェクトファイルが正しく送られていない可能性が考えられます。再度プロジェクトファイルを転送してください。
108	アナログデータ範囲設定異常	アナログモジュールの上限値、下限値設定に異常があります。プロジェクトファイルが正しく送られていない可能性が考えられます。再度プロジェクトファイルを転送してください。
109	接続モジュール設定異常	設定情報と接続されているモジュールが違い、動作しません。プロジェクトファイルの設定情報と接続されているモジュールが異なります。設定したモジュールを接続して電源を入れ直してください。
120	接続モジュール照合異常	設定情報と接続されているモジュールが違いますが一部以上動作しています。プロジェクトファイルの設定情報と接続されているモジュールが異なります。設定したモジュールを接続して電源を入れ直してください。
121	モジュール応答異常	モジュールが正しく接続されていない可能性が考えられます。モジュールを正しく接続して電源を入れ直してください。それでも直らない場合、モジュールの故障が考えられます。サポートに問い合わせてください。
122	モジュール送信異常	
123	モジュール受信異常	

次のページに続きます。

エラー番号	エラーメッセージ	原因と対処方法
124	モジュール通信設定異常	通信データに異常があります。モジュールが正しく接続されていない可能性が考えられます。モジュールを正しく接続して電源を入れ直してください。それでも直らない場合、モジュールの故障が考えられます。サポートに問い合わせてください。
125	モジュール ACK 異常	モジュールが正しく接続されていない可能性が考えられます。モジュールを正しく接続して電源を入れ直してください。それでも直らない場合、モジュールの故障が考えられます。サポートに問い合わせてください。
126	モジュール通信異常	
127	アナログ出力異常	アナログ出力要求フラグが書き込みを完了していません。プロジェクトファイルが正しく送られていない可能性が考えられます。再度プロジェクトファイルを転送してください。それでも直らない場合、ハードウェアの故障が考えられます。サポートに問い合わせてください。
128	出力データ異常	出力データが設定範囲外または停止しています。設定範囲内のデータを出力してください。
129	アナログ外部電源異常	アナログモジュールに外部電力が供給されていません。アナログモジュールに電源を接続してください。
130	入力データ異常	入力データが設定範囲外または停止しています。設定範囲内のデータを入力してください。または、アナログ入力のケーブルが断線している可能性が考えられます。断線していないアナログ入力のケーブルを接続してください。
200	整数型データ読み込みエラー	整数型ターミナルのデータ値読み出しに失敗しました。 プロジェクトファイルが正しく送られていない可能性が考えられます。再度プロジェクトファイルを転送してください。
201	ビット型データ読み込みエラー	ビット型ターミナルのデータ値読み出しに失敗しました。 プロジェクトファイルが正しく送られていない可能性が考えられます。再度プロジェクトファイルを転送してください。
202	整数型データ書き込みエラー	整数型ターミナルのデータ値書き込みに失敗しました。 プロジェクトファイルが正しく送られていない可能性が考えられます。再度プロジェクトファイルを転送してください。
203	ビット型データ書き込みエラー	ビット型ターミナルのデータ値書き込みに失敗しました。 プロジェクトファイルが正しく送られていない可能性が考えられます。再度プロジェクトファイルを転送してください。

1.7 それでも解決しない場合は...

本書やほかのマニュアルをご覧頂いても解決しない場合は、以下のステップで解説いたします。

1.7.1 サイトをみよう！

本書や他のマニュアルをご覧頂いても解決しない場合は、弊社ホームページにアクセスしてみてください。



GP-Pro EX 商品のサポート専用サイトです。

<http://www.proface.co.jp/otasuke/>

おたすけコンテンツとして、
よくあるご質問（FAQ 集）
すぐ使えるサンプル画面のダウンロード
マニュアルの製本サービス
表示器の修理 24 時間受付サービス

など、お客様の工数削減！を目指して随時内容を更新しています。

1.7.2 電話しよう！

本書や他のマニュアルをご覧頂いても解決しない場合や、弊社ホームページにアクセスして頂いても問題が解決しない場合は、弊社「サポートダイヤル」にお問い合わせください。

■月～金 9:00 ～ 17:00
大阪 TEL (06) 6613-3115
東京 TEL (03) 5821-1105
名古屋 TEL (052) 932-4093

■月～金 17:00 ～ 19:00
専用ダイヤル TEL (06) 6613-3206

■土・日・祝日（12月31日～1月3日を除く）9:00 ～ 17:00
専用ダイヤル TEL (06) 6613-3206

1.7.3 修理しよう！

■ サービス・リペアセンター

(株) デジタル製品の故障、修理などのご相談に対応いたします。

お問い合わせの際には問題点、現象などをあらかじめご確認の上、ご連絡ください。また製品送付時には、問題点、現象を書き留めた修理依頼書を同封してください。その際、輸送時の振動で製品が破損しないよう、梱包状態には十分ご注意くださいようお願いいたします。

(修理依頼書は下記の受付窓口へご請求ください。)

■ お問い合わせ先

サービス・リペアセンター 大阪

TEL (06) 6613-1638 FAX (06) 6613-1639

以下のサービスの受付窓口は、お買い求めの代理店、(株) デジタルの営業担当、
または (株) デジタル サービス・リペアセンターです。

■ 契約保守

製品ご購入時に年間一定料金で契約を結ぶことにより、不具合に対して無償でサービス・リペアセンター修理をするシステムです。

■ サービス・リペアセンター修理

お客様より修理品をサービス・リペアセンターへ返却していただき、修理するシステムです。故障した製品を宅配便等でお送りいただき、修理後ご指定の場所へお返しいたします。処置内容により修理費用は異なります。

■ 保証および修理について

1 無償保証期間

無償保障期間は、納入後 12ヶ月とさせていただきます（有償修理品の故障に対しては、同一部位のみ修理後 3ヶ月）。無償保障期間終了後は有償での修理となります。

2 無償補償範囲

(1) 無償保証につきましては、上記無償保障期間中、弊社製品の使用環境・使用状態・使用方法などがマニュアル・取扱説明書・製品本体注意ラベル等に記載された諸条件や注意事項に従っていた場合に限定させていただきます。

(2) 無償保障期間内であっても、次のような場合には有償修理とさせていただきます。

1. 納入後の輸送（移動）時の落下、衝撃等、貴社の取扱い不适当により生じた故障損傷の場合。
2. カタログ・マニュアル記載の仕様範囲外でご使用された場合。
3. 取扱説明書に基づくメンテナンス、消耗部品の交換保守が正しく行われていれば防げたと認められる故障の場合。
4. 火災、地震、水害、落雷、その他天変地異、公害や異常気圧による故障および損傷。
5. 接続している他の機器、および不適当な消耗品やメディアの使用に起因して本製品に生じた故障および損傷。
6. 消耗部品の交換。
7. 販売当時の科学・技術の水準では予見できない原因による故障の場合。
8. その他、貴社による故障、損傷または不具合の責と認められる場合。

(3) 次のような場合には、たとえ有償であっても修理をお断りすることがございます。

弊社以外での修理、改造等をされたと認められる場合。

3 生産中止について

(1) 弊社製品の生産中止は、弊社ホームページ上で、最終出荷の6ヶ月前に掲示いたします。

(2) ただし、使用部品の生産中止に伴う弊社製品の生産中止に関しましては、部品メーカーからの生産中止の連絡があり次第、弊社ホームページ上に掲示いたします。

4 生産中止後の修理期間（有償修理）

(1) 生産中止を弊社ホームページで掲示した月を起点として7年間は、弊社サービスリペアセンターにて当該製品の修理を行います（2005年10月現在）。2005年9月以前に生産中止となった製品は、最終出荷日より5年間の修理期間となります。

(2) 上記期間に限らず、交換部品が入手不可能となった場合には、修理できなくなることがございますのでご了承ください。

5 修理条件

(1) 修理は、弊社製品のみを対象といたします。オプション品は対象外となります。

(2) 修理に際し、お客様のプログラムやデータが消失することがありますので、あらかじめデータを保存しておいてください。

(3) 弊社製品に記憶されているお客様のデータにつきましては、取り扱いには十分に注意をいたしますが、お客様の重要機密に関する事項等は、修理前に消去いただくようお願いいたします。消去できない故障の場合は、その旨をあらかじめご連絡ください。

(4) 修理は、センドバックによる弊社工場修理を原則とさせていただきます。この場合、弊社工場への送料はお客様負担にてお願いいたします。

修理にて交換された部品の所有権は（株）デジタルに帰属するものとします。

